

尾道市立大学 2018

Onomichi City University

Campus Life

Economics,
Management
& Information Science

Japanese Literature

Arts & Design

University Museum

Satelite Studio

Community
Collaboration
& Outreach Office

University Library

Infomation Technology
Services

International Office

Career & Employability
Services

表-2	目次
表-2 (裏)	キャンパスマップ

P-001~007	尾道市立大学概要
P-001	大学理念
P-002	学長挨拶
P-003	副学長挨拶
P-004	目標・アドミッションポリシー・組織図
P-005	平成29年度(2017年度)入試データ
P-006-007	カリキュラム一覧

P-008~015	キャンパスライフ
P-009	バックアップ体制
P-010-012	学生の声
P-013-015	クラブ活動

P-016~043	経済情報学部・経済情報学科
P-018	学部長挨拶
P-019	アドミッションポリシー
P-020-021	経済情報学科行事(一年の流れ)
P-022-027	経済コース
P-028-033	経営コース
P-034-039	情報コース
P-040	健康・スポーツ
P-041	卒業論文
P-042-043	経済情報学科教員一覧

P-044~071	芸術文化学部・日本文学科
P-046	学科長挨拶
P-047	アドミッションポリシー
P-048-049	日本文学科行事(一年の流れ)
P-050-063	研究室紹介
P-064-065	研究会
P-066-067	学会・講演会
P-068	尾道草紙・翠幻地
P-069	所蔵文庫
P-070	尾道文学談話会
P-071	卒業論文・卒業制作

P-072~109	芸術文化学部・美術学科
P-074	学部長挨拶
P-075	アドミッションポリシー
P-076-077	工房・設備
P-078-083	日本画コース
P-084-089	油画コース
P-090-095	デザインコース
P-096-105	美術学科教員一覧
P-106-107	卒業制作
P-108-109	卒業生の声

P-110~131	施設・センター
P-112-113	尾道市立大学美術館
P-114-115	尾道市立大学サテライトスタジオ
P-116-117	地域総合センター
P-118-119	尾道市立大学附属図書館
P-120-121	情報処理研究センター
P-122-125	国際交流センター
P-126-127	キャリアサポートセンター
P-128-131	就職情報・就職戦線体験記
P-132	大学院
表-3 (裏)	尾道市立大学アクセスマップ
表-3	尾道市立大学の沿革



久山田郵便局

C棟

翠明館

塗装室

図書館



(E棟1階)

水源地



→ 至尾道駅

第二クラブ棟

彫刻室

第二体育館

ニューヤマザキデイリーストア

(翠明館1階)

おにぎりにお弁当、お菓子に飲み物、
文房具からギフトカードまで！
毎日の学校生活を賑やかにします！



ウエダ画房

(翠明館1階)

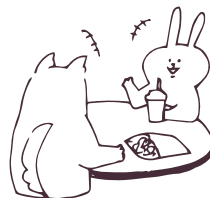
学内にある画材店です。
キャンパス、筆、絵の具、スケッチブック、
etc...

画材が必要な時はこちらに！



翠明館

自習室やシャワールーム、
コンビニの隣には学生たちが集うラウンジも！



オヤマノカフェ

(学生食堂)

メニューは唐揚げからパフェまで！
安くて美味しい学生の味方です。



医務室

(E棟1階)

学生の心と体の健康をサポート！
健康診断、応急手当、学研災の保険に関する手続きなど。
怪我、調子が悪い時、悩みがある時はこちらに！



水源地

鯉と亀がいる。

尾道市立大学 キャンパスマップ

学生会館

木工室

第一
体育館

金工室
第一クラブ

第一
グラウンド

正門

バス停

E棟

事務室

D棟

水

第二
グラ

尾道市立大学

ONOMICHI CITY UNIVERSITY



尾道市立大学の理念

「知と美」の 探究と創造

尾道市は、古くから瀬戸内の要衝として経済的な発展を遂げるなかで、美しい風光を背にすぐれた芸術文化を生み出し継承してきました。このような尾道の地の特性を生かして設立された尾道市立大学は、経済情報学部と芸術文化学部の2学部をもち、芸術文化学部には日本文学科と美術学科の2学科をおく公立大学です。

尾道市立大学は、このような学部・学科構成の特徴を生かしつつ、人と情報が集まって「知と美」を探究する場、そのなかで新たな「知と美」を創造しその成果を社会に発信する場、そして学問と人間的触れ合いを通じて有為な人材を育成する場となることによって、学術・文化の向上と社会の発展に貢献します。



学長
中谷 武

尾道市立大学は、社会科学を学び、芸術・文化を創造することを通じて、社会に貢献できる有為な若者を育てる大学として設立されました。もともとは戦後間もない1946年に、新しい日本を切り拓く女子の高等教育機関を尾道に作ろうという地元市民の情熱から本学は始まりました。それから長い短大時代を経て、2001年に4年制の尾道大学がスタートし現在に至っています。

『「知と美」の探求と創造』が大学の理念ですが、この理念は経済情報学部と芸術文化学部という学部編成に現れています。社会科学と芸術文化は、これからの成熟した日本社会が世界的に存在価値を高めていくために必要不可欠な学問分野です。芸術文化学部には日本文学科と美術学科の二つの学科があります。一つの大学で、経済、経営、情報、そして日本文学と美術という異色の学問分野に直接触れることのできる大学は他に例のないものです。

尾道市立大学は大学院を含めて全学で1400人ほどの小規模校です。キャンパスは久山田の落ち着いた美しい自然環境の中にあります。経済情報学部が1学年200名、芸術文化学部が1学年100名、これに対して教員が総計約60名ですので、平均すると学生5名に教員1名という、

学生と学生、学生と教員との距離が近く、まさに人間的な触れ合いの中で学び、成長できる大学です。

大学で何より大切なことは、学生諸君が何事にも積極的に挑戦する知的好奇心を持つことです。そして、4年間の大学生活を通して自分の能力を高め、成長しようという強い向上心と意志力を持つことです。尾道市立大学は、目標に向かって全力で努力しようとする若者が、その願いを実現できる大学として、力強く皆さん方を支援していきます。

是非、意欲ある多くの学生が本学に来てくださることを願っています。



副学長

菅 準一

5限目の終了のチャイムが鳴って、キャンパスの一日が終わろうとしている。なかなか分からなかったことや出来なかったことが、少しずつ分かってできるようになるのは、幾つになっても嬉しいものである。講義を終えた学生達も同じように感じていると思う。そして教育が自分の人生を経済的に豊かにし、社会的な地位を高めると信じて頑張ってきた／いる古今東西の沢山の人々にも思いが至る。

「天は自ら助くるものを助く」という諺はS.スマイルズの『自助論』の冒頭に出てくる格言として有名である。明治四年(1871年)中村正直による日本語訳が『西国立志編』として出版され当時のベストセラーとなったという。最近注目されているグリット(GRIT)「やりぬく力」に通じるものを感じる。瞬間的な頑張りではなく、計画的で継続的な頑張りが大切であり、良い習慣は一生の宝であるとも教えてくれる。

人生を豊かなものにするためには、それを理解し味わうための知性と感性を磨くことが大切である。しかし、それにもまして大事なことは、情念を操作する自制心を身につけることであると思う。個々の人生が豊かになると同時に社会全体が豊かになることを目指して勉学に励んで欲しいものである。



副学長

藤沢 毅

尾道市立大学は、その名の如く尾道市の「市立」大学です。

尾道は江戸時代、商人の街として栄え、また文学や芸術に対し深い理解を示してきました。画家の平田玉蘊や棋聖の本因坊秀策を産み出し、また、豪商と呼ばれる人たちが頼春水や頼山陽といった文人たちに対し大きな援助をしてきたのです。

こうした風潮や姿勢は現代にも残っています。尾道市民の方たちは、自信と誇りを持って自らの文化を愛し、また新たな文化の創造を育んでいるのです。尾道市立大学に経済情報、日本文学、美術の3学科があるのは、まさに尾道の歴史からの必然なのかもしれません。

大学は久山田という自然の美しい静かな環境にあります。校舎の前に広がる水源地の光景には心洗われることでしょう。また、尾道駅周辺に出れば、多くの観光客が訪れる商店街や名高い寺社、美しい尾道水道などがあります。そして、活気に溢れ、伝統と文化を愛する市民がいます。

ぜひ、尾道にいらしてください。ともに過ごし、学びましょう。

尾道市立大学の目標

<教育：培う尾道市立大学>

尾道市立大学は、専門分野における確かな知識と能力、そして豊かな教養と広い視野をもち、地域社会および国際社会に貢献し得る人材を育成します。このため、本学の特色である少人数教育の利点を生かしつつ、「教学半」（教うるは学ぶの半ば）の精神のもと、教員と学生が人間的触れ合いのなかで共に学び、「知と美」に対する強い好奇心と探究心、しっかりした基礎学力と高い専門能力、そして豊かな人間性を培う教育を実践します。

<研究：拓く尾道市立大学>

尾道市立大学は、実り豊かな教育には不断の研究とそれによって培われた基盤が必要であるとの考え方にもとづいて、新しい「知と美」の地平を切り拓く独創的な研究を目指します。

このため、すべての構成員が対等の立場で相互に協調し啓発し合い、異分野間の協働および外部組織との連携を積極的に進めながら、「知と美」の創造へ向けた学術研究を実践します。

<社会貢献：活かす尾道市立大学>

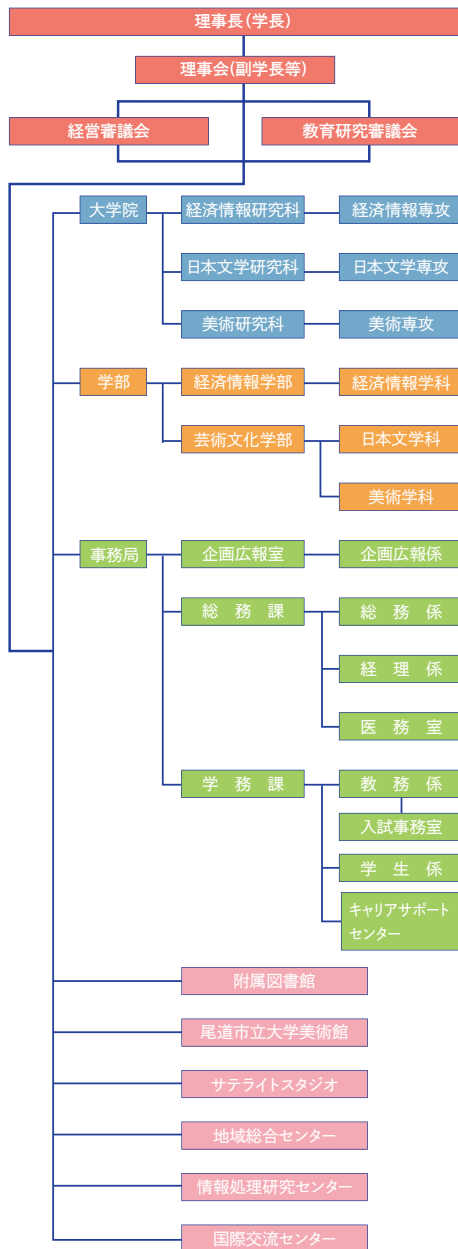
尾道市立大学は、教育と研究を通して培い拓いた「知と美」の成果を絶えず外部に発信することによって、それらが社会に活かされることを目指し、社会からの信頼と期待に応えていきます。

このため、地域社会との連携を図りつつ、世界的視野をもって教育研究に取り組み、有為な人材を社会に送り出すとともに 独創的な研究成果を国内外に向けて発信します。また、国際交流や留学生教育などにより、大学の国際化を積極的に推進します。

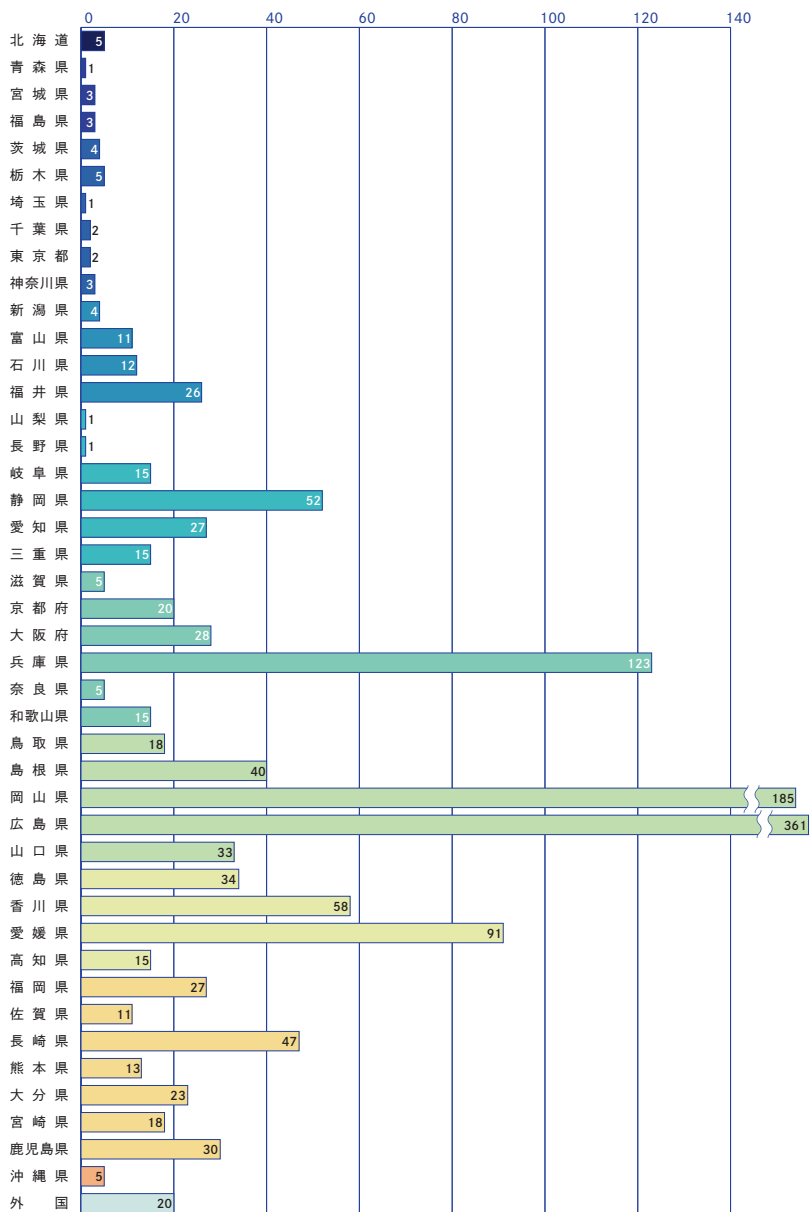
アドミッション・ポリシー

尾道市立大学は、次のような人の入学を期待しています。

- ・学問や芸術を学ぶことを通じて、豊かな心と幅広い視野をもちたいと願う人
- ・知と美に対する探究心と創造意欲のある人
- ・専門的知識・技能を身につけ、地域社会や国際社会に貢献したい人
- ・何事にも好奇心をもって積極的に挑戦し、自己の目標に向かって不断の努力をする人



都道府県別在籍者数(学部生) 在籍者数 学部生 1,418名



平成 29 (2017) 年度尾道市立大学入学試験結果

学 部

●推薦入試

学部・学科		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
経済情報学部	経済情報学科	70	153	152	70
芸術文化学部	日本文学科	15	45	45	16
	美術学科	12	63	63	14
計		97	261	260	100

●一般入試前期日程

学部・学科		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
経済情報学部	経済情報学科	100	488	438	176
芸術文化学部	日本文学科	30	139	130	46
	美術学科	23	93	93	26
計		153	720	661	248

●一般入試後期日程

学部・学科		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
経済情報学部	経済情報学科 Aコース	15	331	133	68
	経済情報学科 Bコース	15	317	114	57
	合計	30	648	247	125
芸術文化学部	日本文学科	5	138	56	6
	美術学科	15	123	77	22
計		50	909	380	153

●私費外国人留学生入試

学部・学科		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
経済情報学部	経済情報学科	若干名	14	11	6
芸術文化学部	日本文学科	若干名	2	2	1
	美術学科	若干名	1	0	0
計			17	13	7

●3年次編入学試験

学部・学科		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
経済情報学部	経済情報学科	若干名	6	6	2
芸術文化学部	美術学科	若干名	2	2	1

大 学 院

研究科・専攻		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
経済情報研究科	経済情報専攻	8	2	2	2
日本文学研究科	日本文学専攻	6	1	1	0
美術研究科	美術学科	12	12	11	10

教養教育科目

教養教育科目は、多彩な講師陣、様々なジャンルの講義により幅広い視野と知識が得られるように構成されています。

地域・キャリア系科目

尾道を切り口に学問の諸相を考える「尾道学入門」、社会・職業と学問との関係を考えるキャリア形成科目群があります。
尾道学入門／地域の伝統文化（囲碁）／キャリア形成入門／キャリア形成演習／インターンシップ

人文科学科目

私たちが生活の中でかわりあう様々な現象を「人間」という視点でとらえ、人間の営みについて広く・深く考える力を磨いていきます。
また、美術などの文化と人間との関係も広角的・相関的に探求できます。
人生の哲学／生命倫理／論理学／東洋思想／心理学入門／日本の文学／文章表現法入門／美術表現入門／美術の歴史と鑑賞／演劇の歴史と鑑賞／文化財学／日本文化史（経済情報）／瀬戸内文化論（経済情報）／民俗学Ⅰ（美術）／民俗学Ⅱ（美術）／タイポグラフィー（日本文学）／エディトリアルデザイン（日本文学）

社会科学科目

自分や友人の行動・地域活動や社会情勢に関する素朴な疑問を出発点に、人間と社会の関係を究明していきます。
フィールドの異なる多彩な講師陣が新鮮な講義を展開します。
現代社会と人間行動／法学概論／日本国憲法／世界歴史の流れ／日本歴史の流れ／政治学入門／社会思想史／現代の経済学／社会保障入門／社会学入門／メディア論／文化社会学／簿記原理Ⅰ（芸術文化）／民法Ⅰ（芸術文化）／ファイナンシャル・プランニング（芸術文化）

自然科学科目

自然に親しむことや、自然に対する認識を深めることを通して豊かな人間性や幅広い教養を身につけることが目標です。
基礎的な内容の科目、現代的な内容の科目、従来の科目の範囲にこだわらない学際的な内容の科目等、多彩で魅力的な科目がそろっています。
教養数学／物理学入門／地球と宇宙／物質の世界／生物学入門／科学技術の進歩／情報科学入門／色彩論／建築環境論／情報と倫理（芸術文化）／統計学Ⅰ（芸術文化）／人間工学概論（経済情報・日本文学）

健康スポーツ科目

健康スポーツ科目は、健康学から体育学、さらにスポーツ科学と幅広い総合的な領域にわたります。
少子・高齢化の時代、健康は「保つ」ものではなく「つくる」ものという考えに基づいて「健康づくりの心」を培う事を目標にしています。
また、生涯にわたってスポーツを楽しむ視点に立ち、健康・スポーツの学習能力とセルフコントロール能力を養います。
健康スポーツ学／健康スポーツ実習Ⅰ／健康スポーツ実習Ⅱ／野外スポーツ実習

外国語科目

国際化・情報化が進む時代の要請に応じ、外国語によるコミュニケーション能力を養成します。
また、他国の言語を学ぶことによって異文化への理解を深めると同時に、
自国の言語、文化をも再認識する目を養い、真の教養を得た国際人を育成します。
なお英語は、1年次からネイティブスピーカーの講師による授業が開講されます。
総合英語Ⅰ／総合英語Ⅱ／TOEICⅠ／TOEICⅡ／応用英語Ⅰ／応用英語Ⅱ／上級英語Ⅰ／上級英語Ⅱ／ドイツ語Ⅰ／ドイツ語Ⅱ／フランス語Ⅰ／フランス語Ⅱ／中国語Ⅰ／中国語Ⅱ／日本語Ⅰ／日本語Ⅱ／海外語学実践

経済情報学部

経済情報学科	専門基礎科目	
	共通専門科目	
	演習	
	主要専門科目	経済系
		経営系
		情報系
		職業指導系

芸術文化学部

日本文学科	学部共通科目	
	日本文学系	
	日本語学系	
	中国欧米文学	
	関連科目	
	演習・卒論	
美術学科	学部共通科目	
	専門基礎科目	
	基礎造形科目	
	専門実習科目	日本画
		油画
		デザイン
		関連科目

経済学入門Ⅰ(ミクロ)	経済学入門Ⅱ(マクロ)	経営学入門	簿記原理Ⅰ	簿記原理Ⅱ	情報とコンピュータ				
情報活用基礎Ⅰ	情報活用基礎Ⅱ	ファイナンシャル・プランニング	統計学Ⅰ	統計学Ⅱ	基礎数学Ⅰ(微分・積分)	基礎数学Ⅱ(線形代数)			
財政学Ⅰ	財政学Ⅱ	金融論Ⅰ	金融論Ⅱ	経済政策Ⅰ	経済政策Ⅱ	経営学総論	経営情報論	情報と倫理	経済情報論
経済経営情報実習	多変量解析	民法Ⅰ	民法Ⅱ	商法	行政法	外国書講読Ⅰ	外国書講読Ⅱ	ビジネス英語	
基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ	専門演習Ⅰ	専門演習Ⅱ(卒業研究)	特別演習Ⅰ	特別演習Ⅱ	特別演習Ⅲ	特別演習Ⅳ		
ミクロ経済学Ⅰ	ミクロ経済学Ⅱ	マクロ経済学Ⅰ	マクロ経済学Ⅱ	計量経済学	経済学史	経済史	日本経済史	地域経済史	
貨幣経済学	日本経済論	社会政策	社会保障	国際経済学	国際金融論	公共経済学	地方財政論	アジア経済事情	
経営組織論	マーケティング論	経営戦略論	経営管理論	日本企業論	国際経営論	経営史	租税論	会計学概論	経営分析論
財務管理論	税務会計論	管理会計論	財務会計論	監査論	原価計算論	品質管理論	生産システム論	証券市場論	
プログラミングⅠ	プログラミングⅠ実習	プログラミングⅡ	プログラミングⅡ実習	ネットワーク科学	情報ネットワーク	情報システム設計論	情報システム設計実習	経営シミュレーション	
データベース	ビッグデータ活用	システム工学	ビジネスとデータサイエンス	システム監査	マルチメディア論	情報基礎理論	情報と職業		
職業指導									

芸術文化論	日本文化史	比較芸術論	瀬戸内文化論						
日本文学概論	日本文学史Ⅰ(上代)	日本文学史Ⅱ(中古)	日本文学史Ⅲ(中世)	日本文学史Ⅳ(近世)	日本文学史Ⅴ(近代)	日本文学講読Ⅰ(上代)	日本文学講読Ⅱ(中古)	日本文学講読Ⅲ(中世)	日本文学講読Ⅳ(近世)
日本文学講読Ⅴ(近現代)	日本文学講読Ⅵ(近現代)	日本文学講義Ⅰ(上代～中世)	日本文学講義Ⅱ(近世)	日本文学講義Ⅲ(近現代)	日本文学講義Ⅳ(近現代)	日本文学特殊講義			
日本語学概論	日本語史	日本語表現法	日本語学講義Ⅰ(古典語)	日本語学講義Ⅱ(現代語)	日本語学講義Ⅲ(古典語)	日本語学講義Ⅳ(現代語)			
中国文学概論	中国文学講読	中国文学講義	欧米文学概論	欧米文学講義	比較文学				
日本歴史概説Ⅰ	日本歴史概説Ⅱ	美学	日本美術史Ⅰ	日本美術史Ⅱ	東洋美術史Ⅰ	東洋美術史Ⅱ	西洋美術史Ⅰ	西洋美術史Ⅱ	書道Ⅰ
書道Ⅱ	民話研究	民俗学Ⅰ	民俗学Ⅱ	古文書学	文芸創作入門Ⅰ	文芸創作入門Ⅱ	情報処理演習	フィールドワーク	日本文学のための英語
古典文学基礎演習	近現代文学基礎演習	日本語学基礎演習	中古文学専門演習a	中古文学専門演習b	中世文学専門演習a	中世文学専門演習b	近世文学専門演習a	近世文学専門演習b	近現代文学専門演習Ⅰa
近現代文学専門演習Ⅰb	近現代文学専門演習Ⅰa	近現代文学専門演習Ⅰb	現代語学専門演習a	現代語学専門演習b	古典語学専門演習a	古典語学専門演習b	中国文学専門演習a	中国文学専門演習b	欧米文学専門演習a
欧米文学専門演習b	文芸創作専門演習a	文芸創作専門演習b	国語教育学専門演習a	国語教育学専門演習b	伝承文学専門演習a	伝承文学専門演習b	卒業論文(構想・準備)	卒業論文(制作)	
芸術文化論	日本文化史	比較芸術論	瀬戸内文化論						
美学	日本美術史Ⅰ	日本美術史Ⅱ	東洋美術史Ⅰ	東洋美術史Ⅱ	西洋美術史Ⅰ	西洋美術史Ⅱ	デザイン史	デザイン論	美術解剖学
空間造形論	図法及び製図	金工演習	写真(映像)演習	木工演習	塗装法演習	壁画技法演習	テンペラ画技法演習	版画制作演習	
デッサン基礎実習	構成実習	彫刻	総合基礎実習						
日本画実習Ⅰ	日本画実習Ⅱ	日本画実習Ⅲ	古美術研究(演習)	卒業制作					
油画実習Ⅰ	油画実習Ⅱ	油画実習Ⅲ	古美術研究(演習)	卒業制作					
デザイン実習Ⅰ	デザイン実習Ⅱ	デザイン実習Ⅲ	古美術研究(演習)	卒業制作					
文化財保存学概論	人間工学概論	情報機能論	書道	古文書学	タイポグラフィ	エディトリアルデザイン	情報処理演習		



キャンパスライフ CAMPUS LIFE

有意義な学生生活のための
さまざまな支援制度を備えています。

奨学金制度

日本学生支援機構および尾道市立大学奨学会等の奨学金制度を設けています。また、民間企業や、地方公共団体等による奨学金の案内がありますので、随時お知らせしています。

●日本学生支援機構奨学金

- ・第一種奨学金（無利子）月額
学部生 自宅通学 30,000円または45,000円から選択
自宅外通学 30,000円または51,000円から選択
大学院生 50,000円または88,000円から選択
- ・第二種奨学金（有利子）月額
学部生 3万円、5万円、8万円、10万円、12万円から選択
大学院生 5万円、8万円、10万円、13万円、15万円から選択

●尾道市立大学奨学会奨学金

無利子貸与 月額30,000円（若干名）

●尾道市立大学成績優秀学生奨学金

本学における学業成績が特に優秀であると認められた学部生に対して、学習意欲の更なる向上を目的として、年額100,000円を給付する奨学金制度を設けています。

チューター制度

指導教員（チューター）を中心に経済情報学科と美術学科では10人程度、日本文学科では5人程度のグループをつくり、同級生や先輩・後輩との絆を深めていく制度です。チューターはグループの学生の相談相手になり、またグループの学生と一緒にレクリエーションを楽しむこともあります。

資格取得支援講座及び資格取得者に対する奨励金給付制度

公務員受験対策講座、情報技術資格対策講座等の課外講座を開講し、学生の進路支援、就職活動に向けた実力を養成しています。また、独力で資格等を取得した学生に対し、奨励金を給付する制度もあります。

オフィスアワー

学業その他の相談を受けるため、全教員がそれぞれ日時を決めて、研究室で待機しています。

学生相談（カウンセリング）・健康相談

自宅から離れての新しい暮らしや通学環境の変化など日常生活上の悩み、大学での修学上、人間関係の悩み、精神面や身体面での心配事について、医務室やカウンセラーに相談できます。医務室には、健康管理や緊急時の応急処置を行う保健師も常駐しています。また、臨床心理士によるカウンセリングを受けることができます。

下宿等について

尾道市内には学生向けのワンルームマンション、アパートや寮があります。また、本学の周辺には食事付きの学生寮もあります。これらはすべて民間経営です。希望者には、アパート等の資料をお渡ししています。

その他

学生または学生で構成する団体が、スポーツ・文化・社会貢献等の各分野の活動において、特にすぐれた成果を挙げた場合、学長からの表彰があります。



経済情報学科
経済コース3年
大堀 元基

尾道市立大学では1・2年次に経済・経営・情報の基礎的な部分を学習します。僕は高校時代に簿記を勉強し、経済にも興味を持っていたため、経済・経営系の授業は楽しく受講することができましたが、パソコンを使うことには慣れていなかったために情報系、特にプログラミングの授業はとても大変でした。しかし、これからの社会ではパソコンを使用することは必須なので、とても良い経験になったと思います。

サークル活動では、シグマソサエティというボランティアサークルの代表をしています。尾道で開催される様々な行事の手伝いや小学生との触れ合いを通じて、尾道の人々の温かい人柄や文化を体感することができました。

大学生になると自由な時間が増えます。僕はライブに参加するのが好きなので、休みの日には広島はもちろん、東京・愛知・大阪・福岡までライブに行き、ついでにその土地の観光をします。しかし、遊んでばかりでは、単位はもらえません。勉強と遊びの両立、これが大学生にとって最も大切なことだと思います。



経済情報学科
経営コース4年
原田 朋尚

私は経営コースに所属し、ゼミでは管理会計学や戦略論など様々な分野について学んでいます。大変難しいですが、ゼミを担当して下さっている先生や他のゼミ生と共に一生懸命取り組んでいます。

大学生活は自分の好きなように使える時間がたくさんある一方で、何となく過ごしているとあっという間に時間が経ってしまうのも大学生活だと思います。私は部活動に所属していないので、生活の中心にはいつもアルバイトがありました。料理ができるようになりたくて居酒屋、服が好きで接客のスキルを上げたいという思いからアパレル、と目的を意識してアルバイトをしてきました。このように何となくではなく目的を持って働くことで必要なスキルを得られました。また、同時にコミュニケーション能力や職業感をも培うことができ、自分を成長させることができました。

遊び、旅行や部活など、何でも構わないので目的意識を持ち、今しかできないことに取り組めば有意義な大学生活になるのではないのでしょうか。



経済情報学科
情報コース4年
橋本 航輝

「経済・経営・情報の三分野をバランスよく学びたい!」——高校在学時、進路について考えていた時にそう思ったことが、僕が尾道市立大学を選んだきっかけでした。尾道市立大学では、2年生まではそれぞれの分野の基礎を学ぶことができ、僕はその中で最も興味を持ったビックデータやテキストマイニングについてより深く理解したいと考え、3年生から情報コースで学んでいます。三分野をバランスよく学べるカリキュラムだからこそ、自分の興味があることを見つけられたのだと考えています。

勉学以外の面でも、部活動やサークルなどに積極的に取り組むことによって、充実した学生生活を送っています。大学生には自分のために使える時間が多くあるので、その時間を有意義に使いたいと考えてきました。僕は尾道で、充実した時間を過ごしています。



日本文学科2年
森川 泰樹

国語や日本語は好きだが、得意であるとは言えない。こんな人は数多くいると思います。私もその一人でした。しかし、心配することはありません。一年次は基礎的なこと・導入部分から授業が始まっていくのでみんなスタート地点は同じです。また、この大学は全国的にも珍しく、創作や言語学、各時代区分それぞれを専門とした先生が数多くいらっしゃるの、自分が研究したい、興味があることについて専門的な話を聞きやすい環境が整っています。授業外でも他の学部との交流が容易で、自分がこれまで持っていなかった感性や価値観・考え方を得ることができます。この一年間で数多くのことを経験しました。募金活動をしたり、ボランティア活動をしたり。そして、それを通じて多くの人と出会いました。

自分で行動し、それをやり遂げた時、その経験は大きな達成感だけでなく、今後の自分の自信や糧となります。皆さんも、ぜひ。



日本文学科3年
篠原 彩

私は、文芸創作を学ぶことができるという点に魅力を感じて尾道市立大学を選びました。しかし一年次には文芸創作の授業はなく、少しだけがっかり。卒業に必要な単位を考えて、あまり興味の分野の授業をどうするか悩みながら時間割を考えました。ですが、いざ授業を受けると、それほど興味がないと思っていた分野の面白さに気づき、新たな知識が増えていくのが楽しくなりました。古典はどちらかという苦手な近現代文学の研究や創作をしたいという気持ちが強かったのが、言語学や近現代以前の文学にも触れていきたいと思うようになったのです。

大学は、興味の扉を開いていく場所です。そして、開いた扉をその後どうするかは私たちに委ねられています。扉の先に進んでさらに知識を深めていくのか、別の扉を開くのか。自然豊かで落ち着いた環境の中で学ぶことができる尾道市立大学は、そうして扉を開き知識を深めていくのにとっても適した大学だと思います。みなさんも、周りにある無数の扉と一緒に開いていきませんか。



日本文学科4年
藤村 菜由

私は「中古文学を学びたい」と思い尾道市立大学日本文学科に入学しました。入学当初は、各時代の日本文学だけでなく、欧米・中国文学、言語学など、毎回の授業で新しい知識を得られることがとても楽しく刺激的な日々でした。4年生になった今、以前から興味があった中古文学をより深く学ぶ中で「書誌学」という研究方法に出会い、その視点から和歌集の研究をしています。

授業や自分の研究テーマの勉強の他に、私は高橋文庫研究会の代表をしています。この研究会は近代文学の研究者高橋新太郎氏が遺した未整理の蔵書を整理するとともに、その資料について研究するもので、昨年は駅前で行われた日本文学会の発表会（おのみち文学三昧）に併せて、学生自らが企画した展示会を開きました。

私にとって尾道市立大学での生活は新たな知識と発見を与えてくれ、面白いことにたくさん出会う場所です。みなさんも魅力あふれる尾道の町で自分の可能性を広げてみませんか？



美術学科
日本画コース 4年
指田 葉月

私はこの大学で日本画を学びたいと考え入学し、それに加えて教員免許、学芸員資格を取得するため勉強をしています。また、陶芸部に所属しており、日本画とは異なる分野ですが楽しく制作しています。

講義では美術学科独自の個性豊かな講義があり、自分のやる気次第で沢山のことが経験できる大学です。1年次は各コースを体験でき、「まだ何を学びたいのかわからない」という方でもゆっくり考える時間があります。

日本画コースを選択すると、日本画の制作を基礎から学ぶことができ、古典模写や日本画で使用する技術についても勉強することができます。また、各学年にアトリエスペースが与えられ、仲間達と切磋琢磨して高めあえる環境が整っています。先生方、先輩・後輩との距離が近いのも、少人数で学べるこの大学の強みです。

尾道はゆったりとした時間が流れており、魅力のある場所が沢山あります。私にとっての第二の故郷です。



美術学科
油画コース 3年
小西 美幸

何かが始まる時、必ず「点」が存在します。キャンパスに筆の先が触れた時に出来る点、一個人としての点、原子としての点…。この点と点を結ぶことによって繋がりが生まれ、新たな世界が広がっていきます。つまり、絵を描くことは、キャンパスという白い世界の中に新たな世界を創造していくことであるとともに、地球の中に産み落とされた一つの点である“私”が様々なものと繋がっていくことであるとも言えます。

私がそのようなことを考えつつ制作を行うことが出来るのは、尾道という素晴らしい「点」に出会えたおかげであると考えています。尾道の魅力は、「時」を感じることが出来ることだと思います。尾道では、草木の成長や四季の変化、様々な時代の建物を見ることができ、自然と「時」を感じることが出来ます。その「時」を感じながら生活することは、私にとってとても良い刺激であり、作品を制作していく上での源となっています。

私はこれからも大好きな尾道で絵を描き、芸術や人生について深く考え、学んでいきたいです。



美術学科
デザインコース 3年
野々上 奈穂

私の所属するデザインコースでは、グラフィック・映像・立体・イラスト等、様々な分野の先生からの指導を受ける事ができ、より多角的に自分の作品を見ることができます。また、紙媒体から映像作品への展開など、分野を超えた制作もでき、作品に広がりを持たせる事ができます。学習環境としては、夜間や土日でも使える自主学習スペースがあるので、なるべく大学で課題をして、家では他のことに時間を使うようにしています。

大学では何か「やりたい」という思いが大切で、尾道はそんな思いが集まっている街です。自ら積極的に動けば様々な人との繋がりができ、制作にも自分自身にも良い影響を与えてくれます。私の場合、大学のある久山田町での地域のイベントへの参加、住民の方と協力しての無人市場の開催などを行ってきました。3年次の地域活性化課題では、さらに発展させて久山田町に住む人が楽しく過ごせるような場所づくりをテーマに取り組んでいます。

先生も学生も仲が良く、笑いが絶えないアットホームな大学です。是非オープンキャンパス等にお越しください。

クラブ・サークル、同好会一覧表

●体育会系

硬式テニス部
硬式野球部
サイクリング部
サッカー部
柔道部
セバタクロー部
ソフトテニス部
ソフトボール部
卓球部
ダンス部
軟式野球部
バスケットボール部（男子）
バスケットボール部（女子）
バドミントン部
バレーボール部（男子）
バレーボール部（女子）
ハンドボール部
フットサル部（男子）
フットサル部（女子）
陸上競技部

●文化系

執行委員会
翠郷際実行委員会
アカペラ部
アンカー部
裏千家茶道部
映画研究部
演劇部
華道部
軽音楽部
コミ部
写真部
吹奏楽部
推理小説研究部
煎茶部
陶芸部
速水流茶道部
光アート研究部
美術史研究部
文芸部
ラテン部

●同好会

I.T.e.x.e
アウトドア同好会
English & International Club
おの 100 同好会
尾道(楽・学)サロン
剣道同好会
シグマソサエティ同好会
水泳同好会
箏曲同好会
創作同好会
ねこ同好会
花と石彫プロジェクト
漫画研究同好会

ダンス部



ダンス部部长

杉本 直矢

ダンス部は、毎週火曜日と木曜日 18:00 ~ 21:00 の間、第2体育館で練習しています。ほとんどが未経験者の僕達ではありますが、指導者がいない中でも、先輩に教えてもらったり、独学で学んだりして、日々練習に励んでいます。他にも合宿に行ったり、イベントを開いたりなどして和気満々と活動していますが、練習するときは集中して練習する、というようにメリハリを大事にしています。

現在取り組んでいるジャンルはブレイク、ロック、ガールズヒップホップ、ポップ、ワックです。まだまだ開拓中です。ダンスがしたい方は是非気軽に見に来てください。

YouTube に動画をアップロードしています→尾道市立大学 ダンス部 で検索



陸上競技部

陸上競技部部长

續木 一真

陸上競技部では、活動日を3種類に分けて、部員それぞれが参加したい日を自由に決められるようにしています。

ランニングの日には、汗を流して体力をつけたい人や陸上を続けたい人が集まって、一緒に走っています。松永駅伝や福山マラソンへの参加もモチベーション向上に繋がっています。

他に、体を鍛えるために筋トレだけをしたい人のための筋トレの日と、楽しく無理なく運動の習慣をつけたい人のためのダイエットの日を、今年からつくりました。部員25人が各々の目標を持って、男女仲良くワイワイと活動しています。

一人ひとりがやりたいことを、みんなのできる場所を目指して。それが、尾大の陸上部です。





硬式 テニス部

硬式テニス部部長
伊原 大樹

私たち硬式テニス部は、週に4回、月曜日・水曜日・金曜日・日曜日に活動しています。基本的にはそれぞれが体を動かしたいときに集まってテニスをしています。しかし、いざ試合前となると、それに向けて真面目に練習に取り組んでおり、onとoffがはっきりとしている部活動です。

少人数なのでとてもアットホームで、みんなで集まってご飯を食べたり、テスト勉強をしたり、テニス以外でもわいわい活動しています。

兼部をしている部員がほとんどで、部活動が普段の生活の息抜きにもなっています。男女問わず、経験者でも初心者でも、楽しいことが大好きな人、大歓迎です。



柔道部

柔道部部長
下野 将司

私たち柔道部は週に2回、月曜日と木曜日に活動を行っています。また、年に3・4回ほど大会に出場しています。柔道部には約10人部員がいますが、その半数は大学から柔道を始めた部員です。彼らは初段(黒帯)取得を目標に、その他の有段者の部員は1つでも昇段出来るように切磋琢磨し合って練習に励んでいます。

そして、尾道市立大学柔道部の最大の特徴は地域との交流が盛んなところ です。月の練習の内、1・2回は地元の高校生、柔道会と一緒に合同練習を行っています。また、年に2回ある尾道での少年柔道大会に係員として参加するなど地域貢献もしています。

皆さんも私たちと一緒に楽しみながら柔道をしませんか？

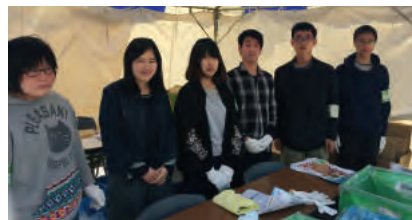


ゴミ部

ゴミ部部長
増井 京介

私たちゴミ部は尾道をきれいにすることを目的とした部活動です。尾道市では大きなお祭りが年数回あり、たくさんの人が訪れます。尾道の発展に大きく貢献しているお祭りですが、残念な点として大量のゴミの放置が挙げられます。そこで私たちはボランティアとしてお祭りに参加し、ゴミ拾いやゴミの分別を行うことで町の景観を保っています。

他にも月に1回、地域の方と合同で早朝清掃を行い、よりきれいな町を目指しています。



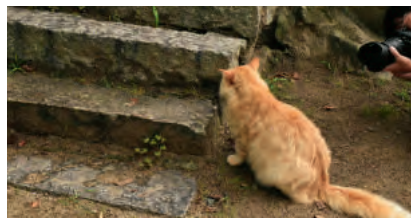


写真部

写真部部长
中川 広崇

私たち写真部は、写真が好きな人が自由に集まって活動しています。主な活動内容としては、地域のイベントへの参加、大学祭における写真展とポストカードの販売です。具体的には、昨年は尾道猫祭りに参加し、祭りの様子を記録したり、地域の方やねこ同好会と協力して地域猫の写真撮影のワークショップを開いたりしました。

私たちは基本的に日時を決めて活動することはありません。日常の中でそれぞれが好きな写真を撮り、それを大学祭で展示するという活動がメインです。だから、少しでも写真が好きな人や写真に収めたいものがある人は、ぜひお気軽に写真部に入ってみてください。



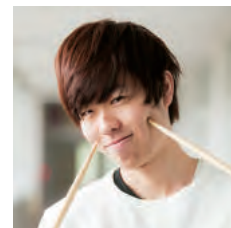
華道部

華道部部长
岡村 花

私たち池坊華道部は「池坊」という華道界において最も格式高い流派の先生をお招きして、週に一回お稽古をしています。華道と聞くと、馴染みがない印象を持つ方も多いと思いますが、部活動をきっかけに華道を始めた学生もいます。

常時の活動は、生けた花を学内に飾っています。また、みなと祭りや学園祭の時期になると作品を展示するなどし、表現の場を得て活動しています。お免状（資格）の取得も可能なので、部員一人一人が腕を磨き、上達を目指しています。

学生時代に伝統文化にふれる体験はとても貴重だと思います。華道を通して感性と知識を深め、充実した学生生活を過ごしてみませんか？ぜひ一度、お気軽に見学に来てください。



軽音楽部

軽音楽部部长
本多 隆志

こんにちは。軽音楽部部长の本多です。僕たち軽音楽部は普段、部室のある第2クラブ棟で練習しています。ライブは年に3回行われる定期演奏会で行ったり、各バンドがそれぞれ尾道や県外のライブハウスに行って演奏したりしています。

大学から楽器をはじめた人が多いですが、いつでも練習できる部室があるので、みんなめきめきと上達しています。部員どうし仲が良く、楽しく活動していて、楽器の演奏ばかりだけでなく、合宿に行ったり、集まってスポーツをしたりとさまざまな楽しいイベントを開催しています。軽音楽部は大学のイベントなどでPAや音響も担当していて、大学のお手伝いをしています。

興味のある方はぜひ軽音部へ！



経済・経営・情報をマルチに学び、
自分の可能性を目覚めさせる。

経済情報学部

経済情報学科







経済情報学部長

邵 忠

2001年に短期大学から4年制大学へ移行した際、経済情報学部として「現代社会を的確に見据えながら、IT技術を駆使して経済的諸問題を経済学および経営学の分析手法で解決できる人材を育成する」という目標を掲げて、経済・経営・情報3分野の基礎知識を横断的に幅広く学び、専門へ進む体系的カリキュラムを編成しました。そして経済の基礎理論や企業経営の仕組み、情報通信システムと技術を広く習得した上、「世の中の動き、市場の動向」を的確に捉える能力を養うよう取り組んでまいりました。

2008年のリーマン・ショック以降、グローバル経済の先行きがますます不透明になり、他方では、情報化の進展によって、これまで人間にしかできなかった仕事の一部が人工知能化機械に取って代わられると予測され、今後「人間ならではの」教育を探求し、「生涯学習の意欲と能力」を養う新しい大学教育への転換が求められます。

そのような状況において、2013年から専門的な知識と技術・技能の習得を目指して、経済・経営・情報の3コース制がスタートしました。さらに今年度から3分野の高度な専門知識の習得と研鑽を推し進めるために「特別演習」科目を新設し、学習の意欲ある学生に2年間4学期の高度専門化演習プログラムを提供し始めています。

グローバル社会に生き、活躍するためには語学力が必要不可欠です。今年度から新入生にTOEIC検定を実施

し、1年後の再実施によって英語力の向上が見える形で検証する新しい試みが全学で始まります。また海外提携校への短期語学研修派遣は、英語圏と中国語圏において春と夏の複数回にわたって実施されており、学生のより積極的な参加を推し進めてまいりたいと思います。

また、就職後に役立つ日商簿記検定、税理士試験、ファイナンシャル・プランニング技能士(FP)、基本情報技術者、高等学校教諭一種免許状(情報、商業)などの資格取得や、成績優秀な学生の本学大学院経済情報研究科への進学によるスキルアップを推奨し、積極的にサポートします。

それらの取り組みや努力により、経済、経営、情報の知識と技術を広く習得し、それぞれの所属コースの専門分野を体系的に深く研鑽することで、グローバル化・情報化社会で活躍できる人材に成長すると信じます。

大学の4年間は勉強ばかりではなく、部活やボランティア活動、アルバイト、そして家族あるいは友達との国内外旅行など、多彩な活動の参加と人との触れ合いを通じてグローバルな感性を養い、コミュニケーション力や語学力を高めて、人間性を磨いていくような、尾道での有意義な大学生活を送ってほしいと期待します。

アドミッション・ポリシー

経済情報学科は、経済、経営、そして情報の3分野を併せて学ぶことを特徴とし、基礎的理論と実践的・応用的知識を兼ね備え、現代社会のニーズに応えられる人材の育成を目標としています。

このような教育理念・目標に基づき、経済情報学科は以下のような人を求めています。

経済系に関心のある人

- ・ 日常の経済現象や経済全体の基礎的考え方や理論を理解し、また各種資料、経済統計を活用して、実際の経済を考察、分析したい人
- ・ 経済学の知識を統合して、経済問題を世界的観点から考え、責任ある選択・意思決定ができるようになりたい人。また、経済学の知識を活かした社会貢献・地域貢献を考えている人

経営系に関心のある人

- ・ 企業の仕組みを理解し、実際の企業行動の分析などに興味がある人
- ・ 経済社会の主役は企業である現実を直視して、責任ある選択・意思決定ができるようになりたい人。また、企業の社会的責任に関心があり、社会貢献や地域貢献を考えている人
- ・ 企業の経済活動を記録・計算して経営活動の成果を外部に報告する仕組みの理解や、会計データを企業の経営管理に役立たせるための知識や知恵の修得をめざす人

情報系に関心のある人

- ・ 現代社会の基盤となっている情報システムネットワークの基本原理を学び、経済社会の諸課題を解決する情報システムの設計から運用までを担当する能力を身につけたい人
- ・ 情報関連の企業・組織における研究開発、企業等の組織における情報システムの管理・運用、企業等の組織における情報システムを駆使した経営への参画において活躍することをめざす人

経済情報学科の行事を一部紹介します。

学生主体の新歓企画。少人数を強みにしたユニークなゼミ。

勉学の成果を凝縮した研究発表。

4年間を通してゆたかな時間が流れていきます。



2年生が主体となって新生を歓迎。3年生や4年生も駆けつけます。軽音、アカペラ、ダンスなど、多様な催しを食事とともに楽しみながら、チューター・グループ(1教員につき10名ほどの初級ゼミ)ごとのテーブルで、まずは気軽に自己紹介してみましょう。

4月

新入生歓迎会

5月

スポーツ大会

7月

キャンパスツアー

8月

オープンキャンパス

特別講義



キャンパスツアー



オープンキャンパス

12月

街中ゼミ
合同ゼミ
海外研修

1月

卒業論文提出
公開ゼミ研究発表会

3月

卒業式

3年生になるとゼミ(専門演習)が始まります。

ゼミの最終目標は4年生になってからまとめ上げる卒業論文です。現役の銀行員の方など、外部講師を招いての特別講義への参加や、街にくり出すことで視野を広げたり、異分野の人と交流しながら研究テーマを探究しましょう。



街中ゼミ



海外研修



経済コース



経営コース



情報コース



外部講師を招いての特別講義



卒業式

尾道商店街内のサテライトスタジオで開催する、卒業間近の4年生による研究発表会です。一般の方にも公開しています。教員も油断できないレベルに達した選りすぐりの研究成果を目の当たりにすることのできる、経済情報学科における学びの集大成と呼べる場です。

経済学では、人、モノ、貨幣、情報等が社会の中を循環する様子(経済循環)を説明するための理論を作り上げていきます。家計や企業などの個別経済主体の行動を分析するミクロ的視点と、一国全体での出来事を考察するマクロ的視点があります。

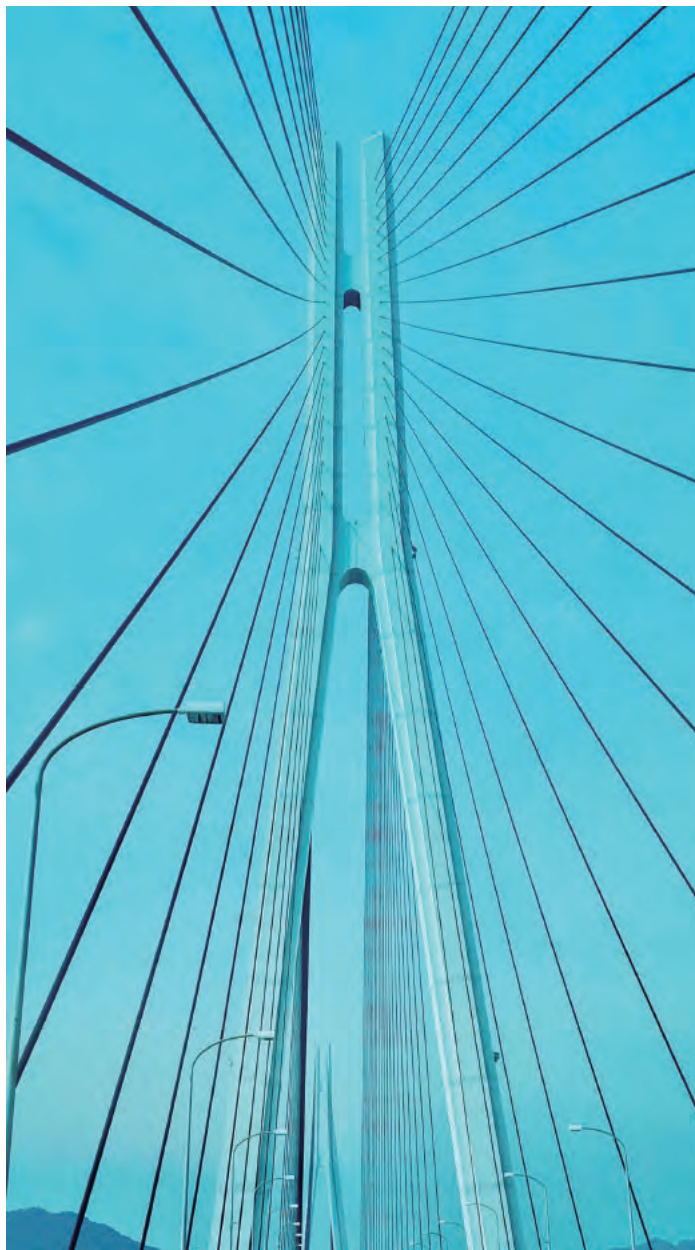
このような視点を軸として金融論、財政学、国際経済学などを履修することによって、私たちの生活にかかわる諸問題を把握・分析するための問題発見能力と企画分析能力を磨くことが出来ます。これらは、大学院進学や公務員試験、そして企業への就職で必要とされる能力です。

大学進学を希望する人たちも、数年後には自分たちが経済社会を運営する立場になります。そのために経済コースでは、規制緩和や年金といった制度・政策、日本と世界の経済史、国際貿易などの世界情勢、などについての理解を深めることを目指します。さらに、このような経済問題を客観的に検証するためには経済データを統計的に分析することが必要であるため、情報処理に関する基礎的なトレーニングも行います。

経済倫理を身に付け、世界や国と言った全体を見渡すと同時に、経済主体として家計や会社を経営する能力を身に付けたグローバルな人材を育成します。

想定される進路

1. 行政機関における ICT を活用した企画、政策の立案、実行
2. 企業、行政機関における情報活用システムの企画、事務、営業
3. 金融機関における業務



「イギリス学派に代表される古典派経済学」

林ゼミ

竹嶋 優季

経済学は社会科学の中でも自然科学のような科学性を持っていると考えます。物事を調査し、整理分析し、新たに知見を加え、その知見を確かめるという、その一連のプロセスが経済学には見られるからです。しかし、経済学ではこのプロセスにおける知見の確認、すなわち実験を行うことは困難です。そこで実験に代わり、過去に社会で起こっていた経済活動や社会現象を分析、立証に用います。何か問題が発生したときにも過去の似たような事象から「今がどのような状態か」「今何をすればよいのか」「どう対応していけばよいのか」が見えてくるからです。そこで私は、経済学の起こりである古典派経済学およびその背景にある社会現象について分析しようと考えました。そして、現代経済に対する洞察力を深めたいと思いました。

私はこの度の公開ゼミ研究発表会という貴重な舞台で発表できたことを、うれしく思っています。今までにこのような発表を経験したことがなかったため、勉強になりました。とても緊張しましたが、学生生活の最後に、自分の中で良い思い出として残りました。この発表会で私が良かったと思うことは、経営コース、情報コースの発表を聞くことができる点です。他のコースのゼミでどのような勉強をしているのか、ほとんど知らなかったため、どの発表も新鮮で楽しむことができました。コースという境界を越えた交流の場という意味においても、有意義な発表会だったと思います。





マクロ経済学

経済コース・教授

井本 伸

私のゼミでは、マクロ経済学を学んでいます。マクロ経済学とは、全体としての経済、すなわち日本全体の経済を分析対象とする研究分野です。例えば、景気や経済成長などの問題です。

経済学は、同じ経済問題を扱う場合でも、全体と個人を分けて分析します。なぜなら、我々の普段の経済活動において、“個人の行動としては良くて、経済全体としては良くない”ということがあるからです。したがって、経済全体と個人を同じように扱って分析すると、うまくいかないことが多くあります。

たとえば、“不景気”の問題を考えましょう。個人として、「景気が悪いから、出来るだけお金を使わない」という行動をとることは正しいといえます。しかし、経済全体でみると、「みんながお金を使わないので、物が売れなくなって、さらに景気が悪くなる」ということが起こります。つまり、個人として良いと思った行動が、必ずしも経済全体として良い結果になるとは限らないのです。

個人がどのように行動すべきかだけを考えていては、経済全体の問題を解決することはできません。そこで、経済全体を分析し、経済全体で問題に対応する方法を考えるマクロ経済学が必要になるのです。





財政学

経済コース・講師

金田 陸幸

経済学の分野において、財政学の役割は政府の活動を経済学のアプローチを用いて、考察することです。政府の活動と聞くと、自分たちとの関わりが薄いと考える方もいるかもしれません。しかし、実際には政府の経済活動は直接的、間接的に私達の生活に大小の影響を与えます。財政学では政府の支出のことを歳出、政府の収入のことを歳入と言います。例えば、歳出面で言えば、小中学校の義務教育や高校、大学といった教育分野、年金、医療および介護といった社会保障分野のようにみなさんの身近なところにも公費が用いられています。しかし、これらの歳出を行うためには、政府は資金を調達する必要があります。そこで、所得税や消費税といった租税や社会保険料の徴収なども政府の重要な経済活動の一つとなります。

財政学は以上のような分野、制度を分析対象とし、効率性と公平性の双方の観点から制度の是非を判断することで、より社会にとって望ましい制度を模索していく学問と言えます。

ゼミナールでは、政府が実際にどのような制度を行っているのかを学んだ上で、その制度が経済学的に望ましいかどうかについて学生間で議論を行うことで、学生が自発的に考え発表する場を設けます。





社会保障

経済コース・講師

高間 沙織



困っている人が目の前にいるとき、その人を励ましたり助けようとしたことはありませんか。他者の立場に共感し同情や協調を示すのは、類人猿やイルカなどさまざまな動物にみられる行動で、進化の段階で人類にも継承された非常に重要な能力です。

やがて人類は、そうした共感や協調が持続的なものとなるよう社会のなかに支え合いの仕組みを成立させていきました。特に、第二次世界大戦後、先進諸国で成立した福祉国家は、年金や医療、福祉といった社会保障を整備・拡充していったのです。

今日では、人口の少子高齢化、経済情勢の悪化や人々の価値観の変化、AIなどの科学技術の進歩に伴い、福祉国家の時代の社会保障とは異なる支え合いの仕組みが模索されています。このような時代には、どんな支え合いの仕組みが望ましいのでしょうか。

尾道市には、「尾道方式」と呼ばれる地域に特有の支え合いの仕組みがあり、国の政策のモデルにもなっています。では、なぜ「尾道方式」は成立したのでしょうか。「尾道方式」は、本当に尾道市の人々にとってよりよい支え合いの仕組みなのでしょうか。このような問いに丹念に向き合うことで、これからの時代に見合う支え合いの仕組みを展望していくことを目指しています。





経済コース

中間 藍 (荒井ゼミ)

経済コースではどんな研究をしていましたか？

私はゼミで環境経済学を学びました。環境経済学とは、経済学的分析手法を用いて、環境保全型社会の実現に向けて具体的な対策を示すことを課題としている学問です。ゼミでは、「環境問題に関連させ卒業論文を執筆」という条件がありました。そこで、幼い頃から身近にあった「農業」と「環境」を主な主軸にして研究をしたいと考えていたので、調べるうちに辿り着いた「環境保全型農業」を題材に今後の展開や可能性について研究しました。

研究以外で力を入れたことは何ですか？

講義には遅刻・欠席をしないこと、また、単位はなるべく落とさず先を見据えた計画のもと三年生のうちに専門演習以外の全ての単位を取得しておくことです。二つとも基本的なことではありますが、社会に出た時、遅刻・欠席をしないということは周囲の人に「信頼」を与えるものであり、また単位を落とさないことで、就職してからの自己啓発の際の計画的な勉強のために努力することや、与えられた仕事を確実に行っていく「堅実さ」が培われていくと考えたからです。

学生生活で大切だと思うことは何ですか？

四年間を有効活用すること、また何事にも積極的にチャレンジしてみることです。大学生は基本的に自由です。そして、多くのイベントを経験し成長出来るチャンスの時であると考えます。単位認定試験、卒業論文、アルバイト、旅行、就職活動等を通じ、入学当初よりも自己管理能力、人間関係の幅の広がり、価値観や視野の広がり等を実感しています。

みなさんが自由に使えるこの時間や環境を大切にして、卒業時に後悔することのないような学生生活を送れるよう願っています。

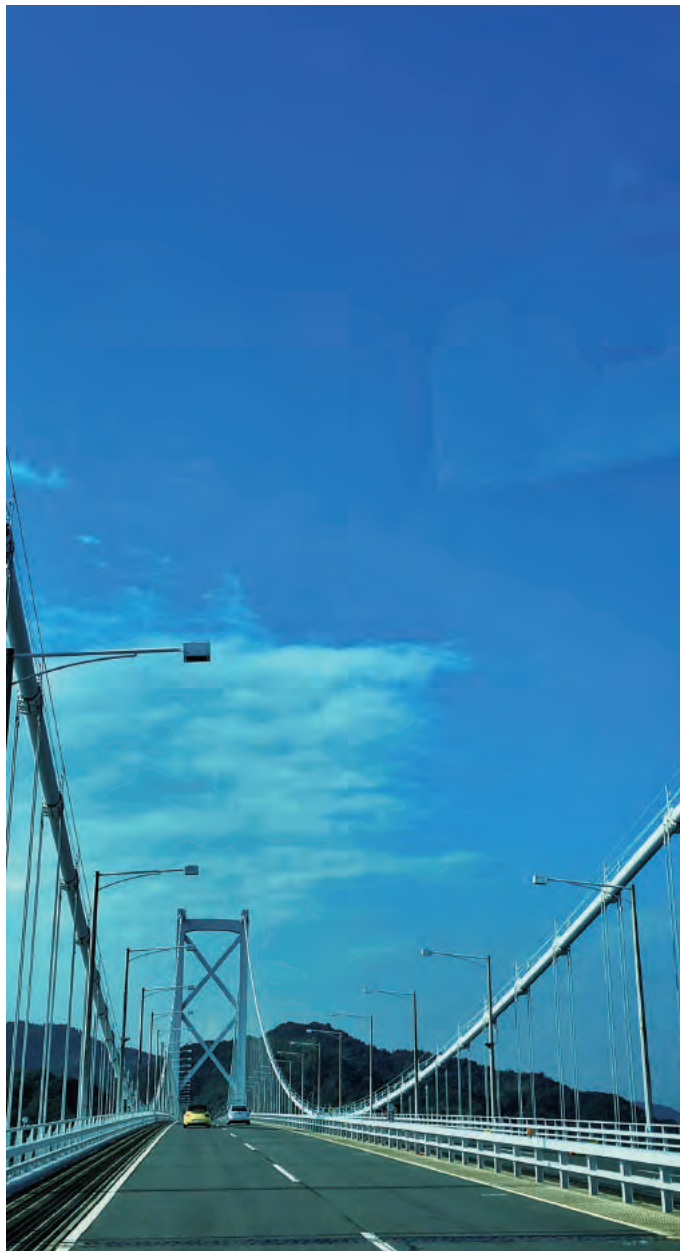


経営学は、人、もの、マネー、情報などの経営資源を活用し、市場ニーズに応じて経済的に良質な製品とサービスを消費者へ提供するための企業組織経営の学問領域です。この専門領域を内容とする当経営コースは、経営学の基本とする経営戦略、経営組織、マーケティングの理論と方法論及び経営分析、財務・税務管理、現場管理の実務、そして経営学の史的展開を体系的に学習し、将来的には企業組織の事業あるいは行政組織のプロジェクトの推進を担うことができる人材育成を目指します。

上述の目標を達成するために、経営コース中心の専門分野教育を特化させ、必修科目及び選択必修科目を再編成しています。このコース所属の学生諸君は、マーケティング戦略と経営組織の理論を主とする諸経営科目を縦断的に学習し、経済学や情報科学などの科目を横断的に学習することによって、経営の基本的な知識と技法を的確に理解できる能力を持ち、仕事を効率的に進めるための幅広い知識とスキルを身につけて、経営の視点からビジネス上の諸問題を整理・分析・解決できる人材となることを期待しています。

想定される進路

1. 企業マネジメント全般への参画
2. 企業における経営情報を活用した経営組織の在り方や経営戦略の立案、実行
3. 企業における経営情報システムの立案、実行



「インドの経済改革と経済成長の特徴と課題— デジタル・インド計画とスタートアップ・ インドを中心—to」

邵ゼミ

金元 美穂

13億という世界の二番目に多い人口を抱え、新興国として急速な成長を遂げているインドがどのような経済政策をとって発展しているのか、どの分野に力を入れているのかに関して現地調査やヒヤリング調査及び文献調査を行った上、インドの抱える課題を明確にし、今後の行方について考察した。まずインドの経済改革について「デジタル・インド計画」と「スタートアップ・インド計画」を中心に調査し、隣国でインドと同じく多くの人口を抱える中国の経済改革と比較することによって、インドの経済発展を妨げる問題点を明らかにした。また現地の方々に経済改革についてのアンケートを行い、現地の生の声を参考資料として卒業研究に取り入れた。

この研究を通して、インド国内で教育や経済の地域格差が存在すること、経済の自由化に伴う海外企業の進出によって第3次産業が早い段階から発達してきたが、第2次産業が十分に発展できておらず、経済改革によって誕生した数多くの新しいサービスはその品質が低い水準にとどまっていること等、インドの改革の特徴と抱える問題点を挙げるができる。今後国民の教育水準の向上についての意識改革や経済的・制度的な支援、そして第2次産業の発展とサービス業の質的向上に力を入れるべきだとの感触を得た。





経営理念

経営コース・教授

西村 剛

本ゼミでのテーマは「経営理念に関する理論的・実践的研究」であります。

日本ではこれまで経済を支えた多くの優れた企業家（経営者）が誕生しました。それらの企業家は、それぞれの時代の変化やそこで暮らす人びと、さらには社会のニーズを捉え、パイオニア精神、チャレンジ精神、そしてリーダーシップにより経済発展や人びとの生活向上に貢献してきました。企業家は企業の生成や発展を目指すだけでなく、企業の社会的責任に関する意識を高く持っていました。それは企業家の「考え方」、すなわち「経営理念」に現れています。この「経営理念」は企業の経営活動の指針（羅針盤）となります。そうした企業家の足跡を辿りながら、「考え方」＝「経営理念」を考察、分析します。

そのためまずは「経営理念」に関する基本的文献を輪読し、一方で実際に企業を訪問し、その企業の「経営理念」についてフィールドワークも行います。また有意義で充実した学生生活になるように企業家研究のため研修旅行、ゼミ合宿等も行います。

本ゼミの理念は「人生は楽しんだもの勝ち」です。人生を楽しむためにも一緒に学問をし、知識を深めながら有意義な時間を過ごしませんか。





経営戦略

経営コース・教授

小川 長

昔から長い間続いた農耕の時代には、力持ちが価値の高い人でした。だから、以前から力士は崇拜の対象である神様と深いつながりがあったのではないかと思います。しかし、近代文明の発展の中で道具や機械が人力に取って代わると、それを作ったり、使ったりする知能のある人が価値の高い人になりました。

今や、目覚ましい発達を遂げているコンピュータや人工頭脳（AI）は、私たちの知能の部分に取って代わろうとしています。では、こうした時代における価値の高い人とは、いったいどんな人なのでしょう。その答えは、機械にもコンピュータにもできないことができる人だと言えるのではないのでしょうか。それは、心豊かで、人に感動と勇気と喜びを与え、人を幸せにする力を持っている人だろうと私は考えています。今後は「感性」の時代となり、近い将来、高い人間性を持つ人が価値の高い人になると予想しているのです。

小川ゼミナールは経営学の中でも「経営戦略」と「マーケティング」を探究するゼミナールです。この分野の伝統的な理論は“競争戦略”を柱に、いかにしてライバルに勝ち、自社のシェアを高めるかという議論を基に展開してきました。一種“知恵比べ”の世界です。

しかし、感性の時代には、本分野でも「どうすれば、この人は喜ぶのだろうか」、「どうすれば、この人を幸せにすることができるのだろうか」という思い遣りの強さが価値を生む“人間性比べ”の面が強くなるものと考えています（本当は、これこそが経営の原点なのですが…）。

ですから、当ゼミナールでは自由闊達な雰囲気の中で、ゼミナリス滕が深い知識と教養の修得は言うまでもなく、しっかりと人間性を磨き上げ、どこに出ても恥ずかしくない、世の中に役に立つ人間に成長することを重要な目標の一つとしています。





民法

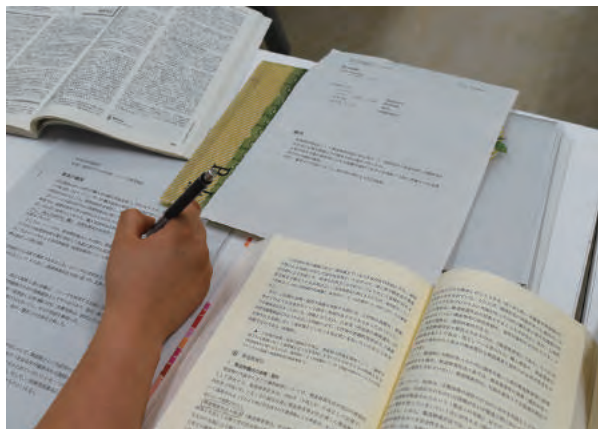
経営コース・准教授

松野 友芳

日用品の購入、住宅の賃貸、金銭の貸し借り、交通事故による負傷、銀行への預金、インターネットによる商品の購入、結婚や離婚、老親の扶養、親の遺産の相続……。私たちが日常経験するこのような私的な生活関係に関するルールを定める法を私法といいます。民法はその最も基本的・一般的な法です。この民法は人の衣食住・経済生活に関する部分(財産法)と、人の身分・家族関係に関する部分(家族法)とから成り立っています。

ゼミでは、財産法領域の紛争に関して裁判所(とりわけ最高裁判所)が下した判決(「判例」と呼ばれます)を検討することで、民法が定めるルールの内容を明らかにすることをしています。こうした学習によって、日常生活の様々な問題を「法」という眼鏡で見ること、すなわち「リーガルマインド」を習得することを目指しています。

またゼミ活動の一環として、刑事事件の法廷傍聴を毎年行っています。これまでに、傷害、窃盗、詐欺、自動車運転致死、放火未遂、覚せい剤取締法違反などの裁判や殺人未遂事件の裁判員裁判の法廷を傍聴しました。もちろん民法とは直接関連しませんが、法や司法制度への関心を高めるきっかけになればと思っています。





経営コース

沖野拳也 (西村ゼミ)

経営コースではどんな研究をしていましたか？

私の所属するゼミでは、働き方やワークライフバランスについて学んでいます。ゼミを四つのチームに分け、それぞれが決めたテーマに沿って調査し検討を行います。それを毎週のゼミで発表し、先生から指導していただいたり、ディスカッションをしたりしています。私は待機児童の問題に関心を持ち、それが働き方にどういった影響を及ぼすのかを調べて発表しました。発表後、先生や他のゼミ生から鋭い質問が来ることもあるので、自分の発表内容を見直して、伝わりづらい部分などを改めるなど、知識だけでなく客観的な視点も養われました。

研究以外で力を入れたことは何ですか？

普段受ける講義以外の活動に、積極的に参加することです。私は同じ経営コースの小川ゼミが行う「街中ゼミ」というイベントの企画・運営に携わりました。昨年度のテーマが空き家で、その活動の中でNPOや地域の方など、普段お会いする機会の少ない方々に打ち合わせやインタビューなどでお世話になることができました。そうしたやり取りの中で、アポイントメントの取り方や名刺交換などの社会人としてのマナーを学ぶことができました。

学生生活で大切だと思うことは何ですか？

私は学ぶ姿勢が大切だと考えます。例えば、アルバイトをするにしても、単にお金を稼ぐためだけに与えられた仕事をこなすことは誰にでもできます。しかし、いつも学ぶ姿勢を持ち、この仕事を通して自分は「コミュニケーション能力を高めたい」、「忍耐力を得たい」などと考えて働けば日々のアルバイトも自分を成長させてくれる機会になります。講義以外にもサークルやボランティアなど、学べる機会はたくさんあります。そこから何か得られるかどうかは、自分次第だと思います。

現代社会の基盤となっている情報技術の基本原則を学び、経済社会における課題を解決する情報システムの設計から運用までを担当する能力を身につけることを目指します。情報産業をはじめとして、一般企業内でも、情報技術に裏付けされた、経済・経営・数理分析に強い人材を育成します。

日本の社会ではマーケット(経済)とビジネス(経営)が分かるIT技術者やコンサルタントが不足しています。例えば、ユーザ企業の置かれている市場や経営の特徴を分析し、ユーザ企業の弱みを補強し強みをさらに強化するITソリューションを提案したり、自社の経営戦略に基づいてIT戦略を立案し、それを実現する情報システムを設計するといった人材です。このようなことは工学系の情報学科を出たIT技術者には難しく、経済・経営も学ぶ本学科の情報コース卒業生が活躍できる場だと思えます。

将来このような仕事などに就く人材の育成を目指して情報コースのカリキュラムは設計されています。その情報関連科目は大きく3種類に分かれます。1つ目は計算機を用いて情報を適切に処理する能力を養う科目です。課題レポートや卒業研究など大学での学習・研究活動や、卒業後に社会における様々な活動において必要となる知識とスキルを習得する科目です。「情報活用基礎」、「情報科学入門」などの科目があります。2つ目は情報分野のより専門的な科目です。プログラミング言語によるソフトウェアの作成方法や、計算機ネットワークの仕組みや特徴、情報システムをいかに設計するかなど、情報科学の様々な分野を学習します。「プログラミング」、「ネットワーク科学」、「情報システム設計」などの科目があります。3つ目は経済経営分野と情報分野が重なる領域の科目です。異なる学問が合わさることで生まれた新しい学問を学びます。「経営シミュレーション」、「経営情報論」、「経済情報論」などの科目があります。

想定される進路

1. 情報関連の企業・組織における次世代のシステム・サービス・技術の研究開発
2. 企業・組織の経営戦略に基づいた、情報技術を駆使したIT戦略の提案・策定とその実現の推進
3. 企業・組織におけるIT戦略実現のための最適な情報システムの設計とその構築の指揮



「加速度センサと角速度センサを用いた ジェスチャ認証機能の試作」

有吉ゼミ

増田 郁人

私はスマートフォンに搭載されている加速度センサと角速度センサを使ったジェスチャ認証アプリの制作を行いました。ジェスチャ認証とは、例えばユーザがポケットからスマートフォンを取り出して耳に当てるまでの動作によって、指紋認証のように個人を識別する仕組みです。現在、加速度センサや角速度センサはカーナビやゲームのリモコンなど様々な分野で使われています。しかしジェスチャ認証は認証精度が低いという問題があり、実際に使われている例はありません。そこで、私の研究ではDPマッチングを用いたジェスチャ認証の方式を提案しました。そして実際にアプリを作成して、検証実験を行い、その結果からジェスチャ認証の課題を考察しました。検証実験ではDPマッチングの方式や閾値を変えることで、認証の成功率を高めることが出来ました。最終的には、本人の認証成功率が約90%で、他人がジェスチャを真似た時の成功率は0%に抑えることが出来ました。

また公開ゼミ発表会でプレゼンテーションできたことは、私にとってとても良い経験となりました。多くの先生方と質疑応答を行うことで、自分では気づけなかった課題を見つけることができ、さらに次に活かせるアドバイスをたくさん貰いました。また、質問に対する回答をその場で考え、自分の言葉で表現することは、緊張して上手くいかなかったりします。こういった能力は実際に経験を重ねることではしか養えず、また社会で必ず役に立つスキルであると思いました。今回このような経験ができたことを感謝しています。





データベース

情報コース・教授

高山 毅

「データベース」という言葉を一度も聞いたことがない、という方は、いまや多くはないのではないのでしょうか。最近は、「ネットショッピングを含むE-コマース（電子商取引）のシステム」「Google Mapsのような地図システム」ほか、たくさんのシステムで、バックエンド（＝目に見えない後ろ側）で実はデータベースが活躍しています。私の研究テーマ：「活用指向データベース設計」とは、現実世界を十分に吟味し、データベースの作り方を工夫することで、人間にとって本当に使いやすい、気の利くシステムを作ることです。

観光庁を設置し観光立国を推進する日本では、2020年の東京オリンピック開催に向けて、ICT（情報通信技術）を活用した真に役立つシステムの開発が望まれています。高山ゼミでは、「活用指向データベース設計」を念頭に、「観光のためのデータベースシステム開発」を中心に、教育研究を進めています。まず3年生で、「SQL Server」の実習を通じ、ビジネス用データベース管理システムの基礎を習得します。4年生ではWebプログラミング、具体的にはインターネットとデータベースを連携させるシステムの開発技術を習得します。卒業研究では実際に一人1システム、観光関連のシステムを開発し、自信をもって世の中に飛び立ってもらいます。





情報システム設計・データ分析

情報コース・教授

有吉 勇介

情報システムとは何十人やそれ以上のプログラマで開発する大規模ソフトウェアのことです。そのような大規模ソフト開発では、まず仕様書と呼ばれるソフトウェアの設計図を作り、それを使って各チームの分担を決めてからプログラミングを始めます。情報システム設計とは、ユーザの「こんな情報システムが欲しい」という要望を分析整理して、仕様書にまとめ上げるまでの一連の作業のことです。

最近日本の情報システムも、仕様書は日本人が書いてプログラミングはインドやベトナムなどのプログラマにしてもらう国際分業が多くなってきています。そのため日本のIT企業ではプログラマよりも、仕様書づくりに関わる人が増えてきています。そのため情報系の大学ではプログラミングの勉強と同じぐらいに情報システム設計の勉強が重要になってきています。

私のゼミのもう一つのテーマとしてデータ分析があります。その一環として、先日、他のゼミと合同チームを作り「データ解析コンペティション」に参加し、スーパーマーケットのPOSレジデータなどを分析して改善案等を提案しました。実際のビジネスデータに触れ、また他大学のチームの発表を聞くことができ、刺激的で楽しいイベントでした。





ビッグデータ分析

情報コース・講師

木村 文則

「ビッグデータ」「人工知能」といった言葉を最近よく聞くようになったと思いませんか？ニュースなどで頻繁に取り上げられるようになり、これらの言葉が身近になってきています。企業でも注目が高まっています。例えば金融業界では「金融」と「情報技術」を組み合わせた「フィンテック」を積極的に取り入れるようになってきているように、企業においても「ビッグデータ」「人工知能」を活用しようと躍起になっています。

私の研究室では、文章（テキスト）を中心とした「ビッグデータ」の分析が主要な研究テーマです。実は、コンピュータは数値の処理は得意なのですが、それに比べると文章（テキスト）の処理はあまり得意ではありません。しかし、インターネットの発展に伴い、文章のデータが大量に蓄積されるようになり、これを有効活用することが重要になってきています。このような時代の最先端の課題と対峙するのは、大変ではありますが、その面白さも感じています。

学生には、ゼミで文章（テキスト）を中心とした「ビッグデータ」の分析について学んでもらいますが、卒業研究のテーマは各自の希望を積極的に取り入れてもらっています。「ビッグデータ」の研究には「方法の収集（検索）」「分析結果の活用」「分析結果の可視化」などの様々な技

術が関連しています。また「ビッグデータ」分析自身が、単一の種類のデータだけでなく、様々な種類のデータを組み合わせることにより、新しい発見をすることが目標です。こういった関連する分野も含め、解決すべき問題を見つけてもらい、研究してもらっています。

自分で問題を探しその解決策を見つけることは大変ですが、社会に出てから求められる能力です。これを、卒業研究において身に付けてもらいたいと思っています。また、伝えたいことをしっかりと伝える、プレゼンテーション力も卒業研究を通して向上させてもらおうと思っています。





情報コース

箱崎寛治 (佐野ゼミ)

情報コースではどんな研究をしていましたか？

自律神経と音楽の周波数帯の関係性について研究しました。音楽が持つ曲の周波数帯を調整し、人に聴かせて得られた自律神経活動のデータをスペクトル解析するなど、統計的なプログラムの作成を行いました。私は商業科出身でしたが、ゼミの先生から分かりやすく教えていただいたこともあり、自分がしたい研究に打ち込む環境を整えてもらえました。

研究以外で力を入れたことはなんですか？

部活動です。私は3年生の時、軽音学部の部長をしました。大学には様々なところからたくさんの人が集まります。軽音学部は大学内で一番人数が多く、備後地方の軽音楽部やライブハウスとのつながりもあり、様々な人や環境に触れることができます。また、部活動に入ること、人間関係を学び、社会に出るうえで必要なコミュニケーション能力が養われると思います。

学生生活で大切だと思うことは何ですか？

「自分で考える力」だと思います。大学は高校に比べて自由に使える時間が多いです。選択肢も多く、例えば自分の履修したい授業を自分で選ぶことができます。自分が学びたいこと、成長したいことのためにどんな学生生活を送るのか。目標を決めて計画し、実行すること。それを自分の頭で考えることが大切だと思います。





教授
藤岩 秀樹

教養教育の健康スポーツ科目を担当しています。健康スポーツ科目は、「健康スポーツ実習Ⅰ」、「健康スポーツ実習Ⅱ」、「野外スポーツ実習」、「健康スポーツ学」(講義)からなっています。身体運動やスポーツを媒介に、生活の基本である健康・体力に関する正しい知識と、健康づくりの具体的方法に関する知識や実践能力の獲得をめざしています。

健康スポーツ実習では、おもにソフトボール、サッカー、バレーボール、バスケットボール、バドミントンなどに取り組んでいます。これらの実習をとおして、運動の継続化・生活化が図られることはもちろんのこと、仲間づくりの場としても大きな役割を果たしています。

さあ、あなたも一緒にいい汗をかきましょう！

私は、現代の生活環境が、現代人の“からだ”にどのような影響を与えているのかについて、体育学の観点から研究しています。とくに子どもの自律神経機能について関心があり、さまざまな調査研究を行っています。

今から約500万年前に人類の祖先が直立して歩けるようになり、次第にさまざまな能力を発達させて「ヒト」から「人間」へと進化してきましたが、現代の便利で楽な生活が、こんどは「人間」を退化させはしないかと心配しながら、日々の教育研究に取り組んでいるところです。

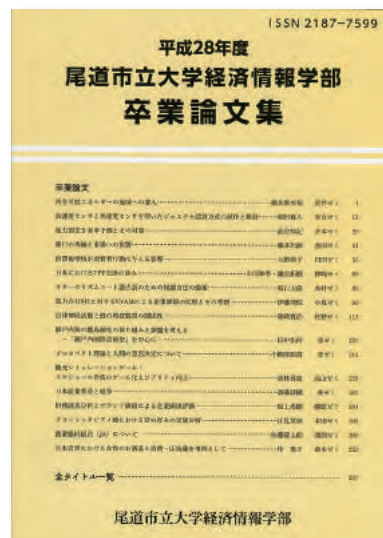


尾道市立大学経済情報学部卒業論文集

尾道市立大学経済情報学部卒業論文集は、各ゼミから優秀な論文を選択し、その研究成果を広く一般に公開する目的で刊行しています。経済コース・経営コース・情報コースそれぞれの学問の特徴を活かした卒業研究を行うため、卒業論文集のテーマも、現代社会の様々な問題に対応したものとなっています。

2016 年度卒業論文

- 再生可能エネルギーの地域への導入
- 加速度センサと角速度センサを用いたジェスチャ認証方式の試作と検証
- 地方別空き家率予測とその対策
- 銀行の再編と市場への影響
- 消費税増税が消費者行動に与える影響
- 日本における TPP 交渉の歩み
- ギターのリズムコード譜点訳のための採譜方法の提案
- 電力会社 4 社に対する EVA 法による企業価値の比較とその考察
- 自律神経活動と曲の周波数帯の関係性
- 瀬戸内海の離島創生の取り組みと課題を考える―「瀬戸内国際芸術祭」を中心に―
- プロスペクト理論と人間の意思決定について
- 観光シミュレーションゲーム：スケジュール作成のゲーム化とリアリティ向上
- 日本産業革命と戦争
- 財務諸表分析とブランド価値による企業価値評価
- クラシックピアノ曲における音の厚みの定量分析
- 農業協同組合 (JA) について
- 日本近世における女性のお洒落と消費―広島藩を事例として―



2017年度開講 専門演習Ⅰ 一覧

●経済コース

- 菅 準一 「情報及び不確実性の経済学」
 荒井 貴史 「環境問題を考える」
 河野 洋 「日本の金融制度・金融政策の研究」
 井本 伸 「経済理論を用いて、日本経済・地域経済を考える。」
 林 直樹 「ヨーロッパ近代を学び直す」
 森本 幾子 「日本の地域経済史」
 神崎 稔章 「金融経済学に関する研究」
 岡本 隼輔 「環境経済学」
 高間 沙織 「社会保障・社会政策」
 金田 陸幸 「財政学」

●経営コース

- 邵 忠 「グローバルのサービスマーケティングと品質のマネジメント」
 小川 長 「“よい経営”を実現するための実践的な学術研究と有用な人材の育成」
 西村 剛 「ワーク・ライフ・バランスの理論的・実践的研究 - 労働倫理の観点からの考察 -」
 松野 友芳 「民法の研究」
 溝淵 裕 「日本国憲法に関する研究」
 藤原 靖也 「経営学と会計」

●情報コース

- 有吉 勇介 「情報システムの分析設計、情報推薦・データ分析、プログラミングなど」
 高山 毅 「活用指向(=気がさく)データベース設計、データベースと連動したプログラミング」
 本田 治 「情報ネットワーク、複雑ネットワーク」
 佐野 夏樹 「統計的データ解析および機械学習による知識発見」
 木村 文則 「テキストマイニングを中心とした、情報アクセス技術」



経済コース



邵 忠

職名 経済情報学部長
 担当科目 「品質管理論」
 「システム工学」
 「生産システム論」
 研究題目 (1) 工場計画および中国企業の品質管理を中心とした生産管理
 (2) 中国における製品とサービスの品質管理

菅 準一

職名 教授 副学長
 担当科目 「経済学入門Ⅰ(ミクロ)」
 「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」
 研究題目 情報の不確実性や非対称性が経済主体の意思決定に与える影響を研究

小泉 伸

職名 教授
 担当科目 「教養数学」
 「ファイナンシャル・プランニング」
 「基礎数学Ⅰ(微分・積分)」
 「基礎数学Ⅱ(線形代数)」
 研究題目 群上の調和解析

荒井 貴史

職名 教授 経済コース長
 担当科目 「公共経済学」
 「経済学入門Ⅱ(ミクロ)」
 「基礎演習Ⅱ」
 研究題目 公共経済学

井本 伸

職名 教授
 担当科目 「経済学入門Ⅱ(マクロ)」
 「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」
 研究題目 経済政策と景気変動に関する研究



河野 洋

職名 准教授
 担当科目 「経済学入門Ⅱ(マクロ)」
 「貨幣経済学」
 「外国書講読Ⅰ」
 研究題目 貨幣経済学

林 直樹

職名 准教授
 担当科目 「社会思想史」
 「経済学史」
 「日本経済論」
 「外国書講読Ⅱ」
 研究題目 (1) 英国社会思想史(17～18世紀)
 (2) 経済学形成史

森本 幾子

職名 講師
 担当科目 「経済史」
 「基礎演習Ⅱ」
 「日本経済史」
 「日本歴史の流れ」
 「地域経済史」
 研究題目 近世近代瀬戸内地域における商品流通史および商家について

神崎 稔章

職名 講師
 担当科目 「金融論Ⅰ・Ⅱ」
 「国際金融論」
 「アジア経済事情」
 研究題目 (1) 国債管理と金融市場
 (2) イールドスプレッド
 (3) マネーフロー

岡本 隼輔

職名 講師
 担当科目 「計量経済学」
 「国際経済学」
 「多変量解析」
 研究題目 (1) 環境産業連関分析
 (2) 環境産業クラスター分析

高間 沙織

職名 講師
 担当科目 「社会保険入門」
 「社会保障」
 「社会政策」
 研究題目 (1) 医療政策・病院政策
 (2) 社会福祉
 (3) 地域包括ケア

経営コース

**金田 陸幸**

職名 講師
担当科目 「財政学Ⅰ・Ⅱ」
「地方財政論」
「外国書読読Ⅱ」
研究題目 税と社会保障の実証分析

**溝淵 裕**

職名 准教授
担当科目 「日本国憲法」
「法学概論」
研究題目 人権の具体化、現実化と法の役割

**高山 毅**

職名 教授 情報コース長
担当科目 「情報活用基礎Ⅱ」
「データベース」
「プログラミングⅡ」
「プログラミングⅡ実習」
研究題目 活用指向(=気がよく)データベース設計
(1)データベースを用いた観光情報システム
(2)データベースからの知識発見、レコメンデーション
(3)ITS(高度交通システム)のためのデータベース

**小川 長**

職名 教授 経営コース長
担当科目 「マーケティング論」
「戦略経営論」
「証券市場論」
「ファイナンス論」
研究題目 (1) マーケティングの理論と実践
(2) 経営戦略の理論と実践
(3) 経営における幸福の探求

**津村 怜花**

職名 准教授
担当科目 「簿記原理Ⅱ」
「会計学」
「財務会計論」
研究題目 日本における複式簿記導入過程の研究

**佐野 夏樹**

職名 准教授
担当科目 「統計学Ⅰ・Ⅱ」
「教養数学」
「情報活用基礎Ⅱ」
「ビジネスとデータサイエンス」
研究題目 応用統計学・データマイニング

**西村 剛**

職名 教授
担当科目 「経営学総論」
「経営学入門」
「経営史」
研究題目 (1) ドイツと日本の経営学説
(2) 企業倫理の理論と実践
(3) 企業における労働問題

**藤原 靖也**

職名 講師
担当科目 「簿記原理Ⅰ」
「管理会計論」
「原価計算論」
研究題目 (1) 心理学的アプローチによる管理会計研究
(2) 公的組織の会計
(3) ナレッジ・マネジメント、プロフェSSIONナリズム

**川口 俊宏**

職名 准教授
担当科目 「物理科学入門」
「地球と宇宙」
「教養数学」
「情報活用基礎Ⅰ」
研究題目 ブラックホールが宇宙の歴史に果たした役割
銀河とブラックホールの共進化
時系列データの統計解析
自己組織化臨界現象

**藤岩 秀樹**

職名 教授
担当科目 「健康スポーツ学」
「野外スポーツ実習」
「健康スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」
研究題目 (1) 子どもの発達
(2) 学校・地域における健康づくり
(3) サッカーの科学



情報コース

**松野 友芳**

職名 准教授
担当科目 「民法Ⅰ・Ⅱ」
研究題目 (1) 人格権侵害の民事的救済
(2) フランス民事責任論
(3) 借地借家法

**有吉 勇介**

職名 教授
担当科目 「プログラミングⅠ」
「プログラミングⅡ実習」
「情報基礎理論」
「情報システム設計論」
「情報システム設計実習」
研究題目 (1) 情報推薦
(2) 情報システム設計論

**木村 文則**

職名 講師
担当科目 「情報活用基礎Ⅰ」
「プログラミングⅠ」
「プログラミングⅡ実習」
「ビッグデータ活用」
「マルチメディア論」
研究題目 情報アクセス技術(情報検索、情報推薦、テキストマイニングなど)

文学って必要なの？
その答えはここに

芸術文化学部

日本文学科







日本文学科長
信木 伸一

日本文学科では、古典文学、近現代文学、日本語学、中国文学、欧米文学、といった文学・言語学の領域を中心に、民俗学、文芸創作、国語教育学も学ぶことも出来ます。こうした多様な領域の学問内容をまとめて言うと、学部名称にもなっている「芸術文化」の特に言語文化に関する探求と創造ということになるでしょうか。私たちが現実世界を理解するのも、その認識を他者に共有すべく伝達するのも言語によって行われます。そうした認識や行動が他者と共有されパターン化したものが「文化」です。この学科で学生諸君が行っているのは、こうした言語による人の営みを研究対象に、先行研究を踏まえて論理的に思考し真理を探究すること、また自分の思考や発見を自らのことばで紡ぎ出すことです。

本学で四年間こうした活動に打ち込んだ人は、話す／聞く、書く、読むといったスキルが非常に高度なものになるはずですし、その力がこれから生きていく中で大きな支えになるでしょう。これまで卒業生として多くの優秀な人材を社会に輩出してきたことがその証です。

本学科の始まりは、尾道市立女子専門学校（1946年開校、女子専門学校は旧学制における最上位の女子高等教育機関）が学制改革によって1950年に尾道短期大学（国文科）に昇格した時に遡ります。以来培われてきた知的探求を大切にする伝統は、日本文学科学生の認識・行動パターンや研究に役立つ蔵書資料に見ることができます。また、尾道市は、歴史的にも芸術文化が豊かに生み出され継承されたところであり、現在も「活力あふれ感性息づく芸術文化のまち」として市政が行われており、市民の芸術や文化への関心が高い地域です。こうした学科の風や地域性は、言語文化の探求と創造に相応しい環境と言えるでしょう。

次ページのアドミッションポリシーに、ここでの学びに適合する学生像を示しました。みなさんの「なりたい自分」のイメージと重なるなら、是非ここでいっしょに学びましょう。

アドミッション・ポリシー

日本文学科の教育理念は、日本の文学や言語についての専門知識や芸術文化への理解など、幅広い視野と深い教養を身につけた人材を育成し、人々の精神生活を豊かにし、社会の発展に寄与することにあります。

また、本学科の教育目標は、しっかりとした基礎学力の上に、広く芸術や文化を学びながら日本文学と日本語学の専門分野での研究を深め、構想力・論理的思考力・分析力を身につけた社会のリーダーや教育者、研究者等を育成することです。

このような教育理念・目標に基づき、日本文学科は以下のような入学者を求めています。

- ・ 従前の教育課程等において十分な国語の力を身につけた人
- ・ 知的探究心をもち、日本語・日本文学を深く研究していきたい人
- ・ 対象を冷静に観察し、論理的に考察することができる人
- ・ 文学作品のもつ多様な価値観を柔軟に受け止められる人
- ・ 文章読解力と文章表現力を高め、その力を発揮していきたい人

日本文学科の授業

日本文学科は日本文学系・日本語学系・中国欧米文学系の3つの領域からなり、広い分野にわたって、専門性豊かな教員が、学生の学習意欲に応えるために、全力を注いでいます。

基礎演習(1年)、専門演習(2・3年)を設置し、卒業論文に結びつくようになっています。卒業論文は論文だけでなく、創作作品も認めています。

少人数による徹底した双方向教育によって、教員・学生相互の人間的な触れ合いが密になり、充実した学生生活を送ることができます。

トピックス：日本文学科の学生が中国短編文学賞に入賞しました！

日本文学科4年 小池夏美さんが「第49回中国短編文学賞」の優秀賞に選ばれました。

受賞作：「CCに並ばない」(平成29年5月12日(金)中国新聞朝刊に掲載されています。)

中国短編文学賞・・・中国新聞社(広島市中区)が主催する中国地方在住・在学・在勤者を対象とした短編文学賞。第49回は芥川賞作家高樹のぶ子さんによる審査の結果、184編の応募の中から大賞1編、優秀賞2編が選ばれました。本学学生は小池さんのほかにも3名が二次審査に残り、大いに健闘しました。

小池さんのコメント「このような賞を頂けて光栄です。これからも頑張ります！」



学科行事・学会行事

日本文学科では教員と学生の親睦、同じ学年や学年を超えた学生間の親睦、あるいは自分の研究や学識を広げ深めるために、次のような学科や学会主催の行事を行います。



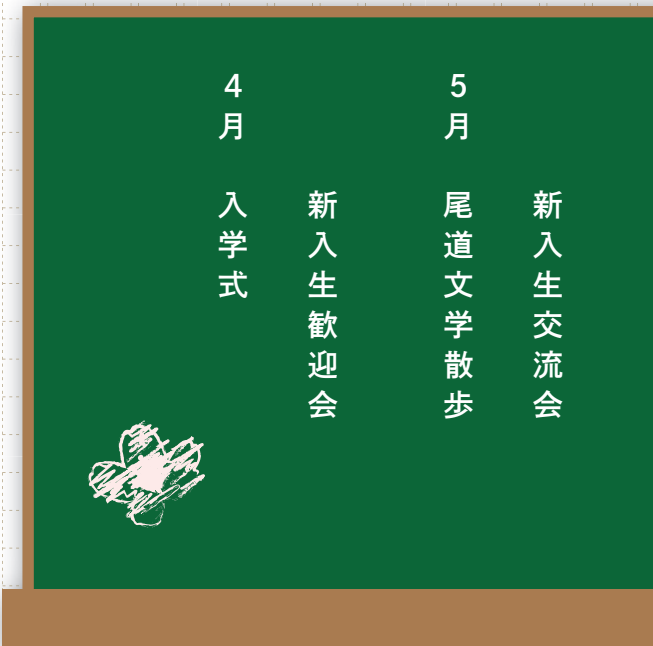
新入生交流会



1年生と教員、上級生で尾道の名所旧跡を訪ねます。
4年間を過ごす「文学の街」をゆっくり堪能♡



オープンキャンパス



卒業論文中間発表会
卒業論文製作の中間報告会。ここで色々な意見を聞いて、4年生はいよいよラストスパート！！

キャンパスツアー

8月
オープンキャンパス

10月
卒業論文中間発表

11月
フィールドワーク

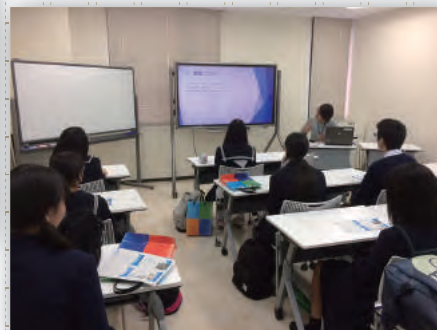
1月
卒業論文提出

2月
卒業論文口頭試問

3月
卒業式



3年生になったら尾道を飛び出して全国の文学ゆかりの地を訪ねます。授業の一つなので楽しく学べて単位も取れます♡



キャンパスツアーでは、大学生を疑似体験



卒業式





日本語学 (古典語)

日本文学科・講師

藤本 真理子

日本語の歴史的变化を中心に研究しています。

今、私たちが話したり書いたりしていることばと、昔の人のことばとは、どこかでつながっているはずなのに、どんなふうになってきたのか、まだまだ分からないことがたくさんあります。

古い資料の全てが残っているわけではありません。そのため、これらの資料の点と点とをどのようにつないで、歴史や変化の線を描いていくのかは私たちに任されています。

そのときヒントになるのは、他の国のことばや、日本の中の方言など、さまざまなことばの変化です。そうして描き出したストーリーはまた、ことばの世界を広げていくものになるのでしょうか。



授業風景 日本語学講義I (辞書史)

この授業では、古代から明治までに編纂されてきた辞書について学びました。

授業で実際に読んだものに『類聚名義抄』があります。これは12世紀に作られた漢和辞書で、辞書の説明の中に「一」などよくわからない記号が出てきます。実は、この記号はよく使う文字を省略して使っていたもののひとつ。「一」は漢字の音を意味し、次に読み方を示すということを知らせるものだったのです！

また、明治期にキリスト教宣教師のヘボンによって作られた『和英語林集成』の初版と第三版を見比べました。第三版には、初版には見られなかった「パチパチ」「ペラペラ」などの擬音語の項目が増えています。このことから、第三版ではより日本語の話しことばを意識した内容になっていることがわかります。

ほかにも「『今日』という言葉の説明するなら？」という課題が与えられ、辞書編纂者になったつもりで考える時間もあり、言葉の説明する難しさを改めて学びました。

日本文学科3年 藤本 彩・宮城萌実



日本語学（現代語）

日本文学科・教授

灰谷 謙二

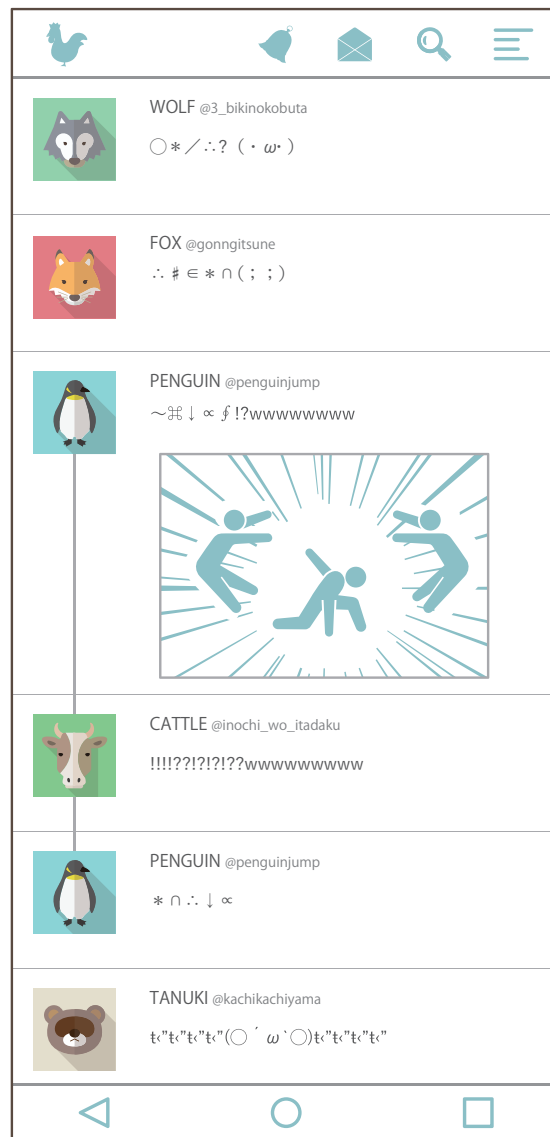
日本語の現在の姿は、話し言葉、書き言葉のほかにも、世代やグループ、場面などでいろんな形をとっています。現代語学ゼミでは、かなり広く対象を限定せずにそれぞれの興味関心をほりさげていきます。

たとえば、Twitter や LINE などみなさんがやりとりするコミュニケーションで使う言葉は書き言葉ですが、話し言葉にとっても近い姿をしています。しかしそこには、声、表情、場の空気のような文字に表せないが、とても気をつかう情報が欠けています。どうやってそれを補うのか、またそのような気遣いはどういう関係のどんな話題や場面で行われるのか。まだまだ過渡的なコミュニケーションツールであるだけにみんなが試行錯誤しながらいろいろな表現の工夫をしています。そしてその工夫のなかに、わたしたちが大事にしている、（あるいは縛られている）社会的価値観がにじみでているのです。

談話のなかの沈黙、会話の切り出し、相づち、終助詞をつかわない（独り言のような）会話などの問題に焦点をあて、わたしたちの言語コミュニケーションの質的变化に目を向けています。

ことばについて立ち止まって疑問をいだき、考えることは、面白いものです。それだけでなく、わたしたちの生活の営み自体を考えることにつながります。

“日常が学問になる瞬間”をぜひ体験してみてください。





日本中古文学

日本文学科・准教授

岸本 理恵

専門は中古文学（平安時代の文学）です。中学校や高等学校の教科書に必ず載っているような作品も多く、例えば『伊勢物語』は在原業平をモデルとした歌物語として有名ですね。けれども、この作品に出てくる歌が、実は業平の時代から100年近く後の人のものもあることをご存知でしょうか。これは一体どういうことなのか。おそらく、業平の時代に成立した『伊勢物語』の原形に、後の人が後の歌を利用して物語を新たに創作して加え、それが今私たちの見ている『伊勢物語』ということのようです。しかも、『伊勢物語』の古い写本の中にはそうした段があったりなかったり様々です。このことは、『伊勢物語』の読者たちが物語や業平をいかに愛していたかということを知るとともに、私たちが今読む『伊勢物語』の成立時期を考えるヒントも与えています。

作品がどのように成立し、伝えられてきたのか、長い歴史の中でどのように読まれたのかを考えてみると、作品の魅力を改めて知ることになります。有名な作品でもまだまだ未知の世界が広がっているのです。こうした作品の深い世界を一緒に探してみませんか。





日本中世文学

日本文学科・教授

藤川 功和

『徒然草』に、人に食いつく狐やら、鬼に変化した女性の噂話やら、猫また(!?)やら、フシギ系なお話がけっこう記録されていることは、「つれづれなるままに～」の冒頭程にはあまり知られていないかもしれません。その内、例えば、栗ばっか食べるチョー偏食娘と娘を軟禁する父親のエピソードの書き留め方からは、現代にも通用しそうな〈物事のミカタ〉も学べるような気がします。タイトル通り「つれづれなる」時にオススメの一冊です。

授業風景

藤川ゼミでは、主に百人一首の享受史研究に取り組んでいます。昨年度取り上げた「もじり百人一首」は、今まで題材にしてきた作品の中でも異彩を放っていました。その名の通り、百人一首の歌をもじったものなのですが、先人たちの詠み上げた素晴らしい歌があんな姿やこんな姿に……!?

気になる! 興味がある! という方、ぜひ研究室に足を運んでみてはいかがでしょうか。

日本文学科4年 田口智恵美



▲あんな姿

▼こんな姿





日本近世文学

日本文学科・教授

藤沢 毅

専門は、日本近世文学（江戸時代の文学）です。

実は私、大学入学前はロシア語学科を第一志望にしていました。しかし、そこには不合格で、しかたなく第二志望の国文学科に入ったのです。最初はあまりおもしろくなかったのですが、いつしか江戸時代の文学の魅力にはまってしまいました。江戸時代の文学にはたくさんのエンターテインメント（怪奇、幻想、冒険、恋愛小説などのようなもの）があります。そして、それらのほとんどは、現在一般的に知られていません。未開拓の分野を研究し、評価できたものを紹介する。それが今の私のスタイルです。

授業は、できるだけ興味深い題材を採り上げ、学生参加の形で、かつ1年生から4年生まで徐々に難易度を上げていきます。歌舞伎や人形浄瑠璃を解説する授業もあります。



授業風景 近世文学専門演習

2016年度の近世文学専門演習では、前期は『西国諸国ばなし』、後期は『懷硯』という、井原西鶴作の浮世草子を取りあげました。

前期に扱った『西鶴諸国ばなし』は、全35章の諸国の奇談・怪談を集めたものです。受講者は各担当を決め、研究・発表を行いました。「怪談」と聞くと、「怖いはなし」というのが現代の我々のイメージですが、近世では「不思議なはなし」という意味になります。『西鶴諸国ばなし』はまさに「不思議なはなし」の宝庫です。蛇にのまれ髪の毛がすべてぬけてしまった12人の坊主の話、池で飼っていた鯉が口から子どもを吐き出し去っていく話、老人が女の妾を口から出し、妾が今度は間男を口から出すという話などがあり、本文を読めば読むほど疑問が浮かびます。疑問を解決できることもあればできないこともあり、受講中は四苦八苦しました。

近世には町人文化の発達により、庶民向けの文学が多く誕生しています。それらは現代の私たちの心をも引き付ける作品なのです。人情味あふれる近世文学の世界へ誘われてみませんか？

日本文学科3年 小林 文



日本近現代文学

日本文学科・教授

柴 市郎

私の専門領域は日本近代文学です。明治時代から昭和期までの文学を主要な研究対象としています。作家で言えば、夏目漱石や小林秀雄といった文学者たちが対象です。さらに現在は、自分の研究領域を小説や評論といったジャンルに限定せず、映画など活字メディア以外の分野についても考察しています。

近年、文学研究の世界は多様化し、一昔前では文学研究の領域とは見なされていなかったジャンルに関する研究もなされるようになってきました。学会の研究誌にも、アニメーションなどのサブ・カルチャーや映画に関する研究論文が掲載される時代になりました。

こうした新たな文学研究の動向にも配慮し、多様なジャンルの表現にも視野を広げてもらえるよう、講義・演習をおこなっています。右は、近現代文学専門演習という授業において、昨年度の学生たちが自主的に取り組んだ研究テーマをもとに履修学生阿部 千遥・岩本 美香・佐合 由佳・宮崎 飛鳥(以上柴ゼミ3年生)がデザインしました。これをご覧いただくと、文学の勉強と言っても、有名な作家や小説についての研究ばかりでなく、今日では実にさまざまな切り口があることをおわかりいただけると思います。





日本近現代文学

日本文学科・准教授

原 卓史

坂口安吾・太宰治などの〈無頼派〉〈新戯作派〉を中心に研究活動を行っています。作家のことを調べたり、時代背景のことについて考えたり、歴史的な文脈の中で作家・作品をとらえたり、文学理論を用いたり、ありとあらゆる可能性を考えます。また、歴史小説・時代小説を中心とした大衆文学についても興味を持って研究しています。対象となるのは、文学作品だけではなく。ライトノベル、マンガ、アニメ、映画、ドラマなどと、どのようなメディアミックスを起こすのかといった問題についても研究しています。



授業風景

【ゼミ風景】

今年度は、研究生1名、4年生7名、3年生5名の13名で行っています。4年生は卒業論文のテーマは舞城王太郎、泉鏡花、牧野信一、中原中也、坂口安吾、文芸創作です。3年生には文学研究の方法が作品解釈だけではないことを知ってもらうよう心がけています。

【授業風景】

前期・後期ともに担当するのは、パソコンを用いて日本文学研究のやり方と日本語の表現の仕方を学ぶ「日本語表現法」、近現代文学の代表的な作品について学生が発表する「近現代文学専門演習」です。前期は教養科目の「日本の文学」と学生の読書感想文発表と講義からなる「日本文学史」を、後期は白石一郎『海狼伝』を読む「日本文学講読」、肉体文学について考える「日本文学講義」を担当する予定です。





国語教育学

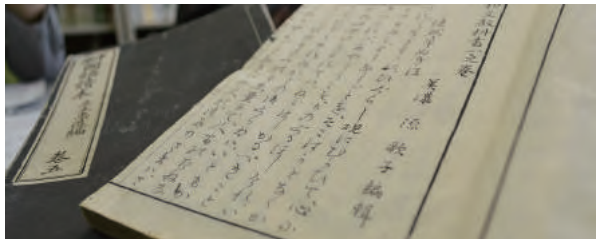
日本文学科・教授

信木 伸一

私が担当する国語教育学は、子どもたちが"ことばの力"を身につけて、よく生きていけるようになるための学びを研究します。"ことばの力"が生きることと関わるのは、それが自分と〈世界〉や〈他者〉との関係を新たに創り出したり別様に組み替えたりする力だからです。

例えば、テキストを読むことは、新しい自分を作っていくことに関わっています。テキストは、それを書いた人が、無意識のうちにも自分の生きる社会や文化の中での何かを問題にとりあげて、自分にとっての現実の意味を付け加えて創り出したものです。その問いかけと現実の意味づけをめぐる、私たち自身のことばを紡いでいくなら、それは新しい認識を創造する対話的な読みだと言えるでしょう。このような読みの学力を獲得する学習の理論と方法を探求するのも研究テーマの一つです。

こうしたこれからの国語教育の探索の他、近代国語教育の始まりについて調査・分析を行い、言語文化が教育によってどのように創られていくかを明らかにする研究も行っています。



授業風景

一口に「国語教育」といっても、研究のテーマは様々です。授業の方法についての研究もあれば、あるジャンルの教材を取り上げて考察する研究もあります。私は授業中に教師が行う働きかけとそれに対する生徒の反応について研究しています。

定期的に研究室で集まって、そうした各自の研究の進捗を報告し合い、先生から助言をいただきます。教育の現場で活かせる知識も得られるので、その道に進もうと考えている方は是非いらしてください。(4年 鶴田裕也)

信木ゼミは、他の近現代ゼミなどに比べると人数は少ないですが、それだけひとりにかけてもらえる時間が多く、安心して研究を進めることができると思います。ゼミはお菓子や飲み物をいただきながらのアットホームな感じですね。ゼミが始まる前にお菓子を買いに売店に走ることもしばしばあるくらい！それから先輩達はマイカップを持ち込んでいたようです。そろそろ私も置いてみようかな？(4年 宮川真悠)



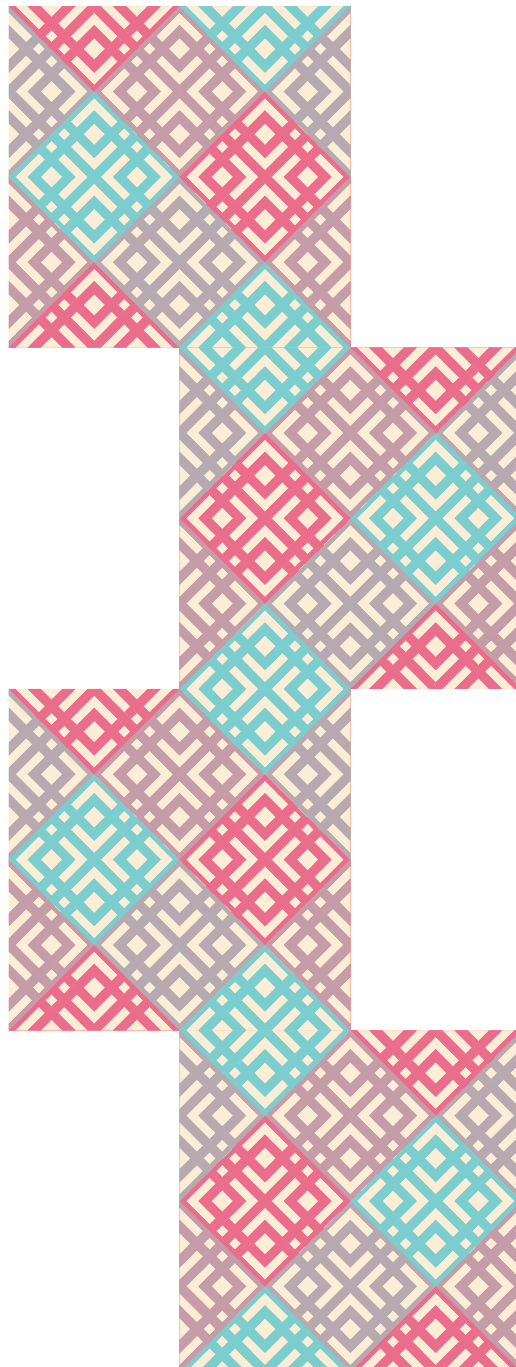


中国文学

日本文学科・准教授

鷹橋 明久

現代日本は欧米文化の影響下にありますが、明治以前にあっては1500年にわたって中国の影響を受けてきました。よって、中国の伝統文化は日本文化の基層に濃密に埋もれ、現代を生きる日本人にも無意識に作用しているといえます。われわれ日本人の体質の底辺に潜み、皮膚感覚にさえなっているものと呼び覚まし、われわれ日本人の内面に存在するアジア的なものをどんどん発掘していきたいと考えます。現代を生きる我々が見失っている生き方や考え方の素晴らしさを再発見できることでしょう。





欧米文学

日本文学科・准教授

小畑 拓也

20世紀中頃以降のアメリカのSF (science fiction/speculative fiction) を研究対象にしています。文化研究 (cultural studies) の立場から、娯楽として消費されるステレオタイプ化したイメージ (宇宙船、ロボット、タイムマシンなど) の分析・再解釈を通じて、「常識」というかたちで人の意識を縛る固定観念を解きほぐせないものか試行錯誤を続けています。

授業風景

授業・演習

「欧米文学概論」・「欧米文学講義」・「比較文学」の講義科目では、「文学」との関わり方を「趣味」から「研究」へとシフトしてゆく上で必要となる術語の提示・解説に注力しています。演習科目の「欧米文学専門演習」では、受講者の興味関心のあり方に応じて、ひとりひとりが主体的に文学研究に取り組んでゆくための情報収集と分析の基礎から訓練を積んでもらうことにしています。

ゼミ

英米文学の研究者である私が日本文学科で受け持つ特殊なゼミであるため、外国語の文献を読むことに苦手意識をもたない人の参加を求めています。





文芸創作

日本文学科・教授

光原 百合

文芸創作を教えていると言うと、しばしば「文芸創作って授業で教えられるんですか？」と驚かれます。その答えは、イエスでありノーでもあります。

受講する学生にも必ず話すのですが、『何を書きたいか』については自分で模索し、つかみとっていくしかありません。その意味では「他人に教えることはできない」といえますし、そこにこそ創作という営みの一番の面白さがあります。

しかし『書きたい内容を的確に伝えるにはどう表現すればいいか』については、経験者から教えられることがたくさんあります。たとえば陸上競技で、コーチにフォームを習ったらとたんに記録がぐんと伸びた。そんな経験はありませんか？文芸創作にも同じことがしばしば起こるのです。

そんなわけで文芸創作の授業では、「自分が本当に書きたいことを書くために効果的な『フォーム』を身に着ける」のを目標に、様々な課題に取り組んでいます。私がこれまでの執筆経験から体得したコツも、できるだけわかりやすく伝えるようにしています。こうして身に着けた文章力は、ゼミでの創作活動だけでなく、社会に出てからも大いに役立つことでしょう。

授業風景

光原ゼミの主な活動は、先生から与えられるお題に沿って小説を書き上げること。そして、でき上がった小説をゼミ内で見せ合い、意見の交換を行うことです。課題の例としては、「味課題」というものがあります。文章による描写を練習するため、好きな食べ物を「おいしい」という言葉を使わずにおいしそうに書くという課題です。ほかの人の作品を読んでいると、どれも本当においしそうに描かれていてお腹が減ってくるので「飯テロ課題」と言われているとか。

これらの活動を通して、他人から自分の文章がどう読まれているのか、どうしたら伝わりやすくなるのかなどを学ぶことができます。これまで一度も小説を書いたことがないという人でも、書いてみたいという思いがあれば大丈夫です。

私は『尾道草紙』（68ページ参照）に参加し、作品を載せて頂きました。その年の『尾道草紙』を読んだ声優の大原さやかさん（話題の映画『君の名は。』で宮水三葉を演じた著名な方です）が、ありがたいことに私の作品をご自身のインターネットラジオ番組にて紹介して下さいました。「月の音色」という、大原さんが選んだ作品を朗読なさる番組です。自分が書いた作品が音声になって再生されると、同じ作品でも文字で読むのとは違う印象に変わるのだということを知る機会になりました。

4年 小池夏美

文芸創作ゼミに所属して最終的に目指すのは、四年生で取り組む「卒業制作」です。これまでやってきたことの集大成として、一本小説を書いていくことになります。ゼミでの課題とは違い、特に先生からお題を提示されることはありません。自分が好きな物語のジャンル、描いてみたい舞台や登場人物——など、その人ならではの切り口から、自由に構想、執筆していきます。卒業の必須課題であり、大学生活の集大成ですので、書く苦労はさらに大きなものとなるでしょうが、その分自分の物語を語りつくす喜びも大きいはずです。

小説を書く上では、その物語を人に伝えられるような文章を書いていくこと、多くの人に作品を見てもらうという意識を持つことも大切です。その意識を持つ訓練の意味で、二年生三年生の間に様々な文学賞に応募することも奨励されます。ちなみに私は中国新聞社主催の「中国短編文学賞」に応募した際、一次選考を突破することができました。次回はさらに上を目指します。

4年 田端敏之



民俗学・伝承文学

日本文学科・准教授

藤井 佐美

「伝承」というキーワードを手がかりに、文学と民俗学の両面から日本文化を研究しています。文字だけでは理解できない世界も、フィールドワークを通して身近に感じられる場合があります。個人的には、昔のお坊さん達がお説教に取り入れた昔話や伝説、口伝の世界を研究していますが、一方では瀬戸内海を含む様々な地域の民俗調査も進めています。まったく別世界に思われる分野が自然に結びついた時、日本文化の奥深さを実感するだけでなく自分自身が何者なのか、これから何が必要なのか、少しずつ見えてくるような気がします。ゼミには好奇心旺盛な学生達が集まり、重層的な研究方法から自分達の意外な面を発見しているようです。また、研究室では別項掲載「伝承文化研究会」も活動中で、近隣地域のフィールドワークも楽しんでいます。



ゼミ学生のテーマより

- 愛媛県の和気姫伝説
- 浦島太郎伝説
- 岡山県の温羅伝説
- 流し雛
- 中四国の神楽
- 四国の狸伝説
- 瀬戸内海の祭祀
- 鬼が神になる祭
- 大分県姫島の神話と伝説
- 絵巻の中の動物
- 全国の子姥伝説
- 月見と禁忌
- 御伽草子と昔話
- ふるさとの民間伝承
- 広島県竹原市の塩田文化
- 雨に関する古代表現
- 災害を伝える民話
- 日本の地藏信仰
- 姑獲鳥の歴史
- 羽衣と天人女房
- 島根県の丹塗箭伝説
- カラスの神事



英語

日本文学科・教授

高垣 俊之

私は複数言語の習得・使用に関する諸問題を、個人、教育、社会の各面から主に英語に着目して研究をしています。

個人面の研究では英語と日本語のリテラシーを分析し、教育面の研究では国際語としての英語という視点から調査をし、社会面の研究ではカナダの言語政策を通して検討してきました。その他、日本におけるマイノリティの言語事情にも関心があります。Bilingualism/Multilingualismの世界を今後も広く深く探求していきたいと思っています。



英語

日本文学科・准教授

平山 直樹

私の専門分野は英語学で、15世紀イギリスの名家である「パストン家」の人々を書いた手紙の英語を研究しています。手紙では、気持ちを伝えたり、お願いしたりします。このようなコミュニケーションに関わる重要な表現である、「自分は～する」という意味の“I will/shall ~”や、「あなたが～することを願います」という意味の“I pray you ~”など、話者の心的程度や聞き手への気遣いに関わる言い回しに注目し、これらが当時どのように使われていたのかを調べています。また、相手との人間関係や話の内容によって、それらの使われ方に違いがあったのかどうかにも着目しています。

授業は教養科目の英語を担当しています。TOEIC対策の授業では、テストへの対応力だけでなく、会社、旅行、広告、ショッピングなど、ビジネスや日常の場面で使う英語の基礎力を身につけることを目指します。また、読解演習を中心とした授業では、文構造を正しくとらえ、文脈に合った解釈をする練習を繰り返します。これにより、授業後も自己学習が進められる力を身につけることを目指します。

中世文藝研究会



これが読めたらぜひ研究会に！

どらき
をわれ
まも
はる
新多の
小野
かろ
おき
あき

中世文藝研究会は、「中世文藝」に関連する資料を広く研究対象とする自主ゼミです。前年度は、江戸時代に緑亭川柳という人物が編集した『義烈百人一首』を取り上げ、くずし字を活字に翻刻する作業を行いました。

忠義を貫いた武将やその妻たちの歌を集めた『義烈百人一首』には、彼等のアツいエピソードも共に収められています。彼等の生き様に涙していたら、いつの間にかスラスラとくずし字が読めるようになっていた…と驚くことも！

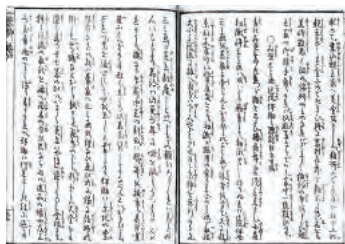
くずし字が読みたい！ 和歌が好き！ 歴史が好き！
そんな方、お待ちしております。

（研究会メンバー 日本文学科4年 小松春菜）



近世文学

原典講読ゼミ



近世文学 原典講読ゼミ

江戸時代の読本を原典(江戸時代に出版された本)で読んでいくゼミです。そこには、くずし字、異体字といった、現代とは違う文字が多々見られます。最初は1行読むのに悪戦苦闘する学生ですが、1年もするとかなり読めるようになり、卒業論文執筆時には5～6冊の読本を独自に翻刻(現代の文字に直すこと)をする学生もいるほど!ゼミや卒業論文で翻刻した成果は、冊子にして公開しています。

伝承文化研究会

伝承文化研究会

日本の様々な伝承世界を資料調査とフィールドワークから研究しています。現在は身近な地域の伝説調査や発掘した古文書の活字化、データベース化などを進めています。豊かな自然と人々とのあたたかい交流で得た成果は、映像資料や音声資料としても残し、報告論文や展示などにより一般公開もしています。興味がある人は藤井研究室を訪ねてみてください。ここ尾道から、過去・現在・未来の日本文化を考えてみましょう!



おのみち文学三昧

(尾道市立大学日本文学会大会・公開講演会)

おのみち文学三昧は、尾道市立大学日本文学会と学科主催の公開講演会が連動した文学イベントで、2009年から毎年12月に開催しています。

過去8回の会場は尾道駅前のしまなみ交流館で、ひろく尾道市民のみなさんにも参加いただいています。

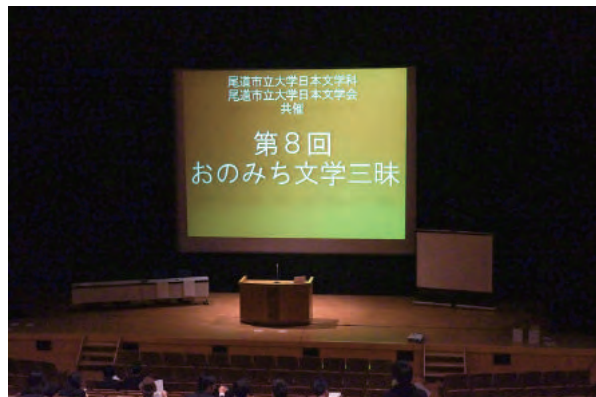
尾道市立大学日本文学会は、日本文学科所属の教員と学生及び本学会の趣旨に賛同する者を会員として、学会大会(研究発表)・講演会・学会誌発行などの活動を行っています。

また、学会誌『尾道市立大学日本文学論叢』には学生も研究論文や創作作品を投稿しています。



尾道市立大学日本文学会

おのみち文学三昧



日本文学科主催の公開講演会は、学生の関心に合わせ、近隣の地域に限らず遠方からも講演者を招いています。2016年度は、文芸評論家・アンソロジストとしてご活躍の東雅夫さんに、「ふるさと怪談の時代」という演題で、怪談の魅力と可能性についてお話いただきました。

また、公開講演会に関連する本を題材にしたビブリオバトル(書評合戦)を開催して、学科教員も含めたバトラー達が、熱い書評合戦を繰り広げました。



▲告知ポスター デザイン
美術学科3年 治居 沙恵

おのみち文学三昧 公開講演会



東雅夫さんによる公開講演「ふるさと怪談の時代」



ビブリオバトル



東雅夫さんを囲んで

尾道市立大学芸術文化学部には日本文学科と美術学科が併設されており、全国的に見てもユニークな構成となっています。それを象徴するような、文章と絵のコラボレート企画が『尾道草紙』の出版です。

『尾道草紙』とは〈尾道の魅力を新たな創作作品によってさらに輝かせる〉というコンセプトのもと、2006年から、日本文学科学学生が物語を執筆し、美術学科学学生がそれにイラストをつけて制作している作品集です。学生には編集にも積極的に携わってもらっています。創刊から12号を数え（他に別冊が一冊）、これほど長く作り続けてもまだ物語の種の尽きることがない尾道という土地の魅力の奥深さに、制作者たちも驚いています。今では日本文学科と美術学科からなる尾道市立大学芸術文化学部の特徴を表すものとしてすっかり定着し、尾道市民の皆さんにも、尾道に心を寄せてくださる市外の皆さんにもご好評を得ています。また、声優の大原さやかさんが中心であるインターネットラジオの朗読番組『月の音色』で『尾道草紙』掲載作品を何度も取り上げていただき、全国の方に存在を知っていただく機会ともなりました。

近年、日本各地でそれぞれの地域の個性が薄れつつあることに危機感が高まっており、それと共に「物語」を通じて地域の個性を守って行こうという動きが盛んになっています。『尾道草紙』が尾道の魅力を守り、さらに高めていく一助になるよう、より一層の充実を目指して参ります。

『翠幻地』は各学年の編集委員と協力スタッフの手によって発行される日本文学会の広報誌です。

その内容は学生や先生方のインタビュー、研究会紹介など多岐にわたります。取材、執筆、デザインなど、ほぼ学生の手で作られています。近年、編集にDTPソフトを導入するなど、新たな取り組みも始まりました。編集委員一人一人の日々の奮闘によって、『翠幻地』は進化し続けています。

尾道草紙



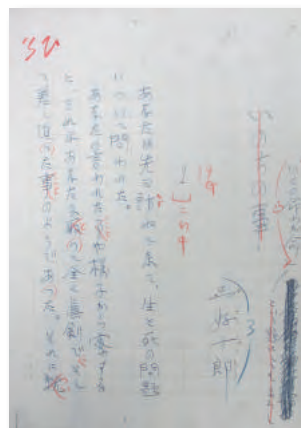
翠幻地



近代文学研究者、学習院女子大学教授・高橋新太郎氏（昭和7～平成15）は、貴重な資料を含む膨大な蔵書を残されました。そこには、作家の自筆原稿や書簡、演劇関係のパンフレットなど芸術的にも興味深い資料が多数含まれています。現在、日本文学科では、これらの貴重な資料の整理、データベース化作業にも取り組んでいます。



「探偵雑誌 ぶろふいる」第二巻第二号表紙
熊谷書房刊 昭和22年8月10日発行
江戸川乱歩「批評の遅発性」ほか掲載



詩人・劇作家、三好十郎（1902～1958）
自筆原稿「ひとの命わが命」



2016年に開催された
「おのみち文学三昧」での展示

高橋新太郎文庫

尾道文学談話会



尾道文学談話会会報 第7号表紙デザイン
美術研究科2年 平林 美咲

日本文学科をはじめ、美術学科や経済情報学科の教員が交替で講師となり、市内にある尾道市立大学サテライトスタジオで月に一度開催しています。担当の講師が文学や言葉などに関わるさまざまな話題を提供し、市民の皆さんや学生たちといつも楽しく話に花を咲かせています。年刊誌『尾道文学談話会会報』も刊行していますが、これはインターネットでもご覧いただけます。

平成 29 年度 尾道文学談話会テーマ一覧

- | | | |
|------|----------|------------------------------------|
| 第1回 | 4月3日(月) | 『雨月物語』を読む(2)―「白峰」 |
| | | 講師:藤沢 毅(日本文学科教授) |
| 第2回 | 5月1日(月) | 尾道でのひら怪談の魅力 |
| | | 講師:光原 百合(日本文学科教授) |
| 第3回 | 6月5日(月) | 幻想と怪奇の断片:落語のなかの怪談の愉しみ |
| | | 講師:小畑 拓也(日本文学科准教授) |
| 第4回 | 7月7日(金) | そとからながめて知る広島弁のすがた |
| | | 講師:灰谷 謙二(日本文学科教授) |
| 第5回 | 8月7日(月) | 名作を読む 一永井荷風『断腸亭日乗』一 |
| | | 講師:寺嶋 雅人(尾道市立大学名誉教授) |
| 第6回 | 9月4日(月) | 尾道と文化的景観 |
| | | 講師:毛利 和雄(尾道市立大学非常勤講師) |
| 第7回 | 10月2日(月) | 林芙美子の『鶴の笛』を読む |
| | | 講師:柴 市郎(日本文学科教授) |
| 第8回 | 11月6日(月) | 『ロビンソン・クルーソー』とイギリス帝国 |
| | | 講師:林 直樹(経済情報学科准教授) |
| 第9回 | 12月4日(月) | 江戸川乱歩『心理試験』の心理学 |
| | | 講師:塚本 真紀(日本文学科教授) |
| 第10回 | 1月19日(金) | 森敦の『月山』を読む(2) |
| | | 講師:刈山 和俊(尾道市立大学名誉教授)、柴 市郎(日本文学科教授) |
| 第11回 | 2月5日(月) | 『源氏物語』梅枝巻を読む |
| | | 講師:岸本 理恵(日本文学科准教授) |
| 第12回 | 3月5日(月) | 瀬戸内海の伝承を歩く(2) |
| | | 講師:藤井 佐美(日本文学科准教授) |

※時間は各回とも18:30~20:00

2016年度卒業論文・卒業制作

日本文学科では、卒業するために卒業論文・卒業制作(文芸創作)のいずれかを選択することになります。2016年度の卒業論文・卒業制作のうち領域ごとにいくつかの題目を次に示します。大学での研究の一端を想像してみてください。

●日本語学領域	論文 相互依存関係に基づく文末表現の類型と機能についての研究 論文 言語受容と言語運用からみる第二言語習得の母語転移についての研究 論文 『仁義なき戦い』に見る外部から認識された広島方言についての研究 論文 コミュニケーションの場としてのSNSと方言使用についての研究 論文 自然会話における談話展開構造についての研究 論文 女性の美称「姫」の使用法の変遷と意味範囲の変化について 論文 「鈍色」「灰色」「グレー」の境界について
●日本古典文学領域	論文 「恋死歌」考—万葉集と三代集を中心に— 論文 歌人・藤原兼宗と「見立て」表現 論文 後崇光院貞成研究 論文 近世文学の中の不思議な刀考察 論文 黒本における「道成寺説話」の描かれ方 論文 『朧月猫の草紙』の猫 論文 翻刻『[阿初/得兵衛]窓螢余譚』 論文 翻刻『説曲春栄物語』 論文 翻刻『[忠孝節話]雲井物語』
●日本近現代文学領域	論文 松谷みよ子の原爆文学作品についての考察 —『まちゃんと』を中心に— 論文 記号としての文豪 —サブカルチャー作品に登場する太宰治— 論文 『マリア様がみてる』シリーズにおける少女たち —白薔薇姉妹を中心に— 論文 故郷は遠きにありて —「小景異情」から読み解く犀星の故郷観— 論文 司馬遼太郎『項羽と劉邦』における人物造形 —『史記』『項羽本紀』との比較を通して— 論文 いせひでこ『木の三部作』 —絵本における絵と言葉の相補性について— 論文 津村節子の長編小説に描かれた女性たち —地域と働くこととの関わりを視座として— 論文 細田守監督作品における身体表現 —『時をかける少女』を中心に— 論文 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」論 論文 江戸川乱歩「D坂の殺人事件」論 論文 太宰治「ダス・ゲマイネ」論 論文 谷崎潤一郎「春琴抄」論
●国語教育領域	論文 表現性に着目した和歌の学習 論文 読みの授業における批評読み 論文 学習者の言語能力を向上させる詩の授業の検討
●欧米文学・比較文学領域	論文 ナボコフ『ロリータ』研究 —ハンバートがロリータに求めたものとは—
●民俗学・伝承文学領域	論文 天上世界の道具 —羽衣を中心に— 論文 温羅伝説の研究 —「祀られる鬼」という視点から— 論文 徳島の狸研究 —伝承と観光— 論文 広島市の災害と伝承文化 論文 愛媛県松山市中島のおみどり神事 論文 広島県府中市の七ッ池伝説
●文芸創作領域	創作 倭妖物語集 創作 水面 創作 黒甜戯語 創作 受胎 創作 ナンバリング・サーガ 創作 シガレット 創作 シュビーゲル 創作 私と、私の嫌いな 創作 プリズムリズム

確かな造形力
表現を磨く。

表現する意欲
感覚を開放する。

メディアの有効利用
美しく伝達する。

芸術文化学部

美術学科



ARTS & DESIGN





芸術文化学部・学部長

吉原 慎介

尾道というところは瀬戸内特有の島々が織りなす景観、多くの海産物、山間の里山風景や暮らし、植物や動物等、市街地には歴史ある寺院や街並み、郷愁を誘う伝統の行事、コンパクトながら自然や文化が凝縮された街に尾道市立大学美術学科が有るのは必然なのかもしれません。

昨今の美術世界は多岐にわたり様々な表現や考え方が広がりをして従来の概念では量れなくなってきました。しかし大学に於いては普遍的な美術の根幹というべきものを学んでいきます。

たくさんの好奇心や刺激を受けて何もないところから表現を模索する行為は幅広い視野と観察、強い意志と信念、何よりも基礎的な造形力が必要です。より良い作品をつくるために志を同じくする者が励まし合い、競い合い共に向上していくところ、大学で学ぶ意義と考えます。学生たちは日々その先にある独創的な自らの世界を目指して努力しています。

みなさんと学べることを心から楽しみにしています。



選択コース(日本画コース・油画コース・デザインコース)

1 年 次	デッサン基礎実習・彫刻実習・構成実習（平面・立体） 総合基礎実習（日本画・油画・デザイン）		
	1年次後期にコース選択 2年次にコース確定		
2 年 次	日本画コース	油画コース	デザインコース
	風景制作 人体デッサン 静物制作 人物制作 動物制作	風景油彩 人体油彩	5つの領域から選択 (各領域から課題を出題) グラフィックデザイン タイポグラフィ イラストレーション 映像表現 立体造形 マーケティング実習
	風景制作 人体デッサン	地域活性化企画 地域テーマ制作	
3 年 次	古美術研究研修演習		
		進級制作	進級制作
4 年 次	自由制作 人体デッサン 人物制作 卒業制作	自由制作 卒業制作	自由制作 卒業制作
大 学 院	専門領域の制作および研究 (より専門的な制作や研究を行う機関として大学院が設置されています)		

アドミッション・ポリシー

美術学科は、純粋芸術である日本画・油画と、社会生活と密着したデザインの3コースで構成されています。学生諸君の美に寄せる豊かな個性を尊重しつつ、各ジャンルにおける専門的な実技教育を行い、画家やデザイナーとして、或いは美術教員・芸芸員として、持続的な造形活動に携わる人材の輩出を目指しています。

このような教育理念・目標に基づき、美術学科は以下のような人を求めています。

美術への広い視野を常に持ち、自らの能力を高めていこうとする意欲の強い人

自らの信念を持ち、将来にわたってそれを持続していける人

自己の可能性を信じ、その具現化に対しての努力を惜しまない人

専攻を選択できるコース制

1年次は、基礎実技を重視して基本的な造形能力を養います。全員が共通課題として、デッサン基礎実習、彫刻実習と3つのコース課題（構成実習／日本画・油画・デザイン）を体験します。その後、各自志望コースの課題（総合基礎実習／日本画・油画・デザイン）を選択し、自己の資質と方向性を吟味します。2年次からは3つのコース（日本画・油画・デザイン）に分かれ、1年次で学んだ基礎力を踏まえて、それぞれの分野の知識や技術の修得に力を注ぎます。

美術学科では、美術における専門家として持続的な造形活動に携わり、地域や社会の文化・芸術に寄与する人材の輩出を目標としています。このことを踏まえ、所定卒業単位の取得と卒業制作に加え、以下の能力を身につけた学生に対し、学位を授与します。

専門分野の基礎的な知識や技術を習得し、自己表現の可能性を積極的に探究できる力

創作活動を継続的に行う能力や意欲

美術を学んだことにより身につけた視点やコミュニケーション能力を、社会や自己における新たな問題発見や解決につなげていける展開力や応用力

尾道から外部へと発信

美術学科では、尾道という「場」で制作活動を行うことの可能性を最大限に活かすことを模索しています。

大学のある久山田水源地近くの静謐な環境は、個に集中し制作に打ち込むのに適しています。

また、大学近隣の豊かな自然環境や尾道の街の持つ独自の環境は、多くのインスピレーションを与えてくれることでしょう。実際に、大学近辺の豊かな自然環境や風景を活かした制作や、尾道の街中を实践の場とする展覧会、イベント参加等の活動、産学連携のプロジェクトや市民団体とのコラボレーション等も活発化してきています。

今後、これらの活動が一層充実し、ここでなければ創れない独自の価値を外部に発信していくことを目標としています。

充実した制作環境

美術学科には、日本画、油画、デザインそれぞれの領域の制作に適したアトリエがあります。学生たちは潤沢なスペースでじっくりと専門の制作に取り組むことができます。

それ以外に、大人数での実習に適した大空間を持つ石膏室や、各種工房施設があります。（CG、写真、彫刻、金工、木工、塗装、セラミック、版画）各工房ではそれぞれの素材についての専門的な技術を学ぶことができます。また、学生個々の自主制作でコースの垣根を越えて工房施設を活用することができます。



CG実習室

Mac台数40台を常設した実習室です。レーザープリンター、大判プロッター、3Dプリンター、製本機、レーザーカッターなどを設置。グラフィックデザインを制作したり、映像編集することに特化した充実した設備です。



写真スタジオ

4Kビデオカメラやデジタル一眼カメラ、照明設備などが揃った撮影スタジオ。デジタル対応した機材を導入し、撮影技術を学びます。工房になっています。制作した作品を撮影することもできるなど、多様な利用が可能な工房です。



彫刻実習室

1年次必修授業の彫刻や、デザインコース立体造形などで使用します。2つの教室と屋根付き屋外テラスに加え、広々とした屋外制作スペースがあります。屋内では彫塑や造形制作を、屋外では石彫などを行います。自由素材の研究の場としての利用も可能です。



金工実習室

金工技法の彫金、鍛金、铸金それぞれの制作を行う設備が整っています。西日本の美術系大学では珍しいブロンズ、およびアルミニウム铸造のための溶鉱炉を備えています。金属素材をベースとした造形制作に適した環境を備えた工房環境です。



木工実習室

木工演習の授業の他、各自の作品制作に必要な木質系の加工、制作を行う工房です。大型木材加工用の機材が揃っている機械室と、テント張りの屋外作業スペースで構成されています。家具や楽器、オブジェ、絵画のためのパネルや額作りなど、多目的な利用が可能です。



塗装実習室

塗装法演習の授業の他、各自の作品制作のうち塗装作業や漆塗り、プラスチック・樹脂などの制作を行う工房です。スプレー塗装を行う塗装ブースと、乾燥やプラスチックの硬化を促進させる恒温炉があります。



セラミック実習室

デザインコース立体造形領域では、2年次に素材実習の一環としてセラミック(陶芸)を扱います。電気釜2基、電動ろくろ10台などを備えており、器からオブジェまで、幅広い制作が可能になっています。



版画実習室

銅版画、木版画、リトグラフ、シルクスクリーンの4版種すべてに対応可能な充実した工房です。特に大型銅版画用プレス機は、西日本の美術系大学でも最大級の機材を設置しています。

日本画コース

日本画コースは、基本的な専門技術を習得させ、現代の表現として展開し、個性豊かに創造し得る力を育てることを目指しています。在学中は最も多感な時期であると考えます。これからの長い作家活動をしていく上での大切な一助となるべき教育を行います。

日本画実習Ⅰ（２年次）

植物、静物、動物、風景、人物等を対象として幅広く課題を設定し、日本画材料の特性を学び、個性を活かしながら表現力を育成します。自らの絵画観をもとに自由な発想で画面に向かう意識を育てます。また箔や裏打ち技法の特別講習を行い、表現の可能性を学びます。

日本画実習Ⅱ（３年次）

個々の自由なテーマでの制作に取り組み、個性的な表現世界の発展を目指します。古典作品の模写を課して、色彩や空間に対する認識を一層深めます。また古美術研究演習では、事前学習を踏まえ京都・奈良を訪れます。

日本画実習Ⅲ（４年次）

今まで培った表現を前提に自由なテーマをより主観的に咀嚼し、研究制作を続け、より高度な創造表現を目指します。また直接作品に触れることを目的として美術館などを訪れ、美の本質に根ざした表現を模索させ感性を育てます。４年間の研究成果として卒業制作展を地域社会に向けて発表します。





吉田真子 大学院1年次制作 麻紙、岩絵具、膠



玄場美沙季 〈free〉4年次卒業制作 麻紙、岩絵具、膠



大河千里 大学院1年次制作 麻紙、岩絵具、膠



浦崎葉子 〈喪失〉4年次卒業制作 麻紙、岩絵具、膠



太田揺 3年次自由制作 麻紙、岩絵具、膠



山田アンナ 3年次人物制作 麻紙、岩絵具、膠



児玉京子 3年次古典模写制作
美濃紙、岩絵具、膠



高畑秋帆 2年次絹本制作自画像
絹、岩絵具、膠



木崎理菜 4年次自由制作 麻紙、岩絵具、膠



大久保明莉 〈静寂〉 4年次卒業制作 麻紙、岩絵具、膠



田中智美 3年次自由制作 麻紙、岩絵具、膠



西郷美月季 2年次動物制作 麻紙、岩絵具、膠



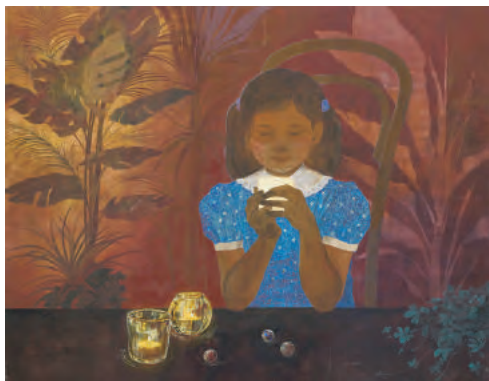
宇野桃花 2年次風景制作
麻紙、岩絵具、膠



平川栞 大学院1年次古典模写制作 美濃紙、岩絵具、膠



矢内早由紀 3年次風景制作 麻紙、岩絵具、膠



北浦千寛 2年次人物制作 麻紙、岩絵具、膠



池上望月 大学院1年次制作 麻紙、岩絵具、膠



大学院研究科日本画専攻2年

池上 望月

私が制作の題材としているものは、日常の中でふとした時に感じる、当たり前の中の小さな刺激や違和感などです。私はそういった、目には見えない感覚的な感動を視覚化してみたいと思い、その手段として人物表現を選びました。それらに敏感に反応し、また感じ方が人それぞれ違う人間ならではの性格に興味があり、そういった刺激を受けた時の反応として1番表れやすい顔の表情にこだわって制作しています。ただ、見る人によって様々な受け取り方ができるように、分かり易く限定した表情ではないけれど何か気になってしまうような、表情のある無表情というものを一つの軸として追求しています。

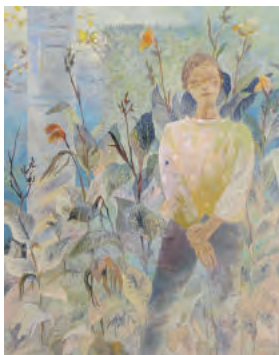
また、描くうえで大切にしているのは、ビジュアルとしての表情だけでなく、絵具という物質がつくる絵肌の表情です。日本画の岩絵具は物質的な存在感や作品に作用する影響力が大きく、私の制作の中でも重要な構成要素の一つとなっています。そういった点から、自分の表現したいものと岩絵具で描くということが自然に結びついたように感じています。

最近では人物の感情や体の動きなどが画面内の空間に与える影響についても興味を持ち始め、目に見えない新たな刺激として、様々な表情と共に研究、制作をしています。



「記憶について」2016年制作 M80号 後期自由課題
パネルの木目を見つめて波紋に見えてきたことから発想を得て、板に直接描いていった作品です。

何か物事を思い出せなくなった時、それを思い出そうとしている時の、現実にながら周りの景色が見えにくくなる感覚や、記憶が流れ出て揮発するようなイメージで制作しました。



「余韻」2016年制作 F100号 後期自由課題
夏から秋にかけて咲くカンナが枯れ始めているのを見つけ、画面左の電柱を境界線として季節の間でもう少し留まっていたい気持ちを描きました。



「花の知らせ」
2017年制作 変形80号（院展サイズ）自主制作
第72回春の院展出品。冬の終わりと春の訪れを予感するような、賑やかで動きのある前向きな画面を意識して制作しました。新たな表現や技法にたくさん挑戦し、自由に構成することの楽しさを体感できた作品です。

油画コース

油画コースではどのような局面でも自分らしさを引き受け展開していける力、自分の可能性を信じる力をアーティストパワーと考えます。これを4年間で身につける事を目標としています。

油画実習Ⅰ（2年次）

基礎体力をつける

自分はものをどう感じ取り、どう捉えているのだろうか。人体、静物、風景等身近なモノをモチーフに油彩を中心に様々な描画材料での表現を通じて自分の感覚を探ってゆきます。また下地実習では描画材料や基底材についての理解を深めます。他に演習として壁画技法演習、テンペラ画技法演習があります。

油画実習Ⅱ（3年次）

自分の特性をさがす

自分は何をどう表現したいのか。尾道近隣のフィールドを活かした風景課題や後期に行う自由制作等を通じ、自己の表現を多角的に模索していきます。古美術研究（演習）では実際にヨーロッパを訪れ、古代からルネッサンス、近代、現代の美術作品や建築、それを培ってきた現地の風土に直に触れます。

油画実習Ⅲ（4年次）

自分の力を信じてやりきる

油画実習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、各自テーマを掘り下げて卒業制作に取り組みます。後期終了時には卒業制作展を行い、4年間の成果を社会に向けて発表します。





菅原瑤子 〈沁〉 修了制作 1,940×3,860mm 油彩、麻布、白亜地、テンペラ



山本泰輔 〈かえるとフラミンゴと空っぽのお皿と〉 卒業制作 1,303×1,620mm 油彩、キャンパス



山本泰輔 〈かけぶとんを目玉焼きにされた日〉 卒業制作 1,120×1,620mm 油彩、キャンパス



見寺秀隆 〈在困境下只好掙〉 4年次卒業制作
1,620×1,620mm 油彩、木製パネル



見寺秀隆 〈残酷の真像〉 4年次卒業制作
1,830×1,825mm 油彩、木製パネル



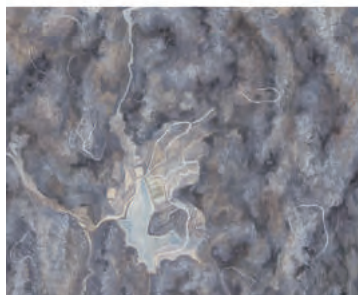
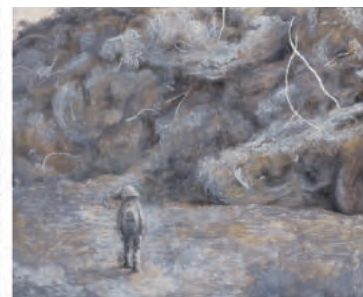
東依佳 3年次風景油彩 727×910mm 油彩、キャンパス



坂梨好香 夏季自由制作 φ600mm 油彩、綿布



久永和季 〈タの日、鍵穴〉 卒業制作
1,620×1,303mm 油彩 木製パネル



横満恵 3年次構成 油彩 530×652mm 4点組 油彩、キャンバス



竹本佳織 〈胎児の夢〉 3年次進級制作
1,621×1,303mm 油彩、キャンバス



川寄みず紀 2年次大型静物油彩 909×1,167mm 油彩、キャンバス

油画コース



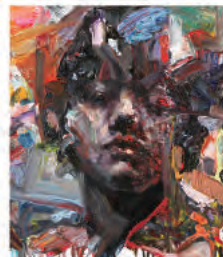
小西美幸 2年次大型静物油彩 909×1,167mm 油彩、キャンバス



三原太一 2年次人体油彩 727×910mm 油彩、キャンバス



佐伯真緒 2年次人物油彩 727×910mm 油彩、キャンバス



1年次構成 自画像

左上: 名座昌美 油彩、キャンバス、ミクストメディア

右上: 南泉水 油彩、キャンバス

左下: 木下愛 パネル、紙、水彩

右下: 高祖小春 油彩、キャンバス

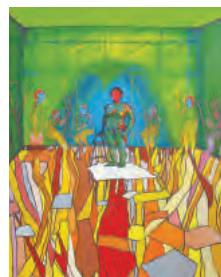


大学院研究科油画専攻1年
近藤 優紀

日頃生活している中で、また何でもないような場所で、自分の気を引くモチーフや存在と対峙することがあります。目にしたものを画面に定着させ記録しておく。ありのままをそのまま写しとるのではなく、景色を構成する要素を拾っていきます。圧縮し、形と色がぶつかりながら葛藤し、錯綜し、再構築されていく。そうして生まれた存在がまた自分の中に影響を及ぼします。それは思いもよらない出会いで、その出会いの瞬間の積み重なりが自分を知る事、またその行為自体が自分自身を構成しているような気がしています。

自分の制作をしていくだけでなく、周りの人の制作を見ること、過去の作品を知るために展覧会に行ったり、評論を読んだりして、自分以外の人の画面への発言や表現をみてみます。自分にはない第三者の視点を持ってみて、それを受けて自分がどう思うか、そしてどうするか、という自分の中に新しい指標を生みだすことになっていくような気がします。4年間という大学生活の中で、新しい見方、自分の価値観が生まれ今の自分の制作につながっていると感じます。

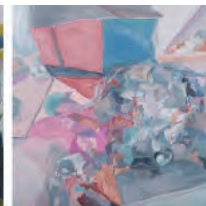
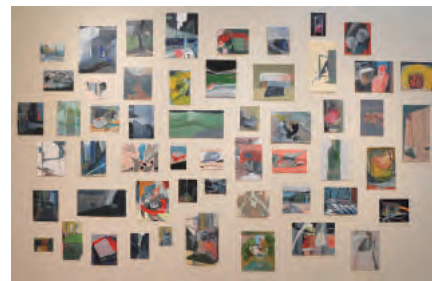
日々の大学での生活は先生方、同級生、先輩や後輩といった表現者という存在が近くにいることで、受ける刺激も大きく、充実したものだと感じています。



に映る形を観察して拾いながら、部屋という箱のなかにいるモデルさんの堂々とした佇まいを描きました。

2,3年次の課題でオイルスケッチ課題というものがあります。四週間ほど毎日バスに乗ってあちこちへ出かけていき、その場でドローイングをします。私はこの課題の際に自分の制作に合う支持体と出会い、この課題が終わってから、ドローイングを自分の制作として続けています。少し厚

みのあるボール紙に油絵の具で描いていて、紙に油や絵の具が染み込む表情が好きです。あまり大きくない支持体なのでアトリエ以外でも制作でき、紙の地の色を生かしてみるなど、キャンバスとはまた違った形の実験的な制作がしやすいです。数をたくさん描いていくことで自分を振り返りやすくなり、分析していくことで、自分の表現をするということが明確に形を持っていくような気がします。



その景色を描いてみましたが、良い感情で執着できていない、執着せざるをえなかったというネガティブな景色を描くことに対して、こういった感情で絵を描いていく必要があったか、昇華していくべきか自分の中で答えが出ないままになってしまいました。なので、これからは自分がどうしたいかを定かにし、人に見てもらった時にどんな感情を持ってもらいたいのか、ということも考えて納得しながら制作していければと思っています。

大学院での制作、それから先に向けて、制作を通してこうした自分の意識と、表現の関係を探っていきたいと思っています。

私は4年間制作、生活してきた中で特定のモチーフや存在に執着心がありませんでした。執着できないことに対しコンプレックスがあったのですが、卒業制作では執着せざるをえなかった景色が自分の中にあったことをきっかけで

デザインコース

デザインコースでは、幅広い領域を対象に制作・研究しています。そのため、研究室の専門分野を明確に打ち出しており、その世界への興味を促し、知識を欲する学生にはそのレベルに合った的確な指導を行います。学生ひとりひとりに個別指導をすることが可能なカリキュラム編成です。

デザイン実習Ⅰ（2年次）

デザインコースでは2年次より、グラフィックデザイン領域・タイポグラフィ領域・イラストレーション領域・立体造形領域・映像領域の5分野に分かれてデザインを学びます。

- グラフィックデザイン領域：コミュニケーションデザイン全般
- タイポグラフィ領域：タイポグラフィ、エディトリアルなど
- イラストレーション：イラストレーション
- 立体造形領域：各種素材を使った造形表現（金属・木工・樹脂・セラミック）彫刻・空間造形計画など
- 映像領域：実写映像・アニメーションなど

また、5つの領域を横断したコラボレーション課題を実践しながら幅広い表現技術や素材の基礎を学びます。

デザイン実習Ⅱ（3年次）

地域活性化をテーマとした課題を地域と共に実践します。取材によって、地域とのコミュニケーションをとりながら制作し、プレゼンテーションを行います。

デザイン実習Ⅲ（4年次）

今までに培った表現を前提に自由なテーマの制作を行います。

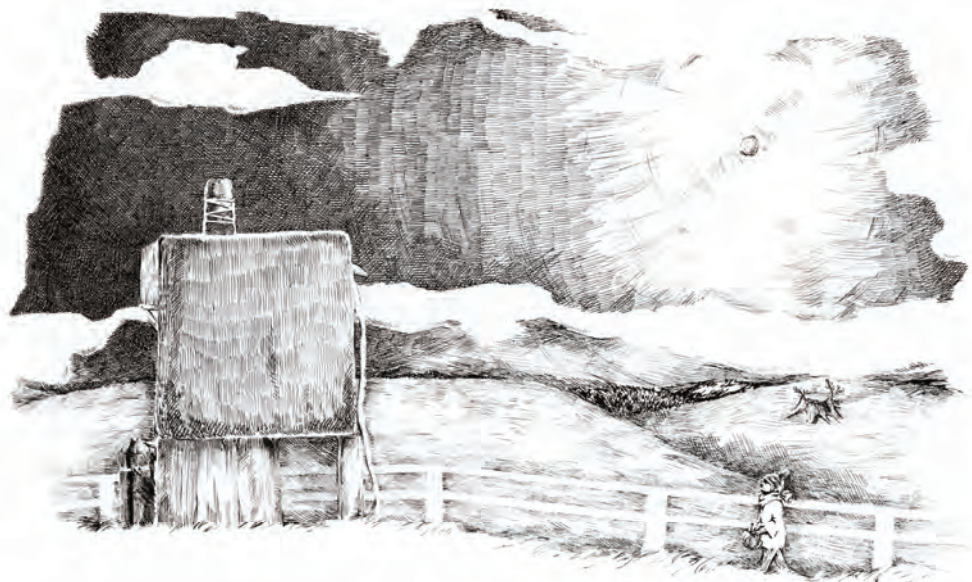




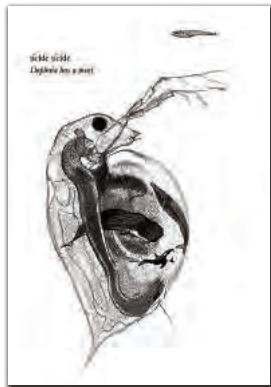
長谷川さや 〈萩原朔太郎 詩集『月に吠える』他3篇〉
4年次卒業制作 ポスター



大峯直也 〈Schizophrenia〉
4年次卒業制作 ポスター



中嶋友紀 〈LEE〉 4年次卒業制作 本、illustration、ペン、インク



奥村彩 〈tickle tickle〉 4年次卒業制作 ポスター



富田純加 〈糺だま〉
4年次卒業制作 アニメーション



山川桃 2年次精密鑄造課題



島内侑乃 〈みかんねこストラップ〉 3年次地域活性化課題



2年次 イラストレーション・立体造形コラボレーション課題



須川真有 〈真髓〉 4年次卒業制作 布、木、陶器、樹脂、蠟

デザインコース



竹内彩子 〈todays〉
大学院2年次制作 Photoshop、鉛筆、ペン、絵の具



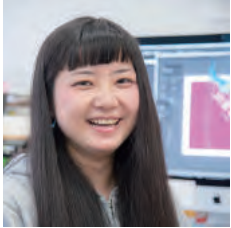
宮崎あかね 〈プリビオ〉
4年次卒業制作 キャラクター図鑑、標本



崎谷ひとみ 〈知る知るシルエッ図鑑 空・陸・水の生きものへん〉
4年次卒業制作 上製本



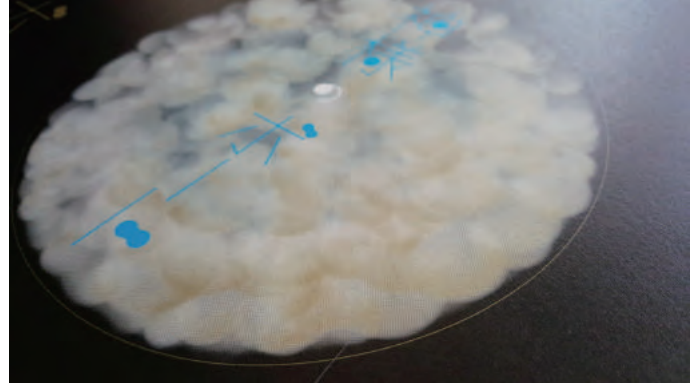
池田智佳子 〈夏目漱石生誕150年記念出版〉
4年次卒業制作 ブックデザイン 上製本



大学院研究科デザイン専攻2年
平林 美咲

私は大学院で本の装丁を中心に、ポスターやパッケージなどのグラフィックデザインを勉強しています。装丁とは、書籍の表紙・扉・カバーなどの体裁を整えることを指し、いわゆる本の外側のデザインをしています。本文のレイアウトや紙の選択、印刷方法の指定など、最近は製本を含めて制作しています。特に紙や文字に注目し、紙の持つ風合いやフォントの要素がどのようにデザイン物に影響を及ぼすのかについて研究しています。他に活版印刷にも興味を持っており、実際に印刷機を導入して組版の勉強をすることで、普段の研究にも生かしています。

基本的に自分の制作が主ですが、地域の方々から依頼を受けて冊子やフライヤーなどのデザインをすることもあります。様々なイベントやお店に出向いたり、NPO法人の活動などに積極的に参加したりすることで、輪が広がり、デザインを依頼される機会が増えました。実際に世間に出回る仕事をする中で、自分のしたいことができる課題制作と、クライアントの意志を拾いながら仕事として制作をすることの差を感じています。このような経験が学生の間からできるのは、地域の方々との距離が近いからこそできることだと実感しています。



東京装画賞の課題図書『神様のボート』（江國香織、2002年、新潮社。）の制作一例です。私の場合、まず小説を読むところからスタートし、印象に残ったシーンやキーワードなどを書き留めます。その後使用する紙、印刷手法、イメージを決めます。今回使用した紙はOKミュージックガリバーマット、印刷手法はオフセットで特色印刷ができるとのことだったので金+蛍光C+白+黒という特殊な組み合わせになりました。『神様のボート』の冒頭の一節「私が発生したとき、あたしのパパとママは～」という部分が印象に残ったのでそれをベースにデザインを起きました。大きくは受精をモチーフにしていますが初見ではよくわからない、しかしよく見れば卵のようなものが見て取れるように、ロゴも卵を想起させるような円を使ったデザインにしました。初見でインパクトのある装丁になったのではと思います。こちらの作品は学生部門で協賛企業賞のモリサワ賞をいただきました。

課題制作以外の実際に依頼を受けてデザインしたものです。イベントのフライヤーを作る場合、依頼者からイベントやその人が持っているイメージなどを聞くところから始めます。何案かデザインを作って選んでもらう時と、その場で見せながら一緒に作る時など、様々です。印刷部数や予算などを計算しながら、どこに印刷所に印刷を頼むのか、使用する紙やインクの種類なども決めてしまいます。希望によってはリソグラフ、活版印刷などを使用する時もあります。普段の制作とは違い、制約が多いのでとても勉強になります。依頼者の希望通りデザインできたときや、実際に街角に自分のデザインを見つけると嬉しくなります。



美術学科教員は大学キャンパス内で創作・研究を行っています。

教員の研究室は美術学科棟の学生アトリエスペースの、廊下をはさんだ向かい側にあり、学生は多彩な専門領域で活動している教員の創作・研究現場を日常的に訪れることができます。

また、コース制をとっていることから、多くの創作・研究が共存していますが、各専門領域の垣根が低く、異なる領域の学生・教員間の対話が頻繁に行われているところも本大学の美術学科の大きな特徴と言えるでしょう。



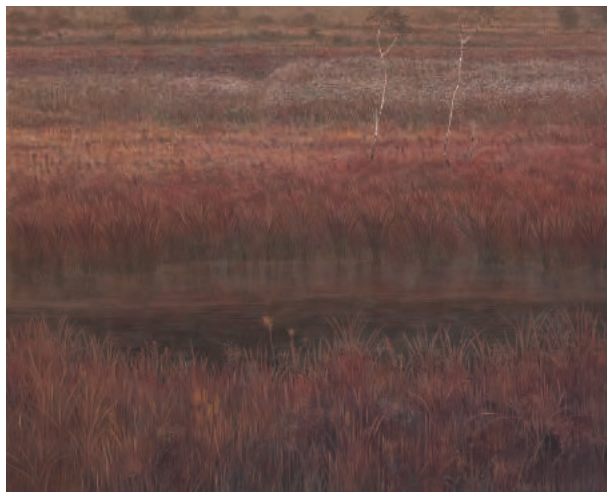
教授（日本画コース）

吉原 慎介

1955年 福岡県生まれ
1980年 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業
1982年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程日本画専攻修了

〔画歴〕

1981年 第36回「春の院展」初入選
1983年 再興第68回「院展」初入選
1985年 個展（小林画廊）
1994年 第46回「春の院展」奨励賞
東京セントラル美術館'97日本画賞展佳作賞
法務省更生保護誌表紙絵担当（～1995年）
1999年 個展（西武アートフォーラム）
2000年 個展（赤堀画廊）
2007年 第62回「春の院展」奨励賞
2010年 第65回「春の院展」外務大臣賞
2011年 再興第96回「院展」奨励賞
現在 日本美術院特待



《戦場の原》紙本彩色 1,700×2,150mm 2016



教授（日本画コース）

小田野 尚之

1960年 神奈川県生まれ
 1982年 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業
 1984年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程日本画専攻修了
 1988年 東京藝術大学大学院美術研究科後期博士課程
 保存修復技術単位取得退学
 1989年 東京藝術大学大学院美術研究科非常勤講師（～1999年）
 [画歴]
 1985年 再興第70回「院展」初入選
 1992年 第8回東京セントラル美術館日本画大賞展優秀賞
 1996年 第51回「春の院展」奨励賞（以後3回受賞）
 再興第81回「院展」日本美術院賞
 1997年 再興第82回「院展」奨励賞（以後3回受賞）
 1999年 再興第83回「院展」足立美術館賞
 2001年 再興第86回「院展」日本美術院賞
 2002年 第13回MOA岡田茂古賞展絵画部門優秀賞
 再興第87回「院展」天心記念茨城賞
 2012年 第67回「春の院展」春の足立美術館賞
 現在 日本美術院同人



《雪の朝》紙本彩色 1,700×2,150mm 2016



教授（日本画コース）

中村 譲

1964年 香川県高松市生まれ
 1989年 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業
 1991年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程日本画専攻修了
 1993年 東京藝術大学大学院美術研究科後期博士課程
 絵画日本画専攻単位取得退学
 1994年 東京藝術大学日本画科非常勤講師（～2001年）
 [公募展]
 1994年 再興第79回「院展」初入選／東京都美術館／上野
 2001年 第56回「春の院展」奨励賞（以後2007.08受賞）
 2003年 再興第88回「院展」奨励賞（以後2004受賞）
 2006年 再興第91回「院展」日本美術院賞（大観賞）
 （以後2008年、同足立美術館賞）
 2013年 第68回「春の院展」春の足立美術館賞
 [個展、グループ展]
 1994年 「有芽の会」展 法務大臣賞／有楽町西武
 2001年 「更生保護」（法務省保護局月刊誌）
 担当月表紙絵個展／ナカジマアート／銀座
 2010年 中村譲日本画展「風の記憶」呉そごう／呉
 2011年 中村譲日本画展「内海譜」福山天満屋／福山
 現在 日本美術院同人



《縦坑》紙本彩色 2,150×1,700mm 2016



教授（油画コース）

塩川 高敏

1948年 長野県生まれ
 1971年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
 1973年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程油画専攻修了
 1974年 東京藝術大学美術研究科絵画専門課程研究生修了（油画）
 1974年 東京藝術大学美術学部絵画科非常勤講師（～1977年）
 [展覧会歴]
 1979年 個展（泰明画廊）国展出品 新人賞受賞（以後毎年出品）
 1983年 国展 会友優作賞受賞
 1986年 神奈川県展 神奈川県立近代美術館賞受賞
 1989年 東京セントラル美術館'89油絵大賞展 優秀賞受賞
 1991年 個展/東京セントラル絵画館（'93年も同様）
 1995年 ヴェネツィアを描く三人展/日本橋・高崎高島屋
 1998年 エーゲ海を描く三人展/日本橋高島屋
 2001年 フランドルを描く三人展/日本橋高島屋
 2002年 塩川高敏展―尾道を描く―/日本橋・大阪なんば高島屋
 2006年 塩川高敏展/なかた美術館/広島・尾道
 2011年 KAOS展/日本橋高島屋
 2015年 第9回個の地平/日本橋・大阪なんば・京都・ジェイアール名古屋高島屋（'16年も同様）



〈浮游'17〉油彩、キャンバス 1,620×1,620mm 2017



教授（油画コース）

矢野 哲也

1958年 兵庫県生まれ
 1983年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
 1985年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程油画技法・材料専攻修了
 [個展]
 1983年 渋谷東急東横店
 1986年 銀座フォルム画廊（'92、'96、'97、'98、'2000、'02、'10年も同様）
 1995年 兵庫県立西播磨文化会館/下総屋画廊
 2000年 ギャラリーあと・いず（'05年も同様）
 2002年 光画廊
 2011年 八千代の丘美術館
 2015年 銀座ギャラリーあづま
 [団体展、グループ展]
 1983年 国展初出品（以後毎年出品）
 2006年 西部国展出品（'07、'08年も同様）
 2009年 広島国展出品（'10、'13、'14、'15、'16年も同様）



〈ながめ〉油彩、キャンバス 1,940×2,590mm 2016

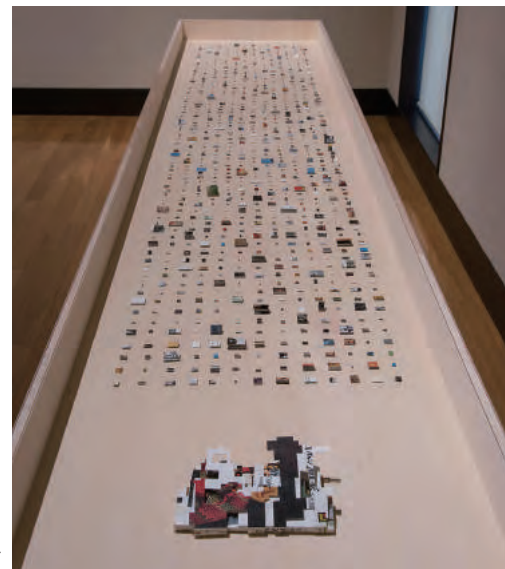


准教授（油画コース）

小野 環

1973年 北海道函館市生まれ
 1996年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
 1998年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程油画専攻修了
 1999年 東京藝術大学油画科非常勤講師（～2001年）
 〔個展〕
 2000年 「キツネ作戦」/フタバ画廊/銀座
 2002年 「小野環展」/appel/経堂
 2005年 「gardens」/ギャラリーそわか/京都
 2008年 「gardens 植木鉢の冒険」/ふくやま美術館/福山
 2010年 「足下の辺境」/尾道市立大学美術館/尾道
 2013年 「ユートピアの迷子石」/Utopiana/ジュネーブ※
 〔グループ展〕
 2003年 NICAF2003 Video Art Screening/東京国際フォーラム、有楽町
 Hiroshima Art Document 2003（2008年※）/旧日本銀行広島支店/広島
 2004年 VOCA 展/上野の森美術館/上野
 2007年 AIR Onomichi/山手地区アパート群/空地/尾道※（2011年）
 2008年 tina.b 2008/プラハ市※
 2012年 UTOPIA～何処にもない場所～/百島/尾道※（2013,14年）
 （※作家三上清仁とのユニット）

〈再編 1000の本〉
 書籍『日本の画家-近代洋画』 2017



講師（油画コース）

稲川 豊

1974年 東京生まれ
 1997年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
 2004年 CHELSEA COLLEGE OF ART AND DESIGN, ロンドン, MA FINE ART修了
 2007～09年 文化庁新進芸術家海外留学制度2年派遣/ロンドン/イギリス
 コレクション：WILLIAM LIM COLLECTION（香港）
 〔個展〕
 2005年 “HYBRID” /Gallery Zandari/ソウル・韓国
 “YUTAKA INAGAWA EXHIBITION” /Galerie Suty/フランス
 2007年 “Yutaka Inagawa Solo show” /New Art Center/ニューヨーク
 2008年 “Nonplace overlay” /Bodhi Gallery/ロンドン
 2009年 “Sensory Cocktails” /Gallery Zandari/ソウル・韓国
 “Crazytokyo” /Galerie Suty, Coyo-la-Forêt/フランス
 2014～15年 “The invasion of Cyberspace” /Unit 24 Gallery/ロンドン
 2015年 OTAK JEPUN | Yutaka Inagawa /Lorong Kekabu /クアラランブール
 〔グループ展〕
 2007年 “Trajectories” / The Agency / ロンドン
 2007年 “The 8th SHINSAIMDANG Art Festival” /Gangueng Museum/韓国
 2008年 “Cosmopolis” / Pipy Houldsworth Gallery/ロンドン



〈Left&middle:Shoulder-Oompj-Kouros2.1, right:Matter-Of-Fact.〉
 各700×620mm, キャンバスに油彩, セロファン, 2014, Photo by Dominic Mifsud



教授（デザインコース）

稲田 全示

1949年 尾道市生まれ
 1976年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了
 1976～1998年 STUDIOスクエア・ホリゾン主宰
 1994～2000年 (株) OKA TRADING代表取締役社長
 [展覧会歴]
 1983年 天正少年使節団400年イベント「EAST MEETS WEST」
 ローマ法王に金屏風献上 (AD&D) ヴァチカン市国
 1986年 「イタリアのデザイナー、建築家、アーティスト12人による
 Textile Design展企画・プランニング」(CD) (株) 東京モダン
 1987年 「うるし新時代」作品展 (銅・真鍮・漆) (AD&D) 有楽町マリオン
 第1回「世界織物会議」国際テキスタイルデザインフェア プランナー (CD) 国立京都国際会館
 コムサデモード新宿ルミネII店 壁画制作 (株) ファイブフォックス
 1989年 EUROPALIA89 JAPANESE AFFICHES「現代日本ポスター展」イラストレーション (株) 電通
 1991年～昭和シェル石油 (株) 世界の旅 月刊広告紙「EXTENSION」(CD) (株) 博報堂
 1992年 ジングルブック「熱帯雨林」他全6巻共同取材制作出版 パルコ出版
 2004年～歴史都市・尾道の謎「隠された神話」執筆編集
 観光ガイド本 尾道を歩く「オノボン」執筆編集 尾道市立大学出版



〈「隠された神話」歴史都市・尾道の謎〉
 尾道市出版 2008



教授（デザインコース）

野崎 眞澄

1958年 東京生まれ
 1979年 多摩美術大学デザイン科グラフィックデザイン専攻入学
 1983年 Japan Graphic Center 勤務(デザイナー)
 1985年 B/Half Japan 勤務(アートディレクター)
 1989年 CHIPS CLUB設立
 [活動歴]
 1990年 J.A.I New York Exhibition at Art54 グループ展
 1991～1998年 青山Pinpoint Gallery個展 (4回)
 2009年 原宿HB Gallery「TOYS」個展
 2011年 明治神宮前Gallery ni Modo「FISH & CHIPS」個展
 2013年 尾道市立大学美術館 野崎眞澄×石川康彦 二人展
 2014年 竹尾見本帖本店展示スペース「製本のチカラ」グループ展
 2016年 竹尾見本帖本店展示スペース「本迷宮」グループ展
 [受賞歴]
 1991年 第5回 From A The Art展/奨励賞
 1992年 第1回 リビングアート・コンペティション/入選
 1997年 第48回全国カレンダー展/日本印刷産業連合会会長賞
 2004年 コースター絵画展/ホテル・キャメロット・ジャパン賞
 2011年 第65回読書週間ポスターイラスト公募展/入選
 2012年/2013年 第1回、第2回 東京装画賞展/入選



〈ウ・ミ・ノ・ウ・タvol.2〉 CDジャケットイラストレーション
 紙、ダーマトグラフ W240mm×H120mm 2016



教授（デザインコース）

世永 逸彦

1959年 東京生まれ
 1984年 多摩美術大学デザイン科グラフィックデザイン専攻卒業
 1984年 高原宏デザイン事務所入社
 1991年 世永デザイン事務所主宰

〔活動歴〕

1985～1988年 雑誌「流行通信」D. (高原宏デザイン事務所勤務)
 1991～1994年 〈新日本フィル交響楽団〉公演印刷物 A.D.& D.
 2001～2004年 〈Fountains〉JALホテルPR誌 日本航空 表紙&誌面 A.D.& D.
 2008～2010年 〈HIBIYA Style〉帝国ホテルプラザPR誌 表紙&誌面 A.D.& D.
 2008～2013年 〈てんとう虫〉UCカードPR誌 クレディセゾン 表紙&誌面 A.D.& D.
 2011～2014年 〈Mart〉女性誌 光文社 表紙&誌面 A.D.& D.
 1998～2016年 〈SAYA & Works〉婦人靴広告・販売促進ツール C.D.& D.
 他多数
 現在 ブックデザイン、ポスターを中心に独自の領域を研究・開発中



〈The Image of countdown of clock〉
 局紙、インクジェット H1,030×W728mm (B1) 2017



准教授（デザインコース）

桜田 知文

1960年 広島県生まれ
 1984年 東京藝術大学美術学部工芸科卒業
 1986年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程鍍金専攻修了
 〔制作歴・受賞歴〕

1993年 洞爺村国際彫刻ビエンナーレ 作品買上（'97年も買上）
 1995年 第34回日本現代工芸美術展 現代工芸大賞 受賞
 1997年 さかいでArtグランプリ 秀作賞 受賞
 2004年 第43回日本現代工芸美術展 現代工芸本会員賞 受賞
 2005年 尾道市小中学校芸術祭グランプリトロフィー制作
 2009年 八千代の丘美術館 第8期入館
 2010年 東尾道彫刻公園に作品設置
 2011年 現代の造形 -Life & Art- 半農半アート～水ありて～出品
 2012年 第44回日展 特選 受賞
 2014年 現代の造形 -Life & Art- 版の力 出品
 2015年 ひろしま3都、道めぐり まちかどアートワークス出品
 2016年 東広島市立美術館 作品収蔵
 現在 日展会友 現代工芸美術家協会本会員



〈つむじ風〉アルミニウム、真鍮 550×950×120mm 2016



准教授（デザインコース）

高岡 陽

1963年 愛媛県生まれ
1989年 東京藝術大学美術学部デザイン科V.C.D.専攻卒業
1991年 佐藤晃一デザイン室退社
1991年 いいデザイン室設立
2000年 図工室設立

〔活動歴・尾道〕

2008年 「尾道オリジナルナンバープレート」（AD&D）他
2010年～ 「瀬戸田レモン」商品群パッケージ（AD）他
2011年～ 「かみのらぼ」（AD）他
2012年 「S.W.」パッケージデザイン（AD&D）他
2013年～ 「尾道ぐるめマップ」（AD&D）他
2014年～ 「中国やまなみ街道」ロゴタイプ（AD&D）他
2015年～ 「音楽と風景」宣伝美術（AD&D）他
2016年 「S.K.」パッケージデザイン（AD&D）他

〔展覧会歴〕

2009年 Geometrical Location / 県営上屋2号倉庫 / 尾道
2013年 GraphixParade-1 / 尾道商業会議所記念館他 / 尾道（'14、'15、'16年も同様）



〈typeset or die〉
ミュージカガリバー/グロス、オフセット印刷（特色4c） 420×595mm 2016



講師（デザインコース）

黒田 教裕

1987年 宮崎県生まれ
2011年 武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業
2014年 武蔵野美術大学大学院造形研究科デザイン専攻映像コース退学
2014～2015年 武蔵野美術大学造形学部映像学科 非常勤講師

〔活動歴〕

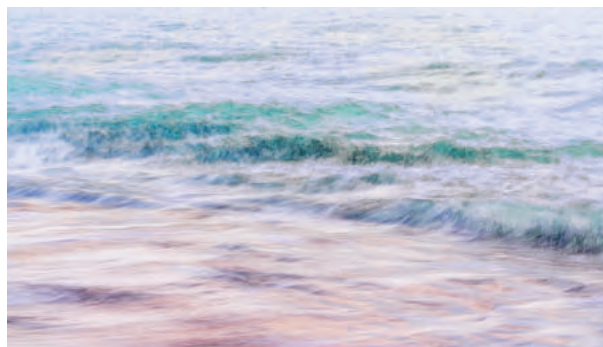
2014年 犬のための建築 すきまいす / 編集・合成
2015年 KENJI HIRANO "je te veux" / VE・カラリスト
2017年 UENO PLANET WEB MOVIE / 映像編集

〔受賞歴〕

2008年 第34回宮崎県美術展・映像部門 大賞
2011年 第17回学生CGコンテスト 企業賞

〔展覧会歴〕

2013年 中韓日交流 物語—痕跡作品大展 / 中国・上海
UMARTs 2013 うまからうまれる15のアート展 / 馬の博物館 / 横浜
2014年 Media Ambition Tokyo 2014 / 東京シティビュー / 六本木
2015年 New Creators Competition 2015 / CCC / 静岡
不確定な存在展 / Gallery+cafe blanka / 名古屋
2016年 2016 CHANGWON ASIA ART FESTIVAL / 韓国・昌原市



〈跡景Ⅱ〉映像 6分43秒ループ 2016



准教授（日本美術史・博物館学）

市川 彰

1971年 愛知県生まれ

1995年 京都大学文学部美学美術史学専攻卒業

2001年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程（美学美術史学専攻）単位取得退学

2000～2003年 萬野美術館学芸員

2004～2007年 京都文化博物館総務課主事

2007～2012年 京都文化博物館学芸課学芸員

〔論文等〕

1997年 絵描きの玉手箱 伊藤若冲の鶏

『茶道雑誌』第61巻第1号 河原書店

1999年 若冲画に示されたもの-「動植綵絵」以前の三件の鶴を主題とする着色表現をめぐる-

『研究紀要』第20号、京都大学文学部美学美術史学研究室

2007年 若冲画に示されたもの2-《初期作品》「雪梅雄鶏図」をめぐる-

京都文化博物館紀要『朱雀』第19集

2014年 名所図会に記された京都の「名宝」(一)

尾道市立大学芸術文化学部 紀要 第13号

〔展覧会〕

2008年 永樂即全『源氏物語五十四帖』と十七代永樂善五郎展

京都文化博物館企画展

2008年 『読む、見る、遊ぶ 源氏物語の世界～浮世絵から源氏意匠まで～』展

京都文化博物館特別展



講師（西洋美術史・美学）

西嶋 亜美

北海道旭川市出身

2006年 京都大学文学部人文学科卒業

2009年 京都大学大学院文学研究科修士課程修了・博士後期課程進学

2010～2012年 パリ・ソルボンヌ大学美術史考古学研究所招待研究員

2013年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程研究指導認定退学

京都大学博士（文学）

〔研究歴〕

専門はフランス近代美術史で、画家ドラクロワやオリエンタリズムについて研究しています。

・『ウジェーヌ・ドラクロワの物語画と文学』京都大学大学院文学研究科課程博士学位論文、2016年

・L'emploi des théories littéraires et artistiques dans la représentation du monde antique autour de Delacroix, Ecole de Printemps, 10e édition Art et Savoir, Paris, Centre Allemand de l' Histoire de l' Art, (2012/5/18)

（第10回エコール・ド・ブランタン「芸術と知」発表）

・「ドラクロワによる二点の《ジャヴールとハッサンの闘い》——戦闘イメージの起源と北アフリカ旅行の意義をめぐる考察——」『日仏美術学会会報』(34)、2015年、3-23頁

・「ドラクロワの『日記』における絵画と文学の位置付け—主題、表現形態、制作過程の三つの観点から—」

『藝術研究』(28) 2015年7月、31-45頁

・「ドラクロワの『モロッコ旅行記』試訳」『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第16号、2017年、69-86頁

・「19世紀中葉のパリで描かれた同時代の恋愛イメージ—クールベ作《田園の恋人》とワルツの図像」

伊藤公雄・杉本淑彦編『ヴィジュアル・カルチャーの中の親密圏』京大出版会、2017年以降刊行予定



助教（日本画コース） 山梨 千果子

千葉県生まれ

2007年 尾道市立大学大学院美術研究科修士課程（日本画）修了

〔画歴〕

2007年 第9回「広島県岡山県美術系大学卒業制作選抜展HOPES」特別賞／ふくやま美術館／福山

第62回「春の院展」初入選

2008年 「現在の中国画と日本画」展／ふくやま美術館／福山

2009年 再興第94回「院展」初入選

第4回広耀会（'10）／三越／広島

2010年 「In Focus」展／尾道市立大学美術館／尾道

2014年 「ツナガルケシキ」展／大三島美術館／愛媛

2016年 第4回「郷さくら美術館桜花賞」展／郷さくら美術館／東京

現在 日本美術院院友



〈蒼壁のカフェ〉岩絵具、麻紙 1,700×2,150mm 2016



助教（油画コース） 橋野 仁史

1982年 熊本県生まれ

2007年 尾道市立大学大学院美術研究科修士課程（油画）修了

2017年 福山大学非常勤講師

〔主な展覧会〕

2007年 第81回国展初入選（以後毎年出品）

2008年 第82回国展 絵画部奨励賞、尾道からの「3人展」／アートガーデン／岡山、「HiBi 2008」／尾道市立大学美術館／尾道／'10、'12、'14年

2009年 国展受賞作家展／井上画廊／銀座、第4回三菱商事アート・ゲート・プログラム作品買上げ（三菱商事）

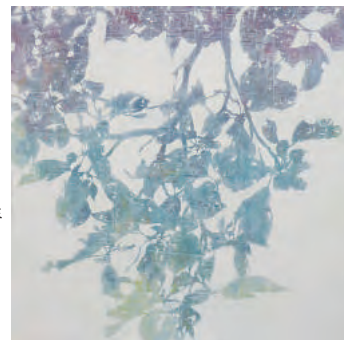
2010年 「橋野仁史・炭田紗季二人展」／GALLERY M.A.P／福岡

2013年 「Gg展」／ふくやま美術館ギャラリー／福山／'14、'15、'16年

2014年 第88回国展 会友賞、準会員推挙

2015年 国展受賞作家展／銀座アートホール／銀座、KKT-国画会準会員グループ展—／ギャラリー向日葵／東京／'16年

2017年 「橋野仁史絵画展—Fog—」福山天満屋アートギャラリー／福山



〈Fog〉油彩、キャンバス 652×652mm 2015



助教（デザインコース） 中曽 智子

静岡県生まれ、広島県育ち

2005 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 卒業

2007 多治見市陶磁器意匠研究所技術コース 修了

〔活動歴〕

2005年 「第7回 広島県・岡山県大学美術系卒業制作選抜展」ふくやま美術館／福山

2010年 「HiBi2010—尾道大学美術学科1期生による作品展—」尾道市立大学美術館／尾道（'12年、'14年）

2011年 AREA gallery／広島県府中（個展'16）

2012年 三軒家アパートメント／尾道（個展）

2013年 神戸ビエンナーレ2013「現代陶芸」入選

鞆の浦deART／鞆の浦（'14、'15、'16）

2015年 ひろしま3都、道めぐり —まちがびアートワークス—

その他、ギャラリーくわみつ／福山、ギャラリーLETA、賀茂輝酒造／東広島、広島三越／広島、

ぎやらいいしをり、倉敷ギャラリー／倉敷、ギャラリー陶林春窯、ギャラリーヴォイス／多治見…等のグループ展へ参加



〈香炉〉
φ100×150mm φ70×130mm 半磁器 2016

非常勤講師一覧				深谷 訓子	芸術文化論 京都市立芸術大学 准教授
青木 正弘	空間造形論 実践博物館学、美術評論	梶山 奈津子	版画制作演習 美術家	福井 一尊	金工演習 島根県立大学短期大学部 松江キャンパス 准教授
赤木 範陸	テンペラ画技法演習 横浜国立大学 教授	鈴木 喜博	古美術研究事前講義、現地講義	福井 爽人	日本画研究 A I、II 日本美術院同人、東京藝術大学 名誉教授
石多 未知行	デザイン総合演習（大学院） 一般財団法人 プロジェクションマッピング協会 代表理事	大黒 大悟	情報機能論 （株）日本デザインセンター 大黒デザイン研究室	福田 栄一	日本画実習 I（裏打ち） 福田装錦堂
今井 良枝	美術解剖学 周南市美術博物館 学芸員	高橋 早紀子	芸術論特講 I（東洋）（大学院） 日本学術振興会特別研究員（PD）	藤田 幸史	情報処理演習 尾道市立大学 名誉教授
今氏 亮二	情報機能論、デザイン学特講（大学院） 有限会社ホットタイプ工房 代表取締役	滝沢 具幸	日本画研究 B I、II 創画会会員、武蔵野美術大学 名誉教授	増澤 文武	文化財保存学概論
太田 啓介	デザイン学特講（大学院） （株）オリエンタルコンサルタンツ 技師	竹内 有子	デザイン史	松井 輝昭	古文書学 県立広島大学 名誉教授
大野 直樹	彫刻（彫塑、石彫）、図法及び製図 美術家	田代 昭夫	塗装法演習、実習助手（塗装） 漆芸家	松岡 剛	空間造形論 広島市現代美術館 学芸員
大森 啓	絵画総合演習（大学院） 金沢美術工芸大学 教授	田中 健一	東洋美術史 I、II 大阪大谷大学博物館 准教授	松本 寛治	木工演習、塗装法演習 家具作家、工房 KANJI
梶高 慎輔	情報機能論 ビデオアーティスト、（一社）みつぎざいこう代表理事	田部 健次	金工演習、デザイン実習（鍛金） 金工作家、広島市立大学非常勤講師	松本 祐助	木工演習助手、実習助手（木工） 家具作家
神邊 篤史	人間工学概論	月岡 裕二	日本画実習 II（箔押し、砂子、切金技法） 作家	真野 洋介	デザイン学特講（大学院） 東京工業大学大学院社会理工学研究科 准教授
倉持 充希	芸術論特講 II（西洋）（大学院） 京都市立芸術大学等 非常勤講師	土井 浩一郎	デザイン実習 II（コマーシャルフォト技法） フォトグラファー、マーズプロダクションズ	村上 由記	金工演習 造形作家
児玉 康兵	彫刻（彫塑、石彫）、図法及び製図 尾道市立大学 名誉教授	友安 一成	版画制作演習 広島市立大学 名誉教授	弥中 敏和	情報機能論 株式会社 GKデザイン総研広島 代表取締役
児玉 香織	絵画総合演習（大学院） 美術家	中川 克志	比較芸術論 横浜国立大学都市イノベーション研究院 准教授	矢原 徳子	書道
齋藤 拓海	日本文化史	中村 鳳善	情報機能論 アド・ルーム中村	山崎 曜	デザイン総合演習（大学院） 製本アーティスト、手で作る本の教室主宰
佐藤 洋一	情報機能論 元 マツタ株式会社商品部	西村 芳弘	デザイン実習 I（セラミックス技法） 陶芸家	吉川 浩	デザイン実習 I（マーケティング技法） ビジネスプランナー
白木 彰	デザイン論、デザイン学特講（大学院） 愛知県立芸術大学 教授	西川 真理子	写真（映像）演習	渡邊 義孝	建築環境論、空間造形論 一級建築士、風組・渡邊設計室主宰
菅原 智子	壁画技法演習、古美術研究（演習） 美術家	野田 尚之	写真（映像）演習、情報機能論 コマーシャルフォトグラファー、シネマトグラファー	O JUN	絵画総合演習（大学院） 東京藝術大学 教授

卒業制作

**美術学科では、卒業制作展を開催しています。
学部4年間、大学院2年間の集大成となる展覧会です。**

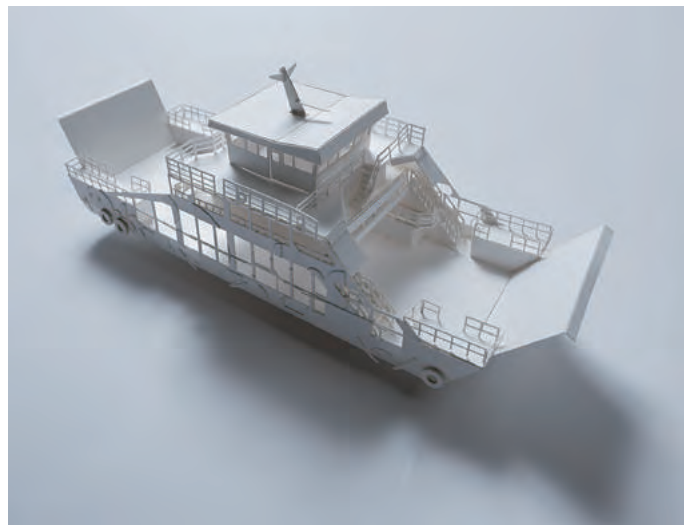
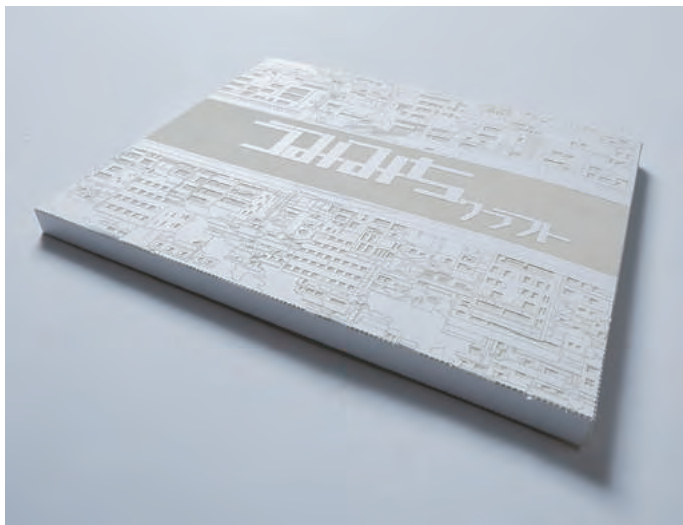
学生時代の集大成としての卒業制作はとても重要なものですが、卒業制作はアトリエで制作して終わりではありません。美術学科では、毎年、学部4年間、大学院2年間の制作・研究の成果を発表する機会として尾道市立美術館を中心に、サテライトスタジオなど尾道市市街地で卒業制作展を開催しています。学生たちは展覧会の計画から広報活動、図録制作、展覧会運営、終了後の次世代への引き継ぎという一連の活動をカリキュラムの一環として経験することになります。例えば、卒業生たちは毎年自分たちでカタログを制作し、関係方面に配布すると同時に、展覧会を訪れる方々に販売しています。このような展覧会の成り立ちを実際に経験することが、学生のその後の活動の糧となることに期待しています。



日本画コース卒業制作優秀作品 木村遥 〈化粧〉 大学院2年次修了制作 麻紙、岩絵具、膠



油画コース卒業制作優秀作品 塔尾 栞莉 〈とけていく〉 1303×1620mm 油彩、キャンバス



デザインコース卒業制作優秀作品 金本 優 〈うみみちクラフト〉 ペーパークラフト、パッケージ

卒業生の声

美術学科は今年度で17年目を迎え、多くの卒業生たちが専門業界で活躍しています。
そんな卒業生3名から近況をレポートしてもらいました。

卒業生はどのような活動をしているのでしょうか。学部卒業後大学院に進学し、さらに専門分野での制作を重ね、作家を志向する人がコンスタントにいます。

絵画系（日本画、油画）の卒業生の中には創作活動を継続するためにアルバイトをしながら生活している卒業生も毎年一定数いますが、近年増加しているのが、中学、高等学校の美術の非常勤講師です。中には複数の学校を掛け持ちで勤務している卒業生もいます。

デザイン系では、専門のスキルを活かして、広告代理店やメーカー、デザイン制作会社、映像制作会社、放送局、ゲーム制作会社などへの就職の他、イラストレーターやアニメーターとして制作を続けている学生もいます。



2011年度
大学院研究科油画専攻修了
相山 奈津子

2012年 尾道市立大学大学院修士課程修了（油画）
〔展覧会歴〕

2014年 グループ展「uni」（MOU尾道市立大学美術館・広島）

2015年 個展「variation」（Gallery Bar 夢喰・広島）

2016年 二人展「〇月〇日の模様」（MOU尾道市立大学美術館・広島）

2016年 個展「印象的日常」（カフェ&ギャラリーてあ・岡山）

〔受賞歴〕

2012年 尾道市立大学修了制作展 大学買い上げ賞

2015年、2016年 シェル美術賞展2015、2016 入選

2017年 第17回絵のまち尾道四季展 入選

2017年 第13回浜松市美術館版画大賞展 入選

小さい頃から絵を描くことが好きでした。大学では踊るモデルさんを描く時間が大好きでした。特に大学院の2年間はとても充実していたと思います。午前中はヌードモデルさんを描いて、午後は大学周辺の気になる風景を描いたりと夜まで制作漬けの日々でした。

現在は尾道市立大学サテライトスタジオ、大学の版画実習助手、中学校の非常勤講師、飲食店で仕事をしながら油画と木版画を中心に作家活動をしています。ここ最近は制作が充実しており毎日が楽しいです。公募展に出品したり、展示を企画したり目標を立てて日々制作に取り組むことで時間を上手く使えていると思います。修了後も制作を続けていられるのは、



在学中の習慣と周りの人達の支えのおかげです。

時々、学生時代の作品を振り返りみると密度の濃い時間を思い起こします。みなさんも尾道市立大学で集中して制作に取り組んでみませんか。



2014年度
大学院研究科デザイン専攻修了
喜來 詩織

2015年 尾道市立大学大学院美術研究科修士課程修了

2015年 株式会社tobufune 入社

〔展覧会歴〕

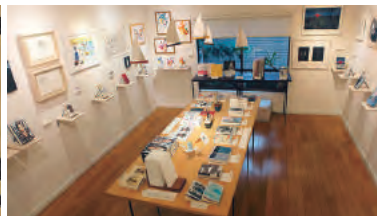
2014年 個展「カミクズと宝箱」(イドバタスタジオ・広島)

2014年 「尾道一箱古本市」主宰

2017年 企画展「船と装丁」(gallery福果・東京)

〔受賞歴〕

2016年 日本タイポグラフィ年鑑2016 入選



大学院修了後、書籍の装丁を中心とするデザイン事務所で働いております。書籍と一口に言ってもジャンルは幅広く、ビジネス書・実用書・学習参考書など、ターゲットとなる年代・性別なども様々です。日々メ切と時間に終われながら、躍起になってアイデアを模索しています。現場で身に付く技術やノウハウはとても多く、自分の至らなさや知識不足に落ち込むことも少なくありません。しかし6年間学んできたからこそ、ここに立てているという実感もあります。

学部生時代の、提示された課題に対してデザインを返すこと。大学院時代、自身が設定した課題に対して誠実に取り組むこと。どれもこれも失敗と調整の繰り返しでしたが、その経験が今の制作につながっているように思います。夢中になって追いかけた紙の知識は仕事でも重宝しています。

自身の学びの糸口を見つけること、たくさんの情報にアンテナをたてること、なにより自分自身の好きなこと・興味のあることに深く取り組めた時間は、とても大きな財産です。ぜひ自分の好きなこと、興味のあることを大事にして、研究の時間を過ごしてください。



2015年度
大学院研究科日本画専攻修了
鎌田 紗由

2016年 尾道市立大学大学院 美術研究科修了

〔展覧会歴〕

2016年 絲展(京都・Art space - MEISEI)

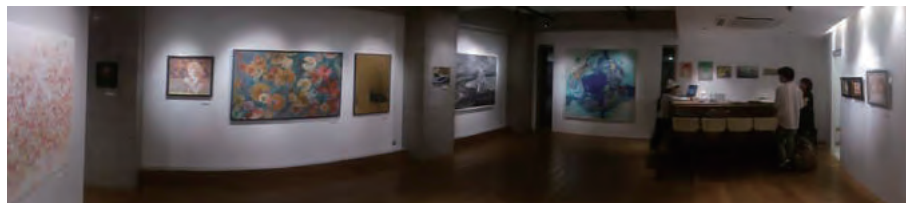
2017年 絲展(京都・Art space - MEISEI)

9月12日(火)～17日(日)開催予定

私は現在絵を描く世界とは異なる事務職の仕事に就いております。社会人としての会話の仕方、効率の良い仕事の方法、また文章作成など、一見言葉にすると制作はやっていけるのか、不安になる方もいるのではないと思います。

しかし、今後グループ展や個展を中心に絵の制作を行っていききたい私にとって、人に自分の作品について話す方法や、作品への価格のつけ方など、展覧会の運営に必要なことを学ぶよい機会に立ち会っています。休日を使って制作や取材をするため、メリハリをつけて制作をすることができます。

さまざまな面で勉強は絶えませんが、これからも仕事と制作、展覧会の三つを中心とした生活を軸に、作家として基盤を作っていきたいです。



A large fishing boat is shown in silhouette against a sunset sky. The boat has a complex rigging system with ropes and pulleys. In the background, a crane is visible on the shore. The water is dark and calm.

尾道市立大学美術館

サテライトスタジオ

地域総合センター

尾道市立大学附属図書館

情報処理センター

国際交流センター

キャリアサポートセンター

各種施設 VARIOUS FACILITIES



2017-2018 MOU

2008年に尾道市立大学美術学科教育・研究プロジェクトとして、MOU尾道市立大学美術館における企画をスタートしました。

以来、美術館では、若手作家の創作が紹介される機会が決して多いとは言えない地方の状況の中、積極的に学生・卒業生による展覧会を企画し、大学における教育・研究の成果発表を中心に多彩な展示をおこなってきました。



大学院進級制作展 2016



それからの仕事 ギャラリートーク



In focus 7



尾道市立大学美術館
原 夕希子



教員展 2017 ギャラリートーク



はじまりのかたち ワークショップ



カリキュラム展 2016

2017年度のスケジュール

2017年度もこれまでの企画を継承しながら展開していきます。10月から開催の「菅原智子展」は、美術作家としてフレスコ、テンペラなど絵画・壁画技法を横断しながら国内外で発表活動を行っている菅原智子氏の個展です。作家の美意識と素材が生み出す静謐な絵画空間が美術館にどのように響くのか大いに期待されます。卒業生の活動を紹介する企画展「In Focus〈インフォーカス〉」は、今回で8回目を迎えます。方向性の異なる3作家の近作がどのようなコントラストを創り出すのでしょうか。また、油画コース卒業生有志による自主企画展「フカンクウカン」が開催されるほか、在学生が授業等で制作した作品も「進級制作展」をはじめ、さまざまな企画で紹介していきます。出品作家や美術館スタッフによるレクチャー・ワークショップ等も随時開催していきます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

本年度もいくつかの展示は尾道市商店街のスペース「尾道市立大学サテライトスタジオ」で同時開催します。尾道市旧市街の2つの場を結ぶ企画がどのような広がりを生み出すのかご期待ください。

Schedule 2017		4
尾道市立大学美術学科 教員展 -ひらかれた扉 Open Door- 3月24日(金) - 5月7日(日) 休館日 水・木曜日(祝日開館) 4月5日(水) 特別開館 本学美術学科教員の制作・研究を紹介する展覧会です。 サテライトスタジオでも同時開催予定です。		5
尾道市立大学大学院美術研究科 進級制作展 5月20日(土) - 6月11日(日) 休館日 水・木曜日 大学院で制作活動を行っている、日本画・油画・デザインの3領域の大学院2年生が、 院1年生時の制作を発表します。サテライトスタジオでも同時開催予定です。		6
フカンクウカン 6月24日(土) - 7月17日(月・祝) 休館日 水・木曜日 油画コース修了生有志によるグループ展です。 サテライトスタジオでも同時開催予定です。		7
Curriculum カリキュラム 7月29日(土) - 9月3日(日) 休館日 水・木曜日 1年次から大学院までの、日本画・油画・デザインの3コースのカリキュ ラムで制作された作品を展示します。		8
In Focus 8 -卒業生の現在- 9月16日(土) - 10月22日(日) 休館日 水・木曜日 本学を修了し、各分野で活躍している新進作家、芦田 竜太郎(日本画)・原 夕希子 (油画)・船本 雅友美(デザイン)の3名を紹介します。		9
菅原 智子展 10月28日(土) - 12月10日(日) 休館日 水・木曜日(祝日開館) 本学美術学科非常勤講師・菅原 智子による個展です。菅原はイタリアに拠点を 置き、各国で展覧会を開催しています。油画・テンペラ・モザイク壁画など様々な 技法を追求してきた、創作の軌跡を紹介します。		10
第9回高校生絵のまち尾道四季展 12月23日(土・祝) - 1月14日(日) 休館日 12月29日(金)-1月3日(水) 高校生の端々しい感性で描かれた尾道。市内各会場で開催し、当館では尾道賞 受賞作品を中心とした絵画が並びます。		11
尾道市立大学美術学科 第14回卒業制作展・第12回修了制作展 2月9日(金) - 2月18日(日) 会期中無休 大学での研究成果を発表。卒業・修了生50余名の作品を展示します。 ※市内各会場で開催。当館では、修了制作作品を展示します。		12
MOU尾道市立大学美術館 学生買上作品展 2月24日(土) - 3月25日(日) 休館日 水・木曜日(祝日開館) 歴代の学生買上作品を紹介します。		2018 1
		2
		3

サテライトスタジオ

大学のある久山田町は中心部である尾道旧市街から少し離れていますが、大学の活動をより多くの市民や尾道を訪れる方々に公開するという目的で、2014年、駅から近い商店街沿いに尾道市立大学サテライトスタジオをオープンしました。

以来、年間を通じて、学生・教員の街中における活動拠点として、3学科のゼミや授業、市民向け講座などを行っています。

他にも、展覧会や講演会・研究会やワークショップ会場としても幅広く活用され、交流の場となっています。ガラス張りのファサードは内部空間が見やすく開放的で、スペース自体はコンパクトではありますが、小回りの効く企画展開が可能となっています。今後、この場がさらなる大学と市民との交流拠点として充実していくことに期待できます。



経済情報学科 木村ゼミ



経済情報学科 河野ゼミ



経済情報学科 溝淵ゼミ



美術学科デザインコース 地域活性化課題



美術学科油画コース 人体ドローイング展示作業

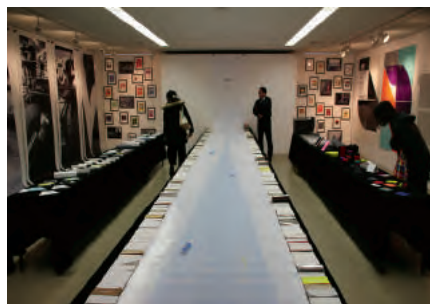


壁画技法演習

夏の美術学科集中講義で、サテライトスタジオ外壁のモザイク壁画の仕上げを行いました。学生は各自の作品を制作しながら、建物に設置された壁画の枠部分を制作していきました。



経済情報学科 高山ゼミ



紙の見本市



経済情報学科 小川ゼミ

尾道市は商都850年、歴史は古代から現在までの様々な文化を育んできたまちです。旧市街地を歩くと様々な時代が混沌と混ざり合ったまちであると感じることが出来ます。観光客の方々のなかでも何度も訪れてくださる人が多いのは、「まだすべてを見ていないのではないかな」とか「何度も来ているはずなのに、ここは来たことがない」など市街地や斜面地の路地が複雑に絡まったラビリンスに魅せられているからかもしれません。新たな店が不思議な場所に突然登場するのも、しばらくするとその店も尾道の風景として馴染んでくるのもこのまちの持っている歴史の融合感覚といえます。

そんなまちにある尾道市立大学の理念の一つに地域貢献があります。地域社会との連携は開学以来取り組んで参りましたが、歴代の学生と各教員の長期間の取り組みで花開いたプロジェクトが少しずつ増えてまいりました。それらの研究成果は参加した学生達の糧となっていることは言うまでもなく、社会に出てからそれらの経験は都市の大小を問わず役立っているようです。学校での課題と地域貢献で得た知識や経験は、都市の様々なコミュニティとの関わり、つまり基礎的社会力養成にもつながっていると確信しております。



地域総合センター
青井 典子

ONOMICHI



教養講座

教育講座

尾道市立大学
芸術文化学部・文学部
秋学期2016年11月本公開講座

2016.10.5(水) - 11.9(水)

会場 しまなみ交流館2F 大会議室

18:30 - 20:00
[18:00開場]
入場無料
予約不要

尾道市の文化政策について
尾道市立大学 文化政策研究センター
尾道市立大学 文化政策研究センター
尾道市立大学 文化政策研究センター

尾道市の文化政策について
尾道市立大学 文化政策研究センター
尾道市立大学 文化政策研究センター
尾道市立大学 文化政策研究センター

尾道市立大学
「尾道学入門」
公開授業

尾道市立大学 1F 401 講義室
9時30分～11時30分(他部募集)

4月20日 木
18時30分～20時00分
5月20日 木
18時30分～20時00分

尾道市立大学 1F 401 講義室
9時30分～11時30分(他部募集)

尾道文学談話会

8月5日～8月15日 開催
作品展示・企画発表：芸術文化学部美術学科
デザインコース3年生

2016年度 開催講座(主催)

尾道文学談話会(全12回)

毎月第1月曜日開催

講師：芸術文化学部日本文学科を中心とした本学教員、外部
招聘講師

教養講座(全6回)

10月～11月 毎週水曜日開催

講師：芸術文化学部教員、経済情報学部教員

尾道学入門 公開授業(全7回)

4月～7月 不定期木曜日開催

講師：石倉昇、高橋玄洋、森岡久元、寺杉雅人、加藤慈然、
荒木正見、林良司(すべて外部招聘講師)

2016年度 開催講座(協力)

尾道地域課題 + 地域活性化企画(全1回)

8月5日～8月15日開催

作品展示・企画発表：芸術文化学部美術学科
デザインコース3年生

情報科学研究会(全2回)

2016年11月30日、2017年3月6日開催

講師：西田友是(外部招聘講師)、海瀬(外部招聘講師)

コンピュータ公開講座(全1回)

3月4日開催

講師：佐野夏樹(経済情報学部准教授)

尾道の古文書解読講座(全1回)

7月16日開催

講師：森本幾子(経済情報学部講師)

街中ゼミ第8弾 尾道定住化計画(全6回)

10月～2017年3月 毎月第3金曜日開催

講師：小川長(経済情報学部教授)
経済情報学部小川研究室学生

2016年度 その他協力

ふるさと怪談トークライブin尾道

(全1回) 5月21日開催

講師：光原百合(芸術文化学部日本文学科教授) 東雅夫、
門賀美央子、荒木正見、林良司(外部招聘講師)

尾道てのひら怪談作品公募・関連イベント(全1回)

12月11日～3月31日開催

審査員：光原百合(芸術文化学部日本文学科教授)、小畑拓也、
原卓史(同・准教授) 東雅夫、林良司(外部招聘講師)

みんなで作る
まちの未来

ウィキペディア・タウン

2016年 開催 3月6日

2月28日(水)

Rによる
統計解析入門

2月26日(日)

尾道の古文書解読講座

2016年7月16日(土)

公開講座広報物(抜粋)

尾道市立大学附属図書館

本学附属図書館は、久山田水源地のたもとにあって眺望にすぐれ、また山を背にして読書や学習に好ましい静謐な雰囲気を得ています。

附属図書館では、本学の各学部学科の学生や教員の学習や研究に対応できるよう、図書・雑誌・新聞・視聴覚資料・古文書・電子ジャーナル・データベースなどの資料があり、各種メディアの利用により、学習・研究・就職活動等に活用されています。学術分野だけでなく、最新刊の小説や趣味に関する本などもあり、多く利用されています。

また、希望図書リクエストサービスや、文献複写・借用図書申請など、Webを使って手軽に申し込みできるシステムを備えています。調べもの相談などのレファレンスサービスも随時受け付けており、これらは多くの学生に活用されています。他の図書館等が所蔵する雑誌論文が必要になった場合など、遠慮なく受付で尋ねて下さい。その他、設置している情報端末PCや、無線LANでのインターネットの利用も盛んに行われています。

思索のための理想的な空間を大いに利用して本を読み、情報を収集し、学習や研究を進めて行ってもらいたいと願っています。また、研究・自主学習に限らず、「憩いの場」としても附属図書館を役立てていただきたいと思います。



尾道市立大学附属図書館

渡邊 徹

高橋玄洋記念室

本学の前身、尾道短期大学一期生で、NHK連続テレビ小説「蘭子ひとり」(視聴率55.2%を記録)など多数の人気番組を手がけた脚本家・高橋玄洋氏の著作、脚本、映像、絵画、書、焼き物、書簡、写真など約870点余りの貴重な資料を展示しています。



下垣内文庫

近世地方俳諧の研究者である下垣内和人氏から寄贈を受けた計3093点の近世俳諧資料です。これらの資料は、下垣内氏が長い年月をかけてこつこつと集められた、江戸時代から明治時代にかけての俳諧資料であり、地方俳諧の資料としてこれだけ大部に揃えることは難しく、たいへん貴重なものだと言えます。



一枚摺「鶯宿春興 しほ浜の」

本物か？

桃青（芭蕉の前の号）の短冊



美濃派歳旦帖



閲覧室



受付カウンター



尾道関連資料コーナー

尾道関連資料コーナー

尾道ゆかりの資料や、本学教員の著作、本学卒業生・在学生の著作などを収集し、自由に閲覧できるコーナーを設置しています。

また、その他に「英語多読コーナー」、「仕事関連コーナー」、展示スペースなどもあり、活用されています。

情報処理研究センターは、コンピュータや通信ネットワークなどから構成される尾道市立大学の情報システムを効率的に管理・運営し、教育・研究・教務の情報技術活用による高度化を、推進・支援するための機関です。2014年4月に供用を開始したE棟には、座席数分の接続を可能とする無線LAN設備と電源（コンセント）を確保したパソコン対応教室を整備し、教育環境の充実を図りました。また、高度情報化社会に対応したセンターを目指しており、地域貢献と研究活動の推進などを目的として、コンピュータ公開講座や情報科学研究会なども開催しています。



第25回情報科学研究会



第26回情報科学研究会

情報処理研究センター
田上 憲二

2016年度コンピュータ公開講座



オープンキャンパスコンピュータ講座

2016年度 情報処理研究センター主催行事

●オープンキャンパス コンピュータ講座

2016年8月7日(日) 13:40～15:00

「ビックデータ体験講座」

木村 文則 (経済情報学部講師)

●キャンパスツアー コンピュータ講座

2016年10月27日(木) 14:30～15:30

「Pokémon GOはビジネスチャンス」

木村 文則 (経済情報学部講師)

●情報セキュリティ講習会

2017年1月10日(火) 10:40～11:40、13:10～14:10

「情報の管理とパスワード」

山之上 卓先生 (福山大学情報工学科教授)

●第25回 情報科学研究会

2016年11月30日(水) 14:50～16:20

「現実感のあるCG(コンピュータ・グラフィックス)への挑戦」

西田 友是(にした ともゆき)先生

(東京大学名誉教授、広島修道大学経済科学部経済情報学科教授、UEIリサーチ所長)

●第26回 情報科学研究会

2017年3月6日(月)

13:00～14:00(講演) 14:15～16:15(ワークショップ)

『みんなでつくる"まちの事典"～ウィキペディア・タウン in 尾道』

元ウィキペディア管理者 海瀬(らっこ)さん

●コンピュータ公開講座

2017年3月4日(土) 13:00～17:00

『Rによる統計解析入門』

佐野 夏樹 (経済情報学部准教授)

設備・サービス一覧

●情報設備

サーバ: 13台(仮想サーバ: 34台)

Windowsパソコン(仮想デスクトップ上でLinuxも可能): 78台

iMac: 40台

貸出用ノートパソコン: 24台

パソコン対応教室: 中講義室(225座席)1、小講義室(120座席)2

●提供サービス

SINETへの接続による高速インターネット通信の提供

ポータルサイト(授業情報等の連絡、履修登録など)

学生証(ICカード)による、図書、出席管理、印刷システムの利用

無線LAN接続(学内128箇所にアクセスポイントを設置)

オンデマンド印刷(4箇所、12台設置)

仮想デスクトップ接続(80台同時アクセス可能)

Webメール、ファイルサーバ(個人利用可)

学外からのVPN接続(同時100接続)

Microsoft Office、ウィルス対策ソフトの配布

当センターホームページによる情報システム利用マニュアルの公開

●人的サービス

専門性に優れた上級生・大学院生を実習授業補助員・システム運用補助員に採用し、学生の質問等にすぐ答えられる体制をとっています。

時間外でも、平日は 翠明館のパソコン教室及び自習室を午後10時まで解放し、予習・復習の便宜を図っています(休日(土日祝)は午後8時30分まで利用できます)。



情報セキュリティ講習会

国際交流センターは尾道市立大学における国際化を推進するため2011年に設立されました。

国際交流センターでは、学生の語学研修参加を援助したり、外国人留学生を迎え入れたり、海外協定校との共同研究の機会を構築したりして、大学の国際化を支援しています。

また海外の大学との学術交流も意欲的に推進しています。これまで、中国、アメリカ、台湾、そして2016年度に新しくベトナムの大学と交流協定を締結しました。

日本人学生と外国人留学生が交流して友好関係を発展させるために、様々な異文化交流のイベントを企画運営しています。

国際交流センターでは、外国人留学生が日本の生活習慣や環境の違いに順応できるよう、また、充実した留学生生活を送れるよう、大学の授業や日常生活に対する支援をしています。

このように様々な活動を通して、尾道市立大学をグローバル志向の学生が在籍する国際的教育機関に発展させたいと思っています。

The International office at Onomichi City University opened in 2011 to improve the international outlook of the university. International office helps internationalize the university by encouraging students to participate in short and long-term study abroad programs, by welcoming international students to complete part or all of their degree programs with us and by building collaborative research opportunities for staff with our partner universities. We currently have agreements and run study programs in various locations around the world and were delighted to begin a new partnership with Foreign Trade University in Vietnam in 2016.

As part of our support activities, we arrange various cross-cultural events at the university and in the local area to allow students to interact and develop new friendships. We also have a team of students to help international students adjust to life in Japan by advising them on study skills, daily life and cultural issues.

Through our various activities, we hope to make Onomichi City University a truly international institution with globally minded students.



国際交流センター
小林 ドーン

本学の海外交流協定校一覧

本学が国際交流協定を締結している海外の大学は、ベトナム1校、中国3校、台湾4校、アメリカ合衆国1校です。アメリカ合衆国のポートランド州立大学も協定校ですが、本学からは夏季短期語学研修のみを行っています（本学が行っている短期海外語学研修一覧をごらん下さい）。

大学名	国・地域	留学の期間・内容
貿易大学	ベトナム	短期語学研修
		交換留学
武漢工程大学	中国	—
大連外国語大学	中国	短期語学研修
		交換留学
首都師範大学	中国	短期語学研修
		交換留学
開南大学	台湾	短期語学研修
		交換留学
景文科技大学	台湾	交換留学
国立台北教育大学	台湾	交換留学
国立嘉義大学	台湾	ダブルディグリープログラム
		交換留学

※ダブルディグリープログラム：

本学と外国の大学が、教育課程の実施や単位互換等について協議し、双方の大学がそれぞれ学位を授与するプログラム。



貿易大学（ベトナム）



景文科技大学（台湾）



開南大学（台湾）



嘉義大学（台湾）



台北教育大学 (台湾)



首都師範大学 (中国)



ポートランド州立大学 (アメリカ合衆国)

国際交流イベント



留学生交流会



大学祭「翠郷祭」での屋台出店



倉敷美観地区へのDay Trip



留学生報告会



英会話サロン「チャッターボックス」

本学が行っている短期海外語学研修

短期海外語学研修では、渡航前の事前学習を行った上、本学の教職員が引率します。

どの研修についても、平日の午前中は授業で、午後は観光・文化体験・地元の企業やNGOへの訪問・自由時間などの内容です。土曜日と日曜日にはホストファミリーや現地の学生と過ごします。また、現地の学生と交流する機会を設けています。

費用については、大学後援会から助成金があります。金額は、研修費用の約1/3です。

研修先	研修先国・地域	研修時期 & 期間
ポートランド州立大学	アメリカ合衆国・オレゴン州	8月中旬～9月上旬 26日間
首都師範大学	中国・北京市	8月 2週間または3週間
大連外国語大学	中国・大連市	8月 2週間または3週間
開南大学	台湾・桃園市	8月 2週間
シドニー大学	オーストラリア・シドニー	2月～3月 4週間

※現在、貿易大学とのプログラムを調整中です。



開南大学 (台湾)



シドニー大学 (オーストラリア)



ポートランド州立大学 (アメリカ合衆国)



貿易大学 (ベトナム)



シドニー大学 (オーストラリア)



ポートランド州立大学 (アメリカ合衆国)



アメリカ（ポートランド州立大学）
夏季語学研修参加

美術学科2年
木下 愛

アメリカへの留学を通して、私が体験し感じたこと、これからの学習や生活等に生かしていきたいと思ったことは「コミュニケーション力」についてです。留学して始めの頃はホストファミリーが話しかけてくれても会話を広げたり楽しんだりできませんでした。

日本には「察する」という文化がありますが、海外ではそうはいきません。「察する」文化が存在していないので自分の感じたこと、意見ははっきり述べ、かつコミュニケーションを通して相手をより理解していくのです。

私はそのことに気づいてから、自然とホストファミリーとの会話も弾むようになり、「君の話は面白い」とファザーに言われるまでになりました。特に意識していたわけでもないのに英語のコミュニケーション力が向上していたのです。いかに積極性を持って相手と会話をするか、話題を広げ、会話を楽しむか＝「コミュニケーション力」を向上させるかが英語を習得する上で最も大切なことだということです。コミュニケーション力の向上は様々な面でプラスの効果を発揮してくれるのではないかと思います。

グローバル化の中で、いかに社会に参加し自分の意見や考えを効果的に述べていくかは、私たちにとって大きな課題とも言えます。「察する」だけではより深く理解し得ないことも数多くあります。今後も英語の習得はもちろん、将来的な自分の活動の幅を広げていくためにも、この「コミュニケーション力」を高めていけたらと思います。



中国（首都師範大学）
夏季語学研修参加

経済情報学科4年
高橋 佑輔

私は恵まれた領土の広さや人口の多さなど、他の国以上に興味を持っていた中国に行きました。

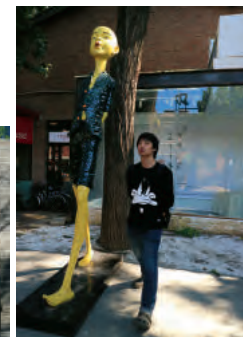
日程は平日の午前中は授業、午後は観光、休日は丸一日観光でした。午前中に習ったことを午後ですぐ使えるのでもとても実践的な2週間でした。

実際に中国に行って、日本とは違う特徴がありました。例えば多くの施設が日本とは比べられない程に大きく、身分証明さえ出来れば入館無料の施設も多くありました。日本との違いは、多い人口や広い土地、様々な民族、文化流入を感じさせるものでした。

語学についても大変良い機会が多くありました。タイ人の男の子に英語で洗濯機の使い方・料金の払い方・場所・マナーを教えてもらったり、授業でドイツ人の女の子と中国の歌を歌ったり、書ききれない程の経験をし、異文化交流が出来ました。中国人だけでなく様々な国の人と接することが出来たので、他の留学先より意義のある一日一日を送れたと思っています。

今回私は多くの事にチャレンジ出来ました。私にとって理解できない言語を使うことは困難でしたが、言葉の壁を越えて会話することは私の人生にとってかけがえのない貴重な経験になりました。中国と緊張関係になることもありますが、国単位の話であって個人には当てはまらないことをとても思い知らされました。同時に大学生になっても小さい世界にとどまっている自分を恥ずかしく思いました。真のコミュニケーションとは、グローバルとは何か？また今回の経験で考察し直したいです。

行く前より中国に関心を持てるようになりました。また機会があったら行きたいです。



5つの柱による進路支援

●キャリアサポートセンター

キャリアサポートセンターでは、求人情報、企業情報、企業説明会の情報など「就職活動に関する情報」や、進学や資格取得など「進路全般に関する情報」を提供しています。学生の進路相談に応じるスタッフが常駐し、進路相談のほかに履歴書やエントリーシートの添削、面接指導など進路に関することなら何でも相談に応じています。パソコンの設置や、専門のキャリアカウンセラーを配置し、いつでも学生が利用できる体制を整えています。

●キャリア開発委員会

キャリア開発委員会では、定期的に就職ガイダンス、セミナーを開催することにより、学生の就職意識の高揚と、スムーズな就職活動を支援しています。地元企業との懇談会や学内合同企業説明会を開催し、学生の就職活動がより具体的になるよう支援をしています。

●課外講座による実践的指導

全学年を対象に課外講座を開講することにより、学生の進路選択、就職活動に向けた実力を養成しています。

・公務員受験対策講座

公務員希望者を対象に「教養・総合演習コース」にて実力の向上に努めています。

・簿記資格対策講座

民間企業希望者に日本商工会議所簿記資格取得の支援をしています。

・情報技術資格対策講座

MOS・Word、MOS・Excel、の講座を開設しています。

●教職員も積極支援

全教職員が、チューター制をはじめとする少人数教育によりきめ細やかな指導を行うとともに、求人開拓や関係強化のための企業訪問を実施して、積極的に支援しています。

●キャリア教育

授業科目として、1年生向け「キャリア形成入門」と、2・3年生向け「キャリア形成演習」「インターンシップ」を開講しています。「キャリア形成入門」では、卒業後の社会的自立に向けて、自分らしい生き方や働き方を考え、主体的に取り組む姿勢を身につけます。「キャリア形成演習」では、実際の企業での経営課題にチームで取り組み、プレゼンテーション資料を作成し発表することで、就業力や社会人基礎力を身につけます。「インターンシップ」では、実社会での就業体験が実りあるものとなるよう、事前学習・事後学習を通じて、職業観・就業意識を養い、適切な職業選択に役立てることが出来ます。



キャリアサポートセンター

八坂 徳子

進路支援の取り組み

進路選択は学生の人生に大きな影響を及ぼす問題です。

やりたい仕事に就き、いかに自己実現できるかを基本とし、一人一人に合わせた適切な進路指導をします。

近年、企業の採用意欲が高まり、売り手市場と言われる就職環境ですが、一方で就労意識が低いままで入社したり、入社後にミスマッチが発覚したり、若者の早期離職が社会問題となっています。本学では社会人基礎力を育成するカリキュラムを取り込んだガイダンスやセミナーを開催し、就職活動を円滑に行うための知識や技術の習得だけでなく、卒業後も自己の資質を向上させ職業的に自立が図れる能力の育成をしています。教職員が一体となり、就職相談、求人開拓、情報提供を通して学生の進路選択を万全のサポート体制で支援していきます。

・インターンシップ

2016年度は75名がインターンシップに挑戦しました。本学では単に企業等での就業体験だけでなく、事前学習、事後学習、報告会を組み合わせた1年間のプログラムとしています。インターンシップを通じて、学生の専門研究分野に関する認識を高めるだけでなく、職業観・職業意識を育成し、適切な職業選択を促進します。

・就職実践講座

3年生を対象に「就職実践講座」を開講しています。就職活動を円滑に行うための知識や技術の習得だけでなく、社会人基礎力を育成できるカリキュラムとなっており、卒業後も自己の資質を向上させ職業的に自立を図れる能力を育成する内容となっています。

・学内企業説明会

2017年3月に大学主催合同企業説明会をびんご運動公園サブアリーナで開催しました。本学学生にとって企業の採用担当者との貴重な面談の機会となり、就職活動への意欲を推進できました。学内の教室を使った個別企業説明会も実施しており、幅広く情報を収集できる機会を学生に提供しています。

・就職ガイダンス・業界セミナー

2年生、3年生を対象に企業の担当者を招いて学内業界セミナーを開催しています。学生の職業観や勤労観の育成を図り、学生が産業や職業に関する理解を深めるよい機会となっています。公務員や教員志望者へは「地方公務員ガイダンス」や「教員採用試験説明会」を実施しています。業務内容や試験制度の説明のほか、現役合格者より採用試験への取り組み方などを聞く体験報告会を開催しています。

・美術学科向けキャリア開発セミナー

美術関連の職業で活躍している方を講師として招き、美術業界の具体的事例を紹介してもらいました。これからの時代の美術作家像やその活動の広がりについて具体的に考察する機会を提供し、新しい領域を切り拓いていける専門性と幅広い視野を育成しています。

・就職・進路相談

キャリアサポートセンター職員や専門のキャリアカウンセラーによるエントリーシートや履歴書添削、面接練習を含む個別相談・指導を行っています。

・企業との意見交換会

企業の採用担当者を招待して意見交換会を開催しています。2016年度は備後地区企業と岡山地区企業との意見交換会を実施しました。学生と教職員が一体となって本学の概要、各学部の特徴、産学連携活動について紹介をしています。懇親会では名刺・意見交換などを行い、学生の指導・支援に活かしています。



就職状況

平成28年度卒業生の就職率(就職希望者のうち、就職し得たもの)は94.7%と、近年の企業の採用意欲が改善されたこともあって昨年度(94.7%)と同水準となっております。内定者数も248名となっており、昨年同時期(233名)に比べて、15名も上回りました。

(1) 地域別動向

就職先を地域別にみると、就職者248名中141名(約57%)が広島県、岡山県等の中国四国地域へ就職をしています。また東京都と大阪府の合計が約20%、出身者が多い兵庫県・静岡県・愛知県、福岡県を中心に九州地方への就職者もいます。

これは、地元(中国・四国地域)の発展に貢献できる人材を輩出する、大都市圏でも活躍できる人材を育成する、これらを就職支援の方針として重点的に取り組んできた結果とも言えるでしょう。

本学は、広島県に所在していますが、広島県外の出身者が7割を占めています。このため学生を出身地に帰らせる(Uターン就職させる)ことも使命の一つとして取り組んでいます。

(2) 業種別動向

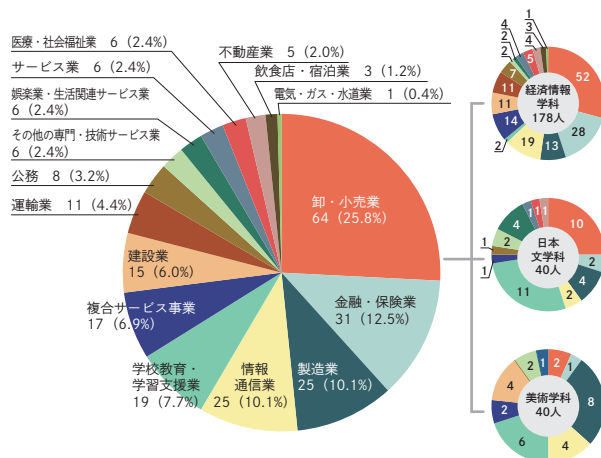
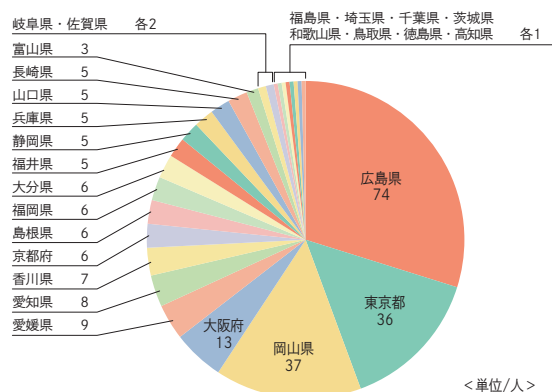
就職先を業種別にみると、金融・保険業、卸・小売業、製造業、情報通信業で50%を占めています。これらの業種は本学学生が志望する人気業種です。今年度は教員志望者が多く学校教育・学習支援業への就職者が19名となっており、昨年度(7名)よりも12名増、農協や郵便局などの複合サービス業も17名となり、昨年度(8名)よりも9名増となっています。

学科別にみると、各学科の特色が現れた結果となっています。経済情報学科は、金融・保険業、情報通信業への進出が目立っています。日本文学科は、教員志望者が多く学校教育・学習支援業への進出が見られます。美術学科は、デザイン業、製造業(印刷会社)、WEBデザイン、ゲームソフト、映像などの制作業、中学校・高等学校の美術教員など自らの専門性を活かした分野への進出が見られます。

経済情報学科 98.3%

日本文学科 88.9%

美術学科 83.3%



主な就職先（過去3年間）

経済情報学部経済情報学科

- 建設業：島根電工 セキスイハイム中四国 積水ハウス ソルコム 大東建託 大和エン지니어リング タマホーム 富島建設 西日本電気テック 平成建設 ミサワホーム 四国 ライフステージ
- 製造業：明石被服興業 アタゴ オーエスジー 岡本工機 クリナップ サンエス シービー化成 ジーベック ジェイ・エム・エス 自重堂 シンコー印刷 ダイキョーニシカワ 大同紙工印刷 タカラスタンダード 中国木材 長府製作所 常石造船 西川印刷 ニチマン 日本電産シンボ ニプロ 萩原工業 ヒルタ工業 福岡工業 古川製作所 前田工機 向島ドック やまやコミュニケーションズ リョービ
- 電気・ガス・熱供給・水道業：広島ガス
- 情報通信業：アクトシステムズ エースシステムズ エン・ジャパン 大塚商会 岡山情報処理センター さくらケーシーエス 山陽新聞社 システナ ジャパンケーブルキャスト トスコ 日本システム技術 日本ソフトウエア ノバシステム 福井コンピューターホールディングス ボケラボ ミウラ みずほトラストシステムズ 両備システムズ
- 運輸業：アートコーポレーション 愛知陸運 岡山土地倉庫 神原汽船 サカイ引越センター 佐川急便 シーゲートコーポレーション トモテツグループ 西日本旅客鉄道 日本通運 東日本旅客鉄道 ヒロクラ マツダロジスティクス 山丸汽船 リベラ
- 卸・小売業：栄工社 大田鋼管 カイタック 小西共和ホールディング 外林 大正富山医薬品 西原商会 日工 北陸電機商会 本多 矢崎総業 渡辺パイプ 青山商事 アクセ エブリイ コスモス薬品 ザグザグ サンエー 山陽マルナカ セブン・イレブン・ジャパン ダイレックス 天満屋 ドラッグストアモリ ナフコ 仁科百貨店 ハローズ ヒマラヤ 広島マツダ ファミリーマート プレみまわり マックスバリュ西日本 やずや ヤンマーアグリジャパン ユナイテッドアローズ
- 金融・保険業：青山キャピタル 楽天カード 千葉県信用保証協会 中国総合信用 兵庫県信用保証協会 広島県信用農業協同組合連合会 小浜信用金庫 鹿児島相互信用金庫 きのくに信用金庫 京都北都信用金庫 呉信用金庫 島田信用金庫 しまみ信用金庫 高岡信用金庫 但馬信用金庫 玉島信用金庫 豊田信用金庫 豊橋信用金庫 兵庫信用金庫 広島みどり信用金庫 水島信用金庫 伊予銀行 愛媛銀行 大分銀行 香川銀行 紀陽銀行 熊本銀行 佐賀銀行 山陰合同銀行 四国銀行 島根銀行 十八銀行 中国銀行 トマト銀行 広島銀行 福邦銀行 宮崎銀行 山口フィナンシャルグループ ゆうちょ銀行 東海労働金庫 笠岡信用組合 信用組合広島商銀 備後信用組合 両備信用組合 岩井コスモ証券 SMBC日興証券 静岡東海証券 損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険 第一生命保険 日本生命保険相互会社 明治安田生命保険
- 不動産業：合人社計画研究所 住友不動産販売 タカハシ ニッショウ ハウスドゥ
- 専門・技術サービス業：税理士法人石井会計 小泉産業 税理士法人坂本&パートナー 進研アド 税理士法人譚澤会計事務所 総合オリコミ社 長谷川会計事務所 税理士法人広島経営センター
- 宿泊業、飲食サービス業：あきんどスロー アパホテル ジェイアールサービスネット広島 JR九州フードサービス ジョイフル すかいらーく
- 生活関連サービス業・娯楽：ヴァンサンカン 近畿日本ツーリスト中国四国 ダイナム フジ・トラベル・サービス プローバ
- 教育・学習支援業：アクシア 鈴鹿英数学院 星煌学院 ビーシー・インクス ヒューマレッジ ロイヤルコーポレーション
- 医療・福祉：医療法人質新会 医療法人社団進興会 社会福祉法人すみれ福祉会 公益財団法人正光会 医療法人社団ヤマナ会 日本年金機構
- 複合サービス業：板野郡農業協同組合 大井川農業協同組合 越智今治農業協同組合 香川県農業協同組合 ごとう農業協同組合 全国農業協同組合連合会 たじま農業協同組合 長崎県央農業協同組合 能美農業協同組合 兵庫西農業協同組合 福山市農業協同組合 富士市農業協同組合 松山市農業協同組合 三原農業協同組合 日本郵便
- その他のサービス業：北九州商工会議所 ジェイアール西日本メンテック Visionary 山口県商工会連合会
- 公務：愛媛県警察 岡山県警察 京都府警察 警視庁 静岡県警察 鳥取県警察 兵庫県警察 広島県警察 岡山県 岡崎市 隠岐の島町 尾道市 小浜市 玖珠町 倉敷市 佐世保市 庄原市 太子町 早島町 備前市 福山市 輪之内町 岡山市消防局

芸術文化学部日本文学科

- 建設業：Tamada 工房 ミズケン
- 製造業：イハラニッケイ化学工業 岡本工機 キャステム サンエス 自重堂 新興工業 星光社印刷 タカオ 西川印刷 八天堂 ヒロボー 古川製作所
- 情報通信業：コネット シティ・コム ロントラ
- 運輸業：両備ホールディングス
- 卸・小売業：大田鋼管 山陽メディアサプライズ 日工 エディオン エブリイ 小野 オレンジマート カインズ 倉敷家具 コスモス薬品 ザグザグ 山陽マルナカ ジェイアイエヌ ハヤシ ハローズ 広川 プレみまわり 文苑堂書店 ミスターマックス
- 金融・保険業：備後信用組合 ゆうちょ銀行 保険デザイン 明治安田生命保険
- 不動産業：合人社計画研究所 タカハシ
- 専門・技術サービス業：エイエイビー KG 情報 総合オリコミ社 ディレクトリー
- 生活関連サービス業・娯楽：エアトラベル徳島 彩苑 社会福祉法人東京福祉会
- 教育・学習支援業：愛媛県教育委員会 広島県教育委員会 岡山県教育委員会 銀河学院中・高等学校 島根県教育委員会 下関市立図書館 兵庫県教育委員会 アクシア ジェイ教育システムズ 秀英予備校
- 医療・福祉：日本ステリ ベネッセスタイルケア
- 複合サービス業：日本郵便
- その他のサービス業：シンコースポーツ WDB
- 公務：尾道市 四国中央市 国東市

芸術文化学部美術学科

- 建設業：インタースペース 近藤工業 三和鉄構建設 積水ハウス 創美 福富建設
- 製造業：アート印刷 アンビデックス オネスト 勝矢和哉 協和印刷 新聞西製鐵 大和ツキ板産業 東洋額装 フィセル 富士ファニチア 古川紙工 プンカ巧芸社 マインドウエイブ みやなか工芸
- 情報通信業：RCCフロンティア クレイジーディバイ ココネ スーパー・ブレーション スタジオパストラル 東映東京撮影所 モブキャスト ユフォーテーブル
- 卸・小売業：浦上ふとん店 タンスのゲン ヘンミ 丸久 ユーホー
- 金融・保険業：西中国信用金庫 筑波銀行
- 専門・技術サービス業：アートデザインセンター いづみ企画 空気 グリーンフィールドグラフィック クリエイティブスタジオグラインド 三広 ジャム・デザイン ダイケン ハイヴ パウコミュニケーションズ
- 教育・学習支援業：学校法人尾道学園 香川県教育委員会 広島県教育委員会
- 複合サービス業：日本郵便
- その他のサービス業：岡山県商工会連合会 宗教法人久昌寺 ワンストップ・イノベーション



(株) 山陽新聞社

経済情報学科

井上 隼汰

出身校：
岡山県立総社南高等学校

私は就職活動が始まった当初から、内定をいただいた企業に就職したいと考えていたわけではありません。きっかけは、説明会に参加している中で、たまたま学内の合同説明会で、その企業の話聞いたことでした。最初は、自分の地元の企業が尾道まで来てくれているから聞いてみようといった軽い気持ちからでしたが、そこで興味を持ったので、今度はその企業の単独説明会に参加しました。その単独説明会でお話をさせていただいた社員の方の仕事に対する積極性や考え方についての話がとても心に残り、自分もこの企業でこのような方々といっしょに働きたいと考えるようになりました。

そう考えるようになったのが4月であり、またマスコミ関係の企業であったため、時事問題や課題作文などの試験対策を始めるには遅い時期でした。しかし、どうしてもその企業に就職したかったため、キャリアサポートセンターに相談に行きました。キャリアサポートセンターの方は、「今からは難しいかも知れないけど、やるだけやってみよう。」と言ってくださり、面接練習や入社志願書の添削、作文の書き方など丁寧に指導や相談に乗ってくださりました。課題作文の出題傾向や面接練習でもより強く述べるべきポイントなどを教えてくださり、とても参考になりました。

そして迎えた一次、二次、最終と3回の試験では、すべて個人面接だったため、自分のその企業に入社したいという気持ちややりたい仕事などをじっくりと聞いてもらうことができました。課題作文も指導していただいたことを基に、自分なりに一生懸命に書くことができました。その結果、おかげさまで内定をいただくことができました。就職活動では多くの人の支えや助けを受け、このような結果をいただくことができました。就職活動では、私がそうだったように厳しいこともありますが、自分のことを助けてくれる人や自分の考えや気持ちを聞いてくれる人は必ずいます。くじけそうになった時には、そういったことを思い出して頑張ってほしいと思います。



佐世保市

経済情報学科

柴田 愛未

出身校：
長崎県立佐世保西高等学校

3年生の12月から本格的に公務員試験に向け勉強をし始めた私は、他の受験生からすると、ものすごく遅いスタートでした。就職というものを持たず漠然と考えていた私にとって、このスタートダッシュの遅れは致命的なものでした。身近に公務員試験を受けた人も、受ける人も少なく、圧倒的に情報が不足していた中で、福山の予備校に通いながら死に物狂いで勉強しました。1日の平均勉強時間は11時間を超え、社会へ出る前の厳しさを痛感したように思います。友人たちが次々と合同企業説明会や書類審査、面接、最終面接、内定という言葉と並べるときに、民間にすればよかったと掛けそうになることもありました。

公務員試験は様々な職種によって試験日が異なるので、チャンスはありますが、倍率はどこも高く、これだけ勉強したから受かるという保障もなかったため、私は興味のある地元の銀行を2社決め、就職活動を並行して行いました。民間の企業によっては公務員試験を考えているということを伝えるとあまり印象がよくないかもしれませんが、私の場合は最初の面接のときからその旨を伝え、それでも2社とも内定をいただくことができました。

希望していた市役所の試験にも合格し、とくに大きな挫折もなくスムーズに就職活動を終えることができたのは、スケジュール管理と、自分のペースを崩さなかったこと、諦めなかったこと、そして、自分はできるという自己肯定力のおかげだと思っています。これからの人生を決める大きな分岐点を迎えるにあたり、たくさん悩み、葛藤することが自分を成長させてくれます。そして、最後は自分が人生の中で何を一番優先させたいのかを考え答えを出すことが大切だと思います。就職活動は早すぎて損をすることはありませんが、遅いと焦り、不安になり、結果が納得のいくものではなかったと「もっと早く始めておけばよかった」と後悔することになります。自分から動き出す行動力と決断力を大切にしてほしいです。

広島県立広島北
特別支援学校

日本文学科

神田 桃子

出身校：
広島県立忠海高等学校

私は高校生の頃に教員を目指しはじめ、このたび運良く合格することができました。大学生活では講義やボランティアで子どもについて考える機会が多く、教員になりたいという意思がより高まっていきました。

しかし4年生になると友達の就職先がどんどん決まっていき、試験に落ちた時のことを考えては不安になるばかりでした。学習教材を扱う出版社や学習塾への就職を考えた時期もありましたが、この先出会うであろう生徒たちのことを考えたり、障がいをもっている子どもと実際にかわったりすると「やっぱり学校で働きたい」と思い、なんとか乗り切ることができました。

筆記試験の勉強方法は人によって様々ですが、私は暗記よりも自分の言葉でかみ砕いて理解することを重視していました。さらに、大学の先生が毎週勉強会を開いてくださったので、それに参加していました。模擬授業の対策は特にしませんでした。普段の講義のなかで「この教材はどんな切り口で授業したら生徒が面白いかな」と考えていました。本番でわくわくしながら授業導入できたことが良かったのではないかと思います。面接については、キャリアサポートセンターで過去の面接内容を教えて頂き、自分の考えを深めておきました。

また、唯一後悔していることが1・2年生の時の過ごし方です。当時の私はアルバイトや読書や友達と遊ぶことしかせず、実のない生活を送っていました。今になって、取りたい資格や参加したい教育セミナー、その他やりたいことが出てきて悔しい思いをしています。

これから大学生活が始まる皆さん、一度きりと自分と向き合って、どんな風に4年間過ごしたいのか考えてみてください。経験さえすれば良いということはありませんが、きっとその過ごし方がこの先の就職活動にも生きてくると思います。



新興工業株式会社

日本文学科
大島 彩佳出身校：
岡山県立倉敷古城池高等学校

就職活動は、苦手なことの連続でした。とくに履歴書での自己アピール、面接試験は昔からのもので、ハードルの高いものでした。

履歴書は自分をアピールするためのものなので、自分を振り返って経験を思い出し、その経験からどんなことを学んだか、学んだことをどう生かしているかを相手に伝えなければいけません。しかし、私はわかりやすく何かのリーダーや特別な役割をしてきたことがなく、自信がありませんでした。

いまになって分かったことは、開き直ればよかったということです。就活講座やサイトで取り上げられる例は理想で、現実とは違います。私自身、学生生活で学んだことに書いた項目は自分ではこんな年になって、と思うような小さなことでしたが、それくらいしか書けるものがないのが現実です。周りは気にせず、こんなことをやりました、と自分がはっきり言えることが書けたらいいと思います。

面接試験もとても苦手なことです。学内の面接練習や就職試験のときにも必ずリラックスしてねといわれたくらい、緊張してがちがちなっていました。

これに対しては、実際に何度か経験して自分がどんな状態になるのか、どんな対応ができるか知っておくのが一番だと思い、キャリアサポートセンターで2回ほど面接試験の練習をお願いしました。緊張しすぎることは分かっていたのですが、どう対処すればいいのかが分からなかったからです。練習の結果、緊張していることを先に伝えておくことや、言葉に詰まったときは一言ことわって時間をもらう、などの対処方法を考えて面接試験に臨みました。そうして試験を受けていく中で、少しずつではありましたが、話すことにも慣れていきました。

就職活動は、苦手なことの連続でした。しかし、この機会で自分と向き合うことができたり、困ったときに頼りにした人との関わりができてりして、とてもいい経験になりました。



アート印刷株式会社

美術学科
金本 優出身校：
広島県立尾道北高等学校

私は就職活動を始めたとき、とても不安を感じていたのを覚えています。今年は短期決戦と、始める前から情報が回っており、就活初日から本当にこの調子で大丈夫なんだろうか、と焦りばかりが募って仕方なかったのです。考えていても仕方ないと思った私は、とにかく行動してみることにしました。実際に企業へ足を運び、自分の目で見て回らないと分からないことだらけだと感じたからです。今思えば、この「とにかく行動しよう」という思いが私の就活をいい方向に導いてくれたのだと思います。

まず、希望する業種の企業訪問をすることから始め、近場で開催される合同説明会にはできるだけ参加するようにし、不安なことがあれば学校のキャリアサポートセンターに相談しに行くようにしました。始まったばかりであったせいか、参加する説明会や訪問会の大半は参加者が少ないものばかりでした。しかしそのお陰で、企業の方のお話をじっくり伺うことができ、会話や質問も気軽に行えました。そうしていくうち、就活への不安が消えていったのです。就活は苦しいことではなく、新しい世界を知る機会なのではないか…と思い始めたからです。

それからは積極的に説明会に参加するようになりました。また面接がある際には、必ずキャリアサポートセンターに足を運びました。面接では、自分の意思をしっかり持って誠実に受け答えすることを意識し、説明会や訪問会で感じた楽しさも忘れないようにしました。そして私は無事に、第一志望の企業から内定を頂くことができました。

未知の世界に足を踏み入れることは、最初は不安なものです。しかしぜひ行動してみると、それは楽しいことであつたりもします。新しい発見の連続であり、また普段得ることのできない情報も得ることができます。就活とはそういう事を知る良い機会だと思います。

また、就活中に不安に感じることもあっても、力になってくれる人は沢山居ます。そういう人を頼ることも大切であると私は思いました。

就活は様々な不安との戦いになると思いますが、自分や周りの人を信じて積極的に行動してみてください。



福山市立駅家中学校

美術学科
蒨山 百合乃出身校：
京都府立北嵯峨高等学校

私は大学三年生の秋、これから民間企業の就職活動をするか、教員採用試験の勉強をするか、あるいは両立するかで非常に悩んでいた。その頃はどの道を選択しても未来が見えず不安ばかりだった。大学のキャリアカウンセリングを受けたこともあった。そんな時、教育臨床実習で現場の先生方と初めて関わり、美術を通じて生徒の人格形成に携わりたいと考え、教員採用試験の勉強に絞ることに決めた。

試験勉強は二年生の頃から大学の教員採用試験対策講座というのを受けていたが、何となく受けていた面が大きかった。三年生になり、ようやく参考書を取り寄せ過去問を解くと、年代別や自治体別で出題傾向が大きく異なることを知り、そこからさらに自分の受験する自治体を絞って勉強を進めた。私は、本番で緊張してしまうタイプなので、自治体を1つに絞らずに複数受け、場馴れした状態で本命の自治体を受験できるようにした。また、採用試験までの大まかな勉強のスケジュールも組んだ。試験までは時間との戦いなので、計画的に効率よく勉強することを心がけた。

就職活動でも教員採用試験でも、大切なことは自分の軸を持っていることと、情報収集を怠らないことである。どのような教師になりたいか、どうして教師になりたいか、といったことが自分の中で定まっていなければ面接や集団討論で通用しないだけでなく、勉強へのモチベーションも続かないだろう。また、情報収集は結果を大きく左右する。私は本命の自治体に集中するあまり、他の受験する自治体の下調べを疎かにしていた。特に大阪府は一次試験で数処理があるのだが、調べておらず、あまり勉強せずに受けてしまった。人生を左右するこの1年間は、些細なことでも綿密に情報集めをするべきである。それは、メディアだけでなくOBの方や先生方のお話を伺うなど多角的に行うと良い。

最後に、もし教師を目指すのであれば、面接官が「この人と一緒に働きたい!」と思ってくれるような態度を心がけてみて欲しい。

21世紀と共に歩む尾道市立大学は、時代の要請に対応し、物事に、より創造的に立ち向かえる優れた創造性や判断力、それに裏付けられた専門的知識・能力や高い見識などの育成に特化した実践的な教育を行う大学院修士課程を設置しました。学部教育で培われた専門的素養のある人材を、よりレベルを高めた学習と研究への取組により、高度の能力を有する専門的職業人や研究者等へ、広く時代と地域の要請に応えられる人材を育成する研究拠点を目指します。

経済情報研究科 経済情報専攻 (修士課程)

入学定員 8名
修業年限 2年
学 位 修士(経済情報)

経済と企業活動のグローバル化と少子高齢化、さらに情報化社会の到来等により、学習しなければならない事柄の高度化、専門化や多岐化が進んでいます。一方で学際的な研究が必要であり、そのことが大学院教育に新しい課題を提供しています。まず、大学院経済情報研究科(修士課程)は、経済・経営・情報科学という本来は異なった3分野の連携による高度な専門教育を提供し、学際的な研究を可能にしています。しかも、地域企業の経営者・就業者、地域行政担当者、および商業科教員等の社会人のためのリカレント教育や、情報処理能力に優れた人材の養成や税理士志望者の受入れ等の要請にも応えることを目指しています。すなわち、学問的裏づけがあり、かつ実践的問題解決能力をも備えた人材の育成が、本研究科の教育の狙いとなっています。なお、資格取得等に関しては、修士学位取得者に対する教職課程専修免許状(商業)と、税理士試験における「修士学位による試験科目免除」制度があります。これには、商業に関する教科の修得等、一定の基準を満たせば、資格取得が可能となっています。

日本文学研究科 日本文学専攻 (修士課程)

入学定員 6名
修業年限 2年
学 位 修士(日本文学)

大学院日本文学研究科には、日本文化の成り立ちと現在のあり方を考える、日本文学・日本語学・漢文学の三つの研究分野があります。大学院に進学すると、そのうちの一つを自分の専門分野として研究を進めていくことになります。特定の領域、テーマを深く追求しようとするほど、いつのまにか視野が狭くなり、せっかく身につけた知識がどのように社会とつながっているのか、つながっていくのかを見失ってしまいがちです。日本文学研究科では、どの領域を専攻する人であっても、三つの専門分野に関わる高度な知識を身につけられるようにカリキュラムが編成されています。また、日本文化のあり方を様々な角度から捉え直すための国際感覚、異文化理解の視点を重視し、外国語、外国文学、比較文学、哲学、心理学など幅広い分野の科目が設けられています。さらに、論文・報告なども含め、言葉をあつかう訓練として、文芸創作の実践を行う機会も用意されています。大学院の修了者には、修士課程の二年間で身につけた広い視野、論理的思考力、専門的知識と言葉をあつかう技能を活かして、教育・文化活動などで主導的な役割を担うことが期待されています。

美術研究科 美術専攻 (修士課程)

絵画研究分野(日本画・油画)、デザイン研究分野
入学定員 12名
修業年限 2年
学 位 修士(美術)

美術研究科では持続する創作活動を行うことができるよう、学部と大学院修士課程とを合わせた6年間のカリキュラムを一貫し、高度な創作能力を育成するための体系的な教育を行っています。授業科目は、芸術に関する幅広い視野と識見を養うため芸術の理論・歴史等を教授し、実技と演習によって構成される研究分野開設科目と合わせて美術の理論と実践の有機的な連携を図っています。

絵画研究分野

- 日本画と油画に関する制作・研究を行います。
- 日本画では古典作品の表現、技術および材料の理解と造形感覚を修得させ、各自の個性的な創作力の育成を図ります。
- 油画では、創作活動の充実を図るため各自のテーマを踏まえ、独自の絵画表現を追究し、また必要となる技法や素材の研究を促します。

デザイン研究分野

デザインの表出のあり方には、現代の社会構造の把握が必要です。好むと好まざるに関わらず、広い視野と柔軟、且つ冷静な洞察力を養う能力と訴求性のある表現力の育成を目的とします。

指導教員の研究分野を軸に幅広く対応します。

Production
Chief Editor
Art Direction
Editorial design

Onomichi City University Committee of Public Relations
FUJIKAWA Yoshikazu (Professor: Japanese Literature course)
TAKAOKA Yoh (Associate professor: Arts & Design course)
ONO Tamaki (Associate professor: Arts & Design course)
TAKAOKA Yoh (Associate professor: Arts & Design course)
AOI Noriko (Clerical Staff: Community Collaboration & Outreach Office)
HIRABAYASHI Misaki (Onomichi City University Graduate Student: Arts & Design course)
EGAMI Mari (Onomichi City University Graduate Student: Arts & Design course)
HASEGAWA Saya (Onomichi City University Graduate Student: Arts & Design course)

Editor

HAYASHI Naoki (Associate professor: Economics, Management & Information Science course)
HORIE Harumi (Clerical Staff: Planning & Public Relations section)
MORISHITA Ikuya (Clerical Staff: Planning & Public Relations section)
MIKAMI Sanae (Clerical Staff: Planning & Public Relations section)
NODA Naoyuki (Contract Teacher: Arts & Design course)

Photo provider

Campusmap Design TAKEUCHI Ayako (Alumna, Onomichi City University Graduate School Arts & Design course)
Accessmap Design HASEGAWA Saya (Onomichi City University Graduate Student: Arts & Design course)
Print ART PRINTING co., Ltd

©Onomichi City University 2017

尾道市立大学周

ONOMICHI CITY UNIV

尾道市立大学正門



尾道市立大学

久山田水源地

びんご運動公園

至広島

J R 山陽新幹線

門田トンネル

メイト

ホームセンター
ユーホー

門田町

平原

イオン

尾道市立大学

〒722-8506

広島県尾道市久山田町1600-2

TEL : 0848-22-8311

FAX : 0848-22-5460

E-mail : jimukyok@onomichi-u.ac.jp

交通アクセス

JR山陽本線「尾道駅」

バスターミナル3番のりばより

「尾道市立大学」または「陽光台」行き

バスで約20～40分 「尾道市立大学」下車

JR山陽新幹線「新尾道駅」

バスターミナル3番のりばより

「尾道市立大学」または「陽光台」行き

バスで約15分 「尾道市立大学」下車

尾道市立大学美術館

〒722-0045

広島県尾道市久保3-4-11

TEL/FAX : 0848-20-7831

MOU Blog : <http://moushirakaba.blogspot.jp>

サテライトスタジオ

〒722-0035

尾道市土堂1-8-5

至広島

J R 山陽本線

辺マップ2017

UNIVERSITY MAP 2017



<http://www.onomichi-u.ac.jp/>